

# 千歳市観光振興計画

空が結ぶまち千歳・水が繋ぐまち千歳

～豊かな自然（水・緑・温泉）と交通アクセスを生かした観光地づくり～

（改定版）

平成28年3月 千歳市





## はじめに

現在、千歳市の観光は、本誌「千歳市観光振興計画」の基本コンセプトである「空が結ぶまち千歳・水が繋(つな)ぐまち千歳～豊かな自然(水・緑・温泉)と交通アクセスを生かした観光地づくり～」を念頭に、計画の基本目標である「回遊性の向上と滞在時間の延長」を目指し、「支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと情報発信」、「観光資源の発掘と有効活用」、「観光まちづくりとおもてなし意識の向上」及び「魅力を効果的に伝える情報発信の継続的な実施」の4つの柱に沿った取組を実施しております。

当市の観光を取り巻く状況を分析しますと、北海道ブランドの人気の高まりやビザ発給要件の緩和など、東京オリンピックが開催される2020年に向けた様々な取組などを背景に、新千歳空港を擁する本市を訪れる外国人観光客は年々増加しております。

また、昨年8月には新たな千歳の観光拠点となる「道の駅サーモンパーク千歳」と「サケのふるさと千歳水族館」が同時にリニューアルオープンし、年間を通じた憩いと賑わいを創出する場になるとともに、千歳の魅力を発信する拠点となっております。

このような中、本市を訪れる皆様をお迎えする体制を強化するため、平成26年4月から「観光スポーツ部」を新たな市の組織として発足させるとともに、市内事業者と連携した海外プロモーション事業を行うなど、交流人口の拡大に向けた新たな取組を実施しております。

本計画は、平成23年度から32年度までの10年間の観光指針として策定しておりますが、当市の観光を取り巻く状況は、このような観光客の動態や観光資源の変化に伴い、計画策定時に比べて大きく様変わりしているのが現状です。

こうしたことから、このたび平成28年度以降の後半5年間に向けた当市の観光指針を現状に合わせて見直しし、合わせて計画目標の進捗状況について整理いたしました。

また、本計画では、「観光消費額」を指標としていますが、観光客の皆様が市内観光施設で消費した金額についても満足度調査を実施し、本計画策定時に設定した消費額と現在の消費額と比較した結果についても掲載しております。

終わりに、今回の見直しに当たり、満足度調査に協力いただきました観光客の皆様を始め、計画の進捗状況を把握するためのヒアリングや貴重なご意見の提出にご協力いただいた観光事業者の皆様にご心からお礼を申し上げます。

平成28年3月

千歳市長



# 千歳市観光振興計画

## 目 次

<b>第1章 計画の位置付けと見直しの考え方について</b> .....	1
1. 計画の目的 .....	1
2. 計画の位置付け .....	1
3. 計画期間と見直しの根拠について .....	1
4. 当市の観光の動向とこれに伴う計画の見直しの必要性について .....	1
5. 見直しの方法について .....	2
<b>第2章 観光の動向</b> .....	4
1. 国内における観光動向 .....	4
(1) 観光を取り巻く社会情勢の変化 .....	4
(2) 国内における観光客の推移 .....	10
2. 千歳市の概況 .....	16
(1) 自然条件、社会条件 .....	16
(2) 観光に関連する環境の変化 .....	20
3. 千歳市内の観光資源・施設の特徴 .....	24
(1) 支笏湖地区の主な観光資源・施設 .....	24
(2) 市街地地区の主な観光資源・施設 .....	30
(3) 農村地区の主な観光資源・施設 .....	36
4. 千歳市に関する観光の状況 .....	38
(1) 千歳市全体の観光入込客数・宿泊客数 .....	38
(2) 支笏湖地区の観光入込客数・宿泊客数 .....	42
(3) 市街地地区の観光入込客数・宿泊客数 .....	44
5. 千歳市を訪れた観光客に対する満足度調査の結果 .....	46
(1) 旅行目的（複数回答） .....	47
(2) 利用交通手段 .....	48
(3) 千歳市内での宿泊 .....	49
(4) 宿泊の理由 .....	50
(5) 事前に参考にした情報（複数回答） .....	51
(6) 訪問場所の期待度・満足度 .....	52
(7) 体験内容の期待度・満足度 .....	53
(8) 千歳市の観光促進に必要な環境整備（複数回答） .....	54

### 第3章 観光振興計画

1. 計画の体系	55
2. 観光振興に対する考え方とコンセプト・目標	56
(1) 観光振興に対する考え方	56
(2) 定住人口増加と交流人口拡大の考え方及び観光振興のサイクル	57
(3) 計画の基本コンセプト	58
(4) 計画の基本目標と施策の柱	58
(5) 計画の指標	59
(6) 計画の推進体制	60
(7) 第2期千歳市商業振興プランとの連携について	60
3. 施策の展開	61
施策の柱1 支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと情報発信	61
(1) 支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと環境整備	63
(2) 千歳観光をけん引する支笏湖地区の効果的な情報発信	66
施策の柱2 観光資源の発掘と有効活用	67
(1) 観光資源の発掘と魅力増進	69
(2) 滞在メニューの充実	71
(3) 食の魅力づくり	73
(4) 市内外の観光資源を結ぶ観光ルート・コースづくり	74
施策の柱3 観光まちづくりとおもてなし意識の向上	76
(1) 観光案内機能の強化	78
(2) 民間事業者のサービス向上	79
(3) 市民のおもてなし意識の醸成	80
(4) 外国人観光客に対応した受入れ体制の整備	81
施策の柱4 魅力を効果的に伝える情報発信の継続的な実施	83
(1) 情報提供ツールの整備	84
(2) 多様な手段による千歳観光のPR	85
4. 千歳市観光振興計画の施策一覧表	87

# 第1章 計画の位置付けと見直しの考え方について

## 1. 計画の目的

「千歳市観光振興計画」は、千歳市が有する特性や優位性を生かした魅力ある観光地づくりを進めるため、千歳観光が抱える課題や、今後10年間の観光振興の基本的な方向性などを内外に示し、観光関連機関・団体や民間事業者、市民の方々と連携しながら、観光振興による地域経済の活性化に取り組むための指針として策定したものです。

## 2. 計画の位置付け

この計画は、市政運営上の最上位計画である「千歳市第6期総合計画」の個別計画の一つであり、昨今の観光を取り巻く環境の変化や今後の動向を踏まえ、平成10年施行の「千歳市観光基本計画」を全面的に改定した千歳市の観光分野における基本的な計画となります。

## 3. 計画期間と見直しの根拠について

「千歳市観光振興計画」の期間は、平成23年度から平成32年度までの10年間としており、計画に基づく各施策の実施に当たっては、10年の計画期間を前期と後期に分けて推進します。

また、当初計画に掲載している計画策定の趣旨では、中間年（平成27年度～28年度）で進捗状況の把握等を行い、必要に応じて事業の再構築など計画内容を見直すこととしています。

## 4. 当市の観光の動向とこれに伴う計画の見直しの必要性について

当市を取り巻く観光の動向については、

- ・新千歳空港の乗降客数が右肩上がり増加し、特に外国人観光客が大幅に増えていることから、千歳を訪れる観光客の動態やこれに対する観光事業者の取組も変化していること。
- ・平成26年度に観光スポーツ部が発足し、スポーツ合宿やグリーンツーリズムなど、交流人口拡大のための新たな取組がスタートしていること。
- ・市内の観光施設や観光資源は、本計画の策定当時と比べると一部様変わりしていること。など、本計画策定時と比較すると現在では観光を取り巻く動向が大きく変化しています。

以上のことから、これら観光客の動向を踏まえ計画における後半5年間の観光への取組を改めて整理するため、中間年である平成27年度に内容を見直すこととしたものです。

## 5. 見直しの方法について

このたびの見直しでは、千歳観光を取り巻く昨今の観光客ニーズの変化やこれに対する観光事業者の取組なども変化していることから、全体を通して必要に応じて記載内容を書き換えています。

また、

「第2章 観光の動向」中の「3. 千歳市内の観光資源・施設の特徴」

及び

「第3章 観光振興計画」

の記載内容については、加筆修正したことが分かるように、当該箇所については太字の斜体にして下線を引いています。

例：オコタンペ湖周辺は、森林生態系保護地域に指定されており、立入りは禁止されています。

また、現在は湖までの道路は崖崩れの恐れがあるため閉鎖しており、見学はできません。

例：千歳市内には、支笏湖やサケのふるさと千歳水族館、道の駅サーモンパーク千歳、アウトレットモール、観光農園、ファームレストランなど、観光の対象となる様々な資源・施設がありますが、集客には偏りがあります。

また、写真については可能な限り最新のものに差し替えたほか、「既に存在しない施設」や、「現在立入りのできない施設」、「既に終了した取組」などで全文を削除しなければならないものは、説明文を赤字にして残した上で波線を引き、「※」印で注釈を加えています。

このほか、地図上の表現で注釈が必要な個所は、地図の下に「※」印を施して赤字で加筆修正しています。

例：オコタン野営場は、支笏湖の北西岸に位置するキャンプ場です。ミズナラやイタヤカエデ、トドマツなどの森林に囲まれ、原始的な自然を残しています。

※現在オコタン野営場は閉鎖中です。

例：◎新たな泉源開発

支笏湖温泉は湯量が減少しており、新たな泉源の確保が喫緊の課題となっています。支笏湖温泉地域のホテルなどに安定した湯量を供給するため、新たな泉源を開発します。

※平成26年4月から第2泉源による配湯を開始しています。



さらに、比較対照が容易となるように、表やグラフについては、当初の計画策定時で引用したものと同一ものを掲載し、数値については平成 26 年度まで掲載しています。

一方、当初の計画策定時には存在していた調査項目であっても、今回の見直し時には取りやめている調査があることから、これらは調査項目全部を削除したほか、削除後に代替となるグラフや資料を掲載しているものもあります。

本計画の見直しに当たっては、これまでの施策の進捗状況を確認するため、千歳観光連盟や市内観光事業者へのヒアリングを行い、今後の千歳観光をより活性化するための自由意見の集約なども行っています。

見直しにつきましては、これらの意見などを参考にしながら、記載内容を必要に応じて削除又は修正するとともに、後期 5 年間で施策や取組として新たに盛り込むべきものなどを追加しています。

また、観光振興計画内にある今後の施策展開については、観光事業者へのヒアリング結果などを基に前期 5 年間での着手の有無について整理しています。

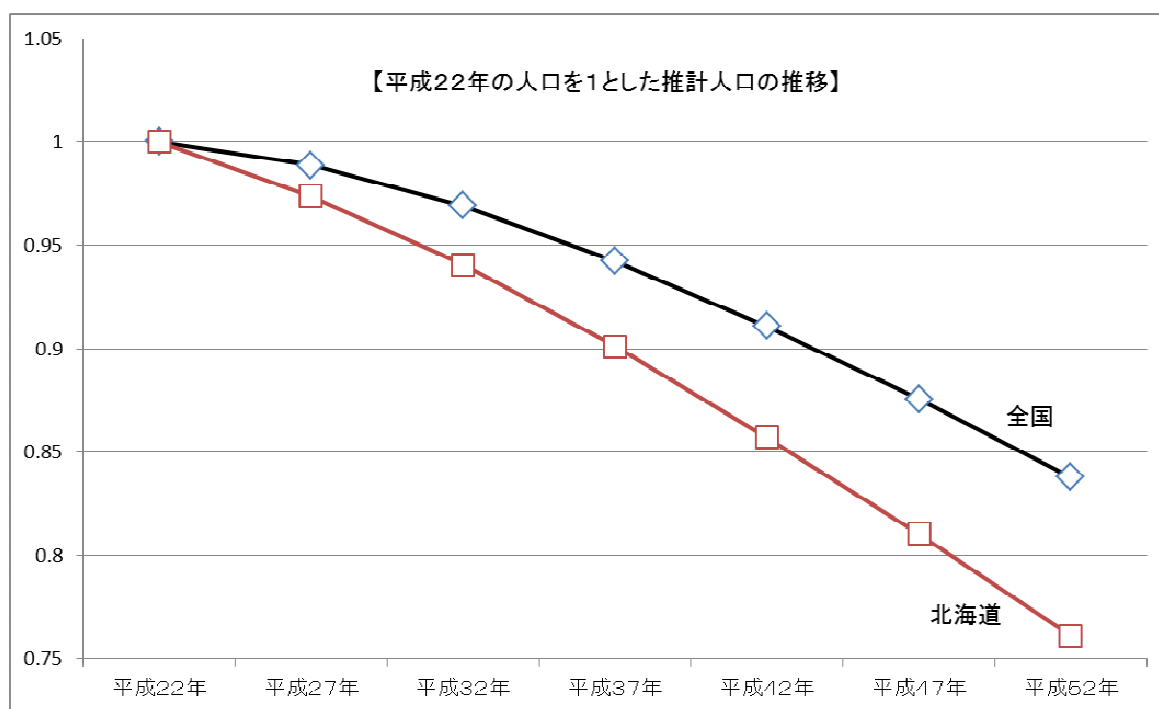
## 第2章 観光の動向

### 1. 国内における観光動向

#### (1) 観光を取り巻く社会情勢の変化

##### ①国内人口の減少

国立社会保障・人口問題研究所が行っている将来人口の推計によると、全国と北海道の人口は平成22年以降も減少し、平成32年(2020年)の推計人口は、全国が1億2,410万人(平成22年比97%)、北海道が518万人(平成22年比94%)となっています。さらに、平成52年(2040年)の推計人口は、全国が1億728万人(平成22年比84%)、北海道が419万人(平成22年比76%)となっており、全国及び北海道の人口は、今後大きく減少すると推計されています。



資料：『日本の地域別将来推計人口』（平成25年3月推計）（国立社会保障・人口問題研究所）

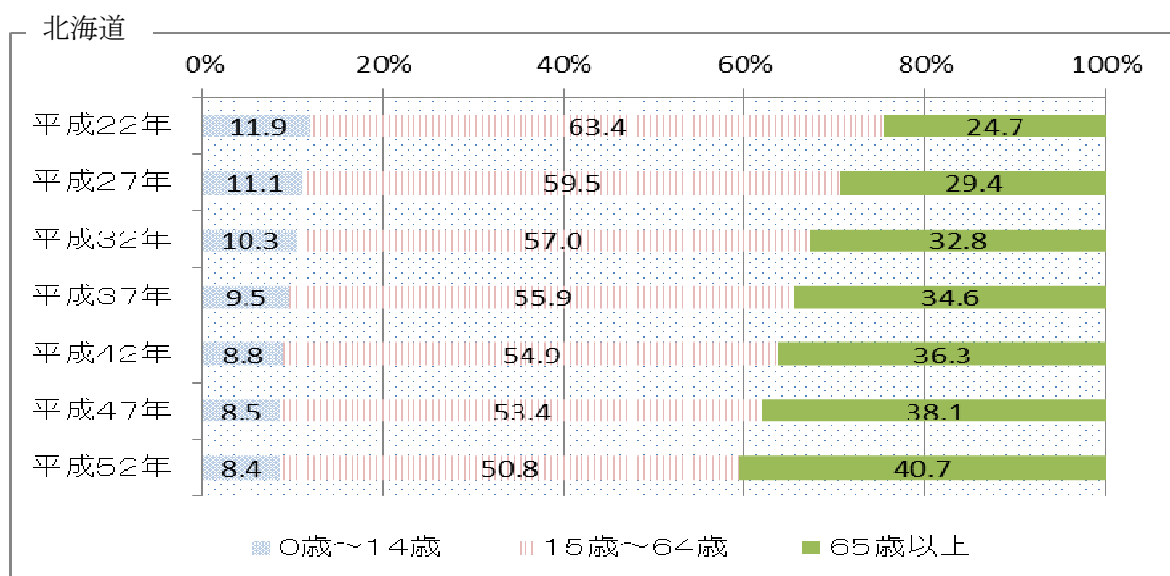
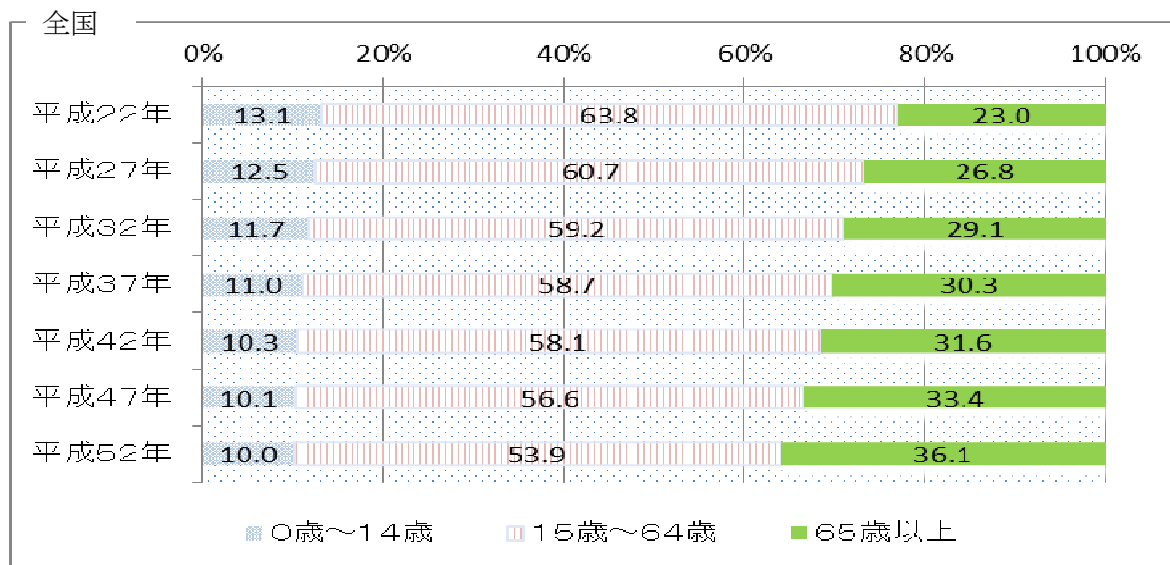
## ②少子高齢化の進展

国立社会保障・人口問題研究所の推計では、人口の減少に加えて、少子高齢化の進展が明確に現れており、今後の観光に大きな影響を及ぼすことが予想されます。

年齢階層別の人口割合を見ると、全国については、「0～14歳」の割合が13.1%（平成22年）、11.0%（平成37年）、10.0%（平成52年）と減少しているのに対して、「65歳以上」の割合は、23.0%（平成22年）、30.3%（平成37年）、36.1%（平成52年）と増加の一途にあります。

北海道においても同様に、「0～14歳」の割合が11.9%（平成27年）、9.5%（平成37年）、8.4%（平成52年）と減少しているのに対して、「65歳以上」の割合は、24.7%（平成27年）、34.6%（平成37年）、40.7%（平成52年）と増加の一途にあります。

全国と北海道と年齢階層別の人口割合（推計値）単位：%



資料：『日本の都道府県別将来推計人口』（国立社会保障・人口問題研究所）

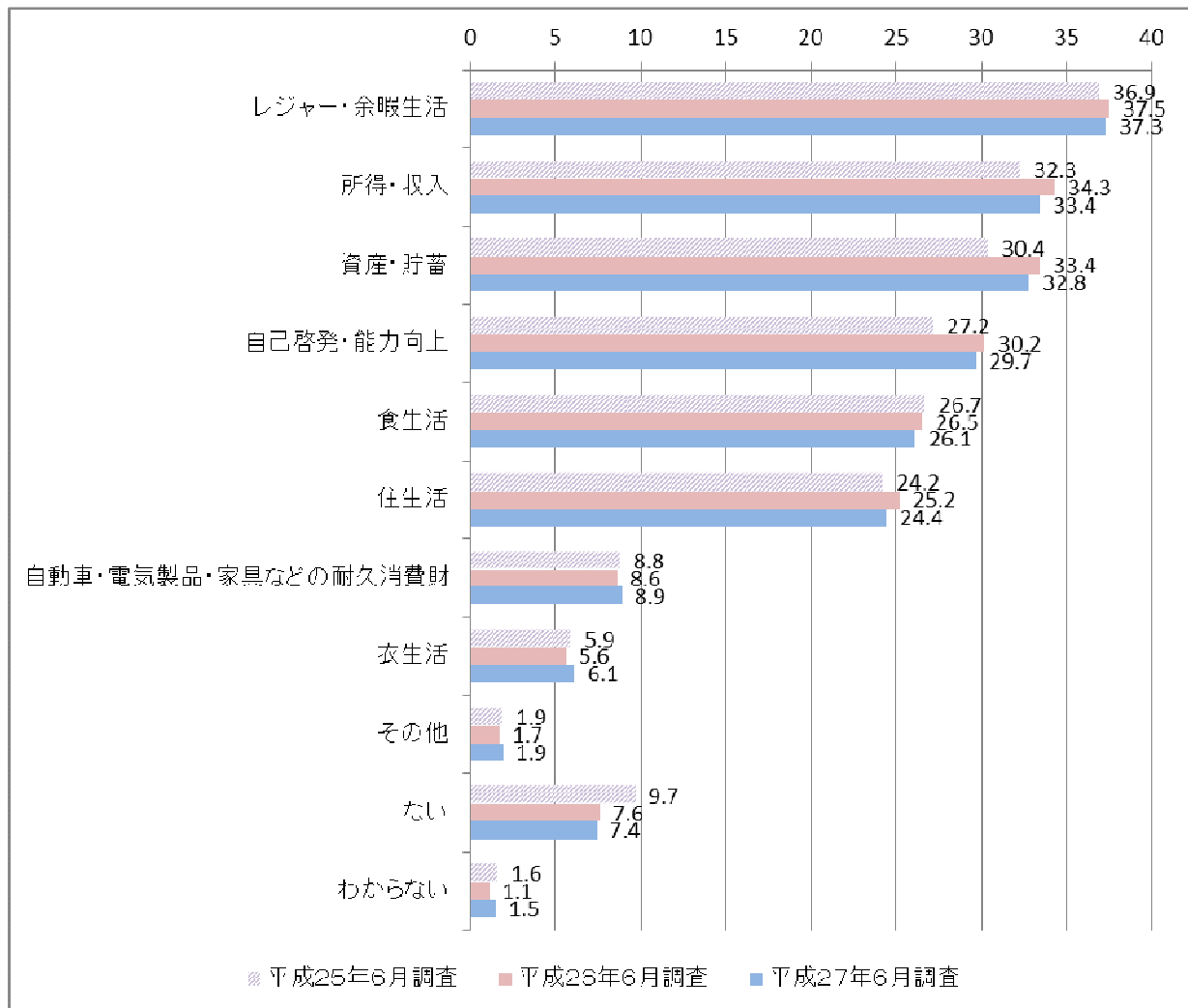
### ③ライフスタイルの変化

近年、国民の価値観の多様化が進み、ライフスタイルにも一人一人の個性が強く反映されています。人々の豊かさに対する考え方も、所得の向上や物質的な満足よりも、心のゆとりや生きがいといった、精神的な満足を求めるケースが多くなっています。

観光・レジャーは、未知の世界や人々との出会い、安らぎ、感動など、日常生活では味わい難い心の豊かさを実感できる機会となることから、人々の生活における観光の役割は、これまで以上に重要なものになっています。

内閣府が調査する「国民生活に関する世論調査」の結果を見ると、今後の生活で重点をおきたい分野の回答は、「レジャー・余暇生活」が過去3年最も多くなっていますが、「所得・収入」や「資産・貯蓄」のほか、「自己啓発・能力向上」などもここ数年で大きく伸びており、数年間のうちに生活に対する考え方も変わることがわかります。

《今後の生活の力点（複数回答）》（%）



資料：『国民生活に関する世論調査』（内閣府）

#### ④経済成長率の低下

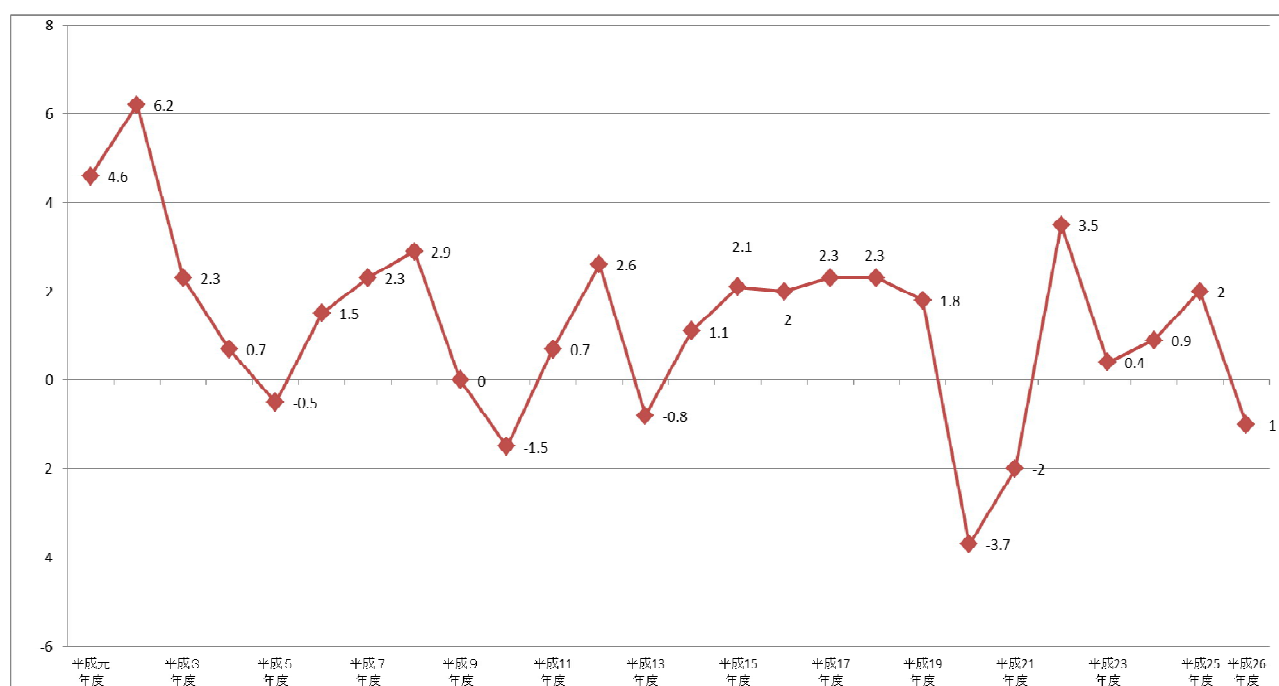
日本の実質GDP（国内総生産）成長率の推移を見ると、平成2（1990）年度までは6%前後の成長率が続きましたが、平成3（1991）年度以降は成長率3%以下の低成長時代になりました。さらに、平成20（2008）年度と平成21（2009）年度は、世界的な金融不況の影響を受けてマイナス成長となっています。

また、平成22（2010）年度にはプラスに回復し、平成23（2011）年度以降は平成25（2013）年度までプラスで推移しましたが、平成26（2014）年度はマイナスに転じました。

一般的に経済成長率が低い時代では、国民が余暇・レジャーに掛ける費用が低下することから、旅行者数の減少・旅行期間の短縮・消費額が低下するなど、観光関連事業に大きな影響が出ると考えられます。

#### 《実質GDP成長率の推移（平成元年～平成26年度）》

(%)



資料：『国民経済計算確報』『四半期別GDP速報』（内閣府）

## ⑤情報発信の高度化

インターネットやスマートフォンの普及など、観光に関連する情報発信技術の発展は目覚ましく、今後もより一層の高度化と、それに伴う新しい情報発信手段の誕生が予想されています。

インターネット技術については、通信速度の向上に伴って高精度な画像や動画が配信されるようになり、セキュリティ技術の向上やシステム開発により、現在では携帯電話やスマートフォンなどで予約・購入・決済までをネット上で行えるようになってきています。

さらに、ブログ・SNS・ツイッターなどのサービスを利用することで、一般の人が手軽にネット上に情報発信できるようになりました。

特に外国人観光客は、携帯電話やスマートフォンで撮った写真をすぐにSNSなどにアップロードする傾向があり、国内外を問わず観光客にとって情報発信は不可欠なものになりつつあります。

## ⑥外国人観光客の誘致

今後、日本の人口が減少していく中、地域活性化やビジネスの拡大を図るために、外国人観光客を呼び込むことが効果的であるとのことから、観光庁が中心になって訪日旅行促進事業（ビジット・ジャパン事業）に官民一体で取り組んでいます。

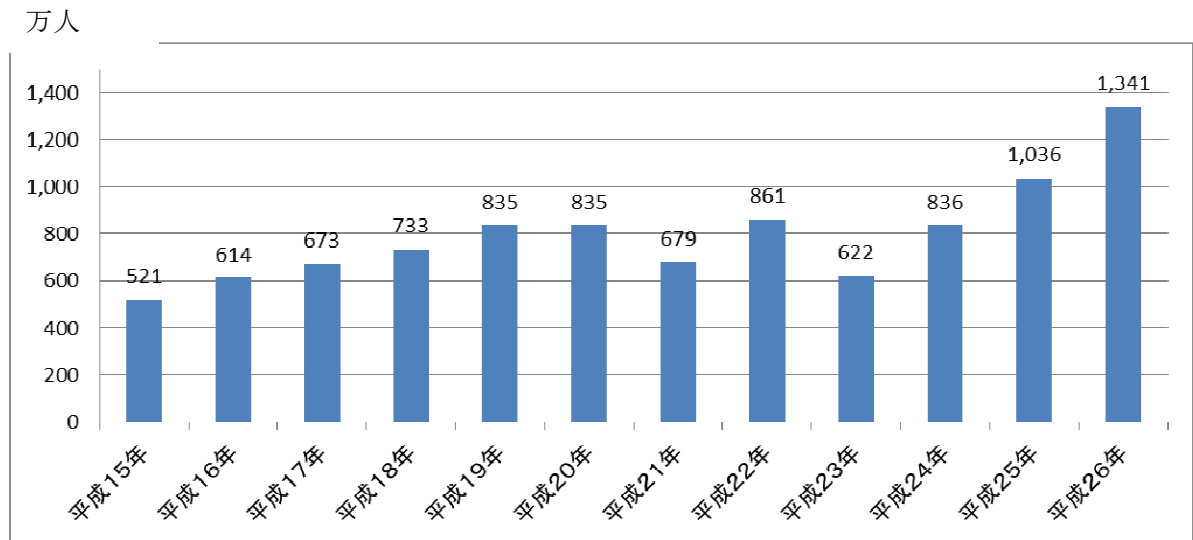
ビジット・ジャパン事業では、訪日外国人旅行者を将来的に3,000万人とすることを目指し、「訪日外国人3000万人プログラム」を設定していますが、事業を開始した平成15年以降の訪日外客数※1の推移を見ると、平成19年までは順調に増加してきましたが、世界的な金融不況の影響を受けた平成20年に増加が止まり、新型インフルエンザの感染拡大の影響を受けた平成21年では減少しています。

その後、平成23年度も東日本大震災と福島第一原子力発電所事故の影響で落ち込んだものの、平成24年度末からアベノミクスによる円安が進むと訪日観光客が回復し、平成25年には年間1,036万人と、初めて1,000万人の大台を超え、平成26年は1,341万人を記録しています。

一方、政府は東京オリンピックが開催される平成32年までには、我が国を訪れる外国人観光客数を4,000万人とする目標を立てており、中国を始めとする東アジア諸国（中国、韓国、台湾、香港など）や東南アジア（タイ、シンガポール、マレーシア、ベトナム、インドネシアなど）などを当面の「促進重点国・地域」と位置付けて、誘致宣伝活動を展開しています。

このほかにも、MICE※2の開催・誘致の推進、魅力ある日本のおみやげの選定、通訳ガイド制度の制定、訪日外国人向けの観光案内基本マニュアルづくりなどの施策を展開しています。

## 《訪日外客数の推移（平成15～26年）》



資料：『訪日外客統計』（日本政府観光局：J N T O）

- ※1 訪日外客数： 国籍に基づく法務省集計による外国人正規入国者から日本に永住する外国人を除き、これに、日本を経由して第三国へ向かうため日本に一時的に入国した通過客（一時上陸客）を加えた入国外国人旅行者のことである。（日本政府観光局資料より）
- ※2 M I C E： 企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、イベント、展示会・見本市（Event/Exhibition）の頭文字のこと。多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。（観光庁ホームページより）

## (2) 国内における観光客の推移

観光庁の「観光白書」では、旅行・観光消費動向や国内外における観光旅行の回数などの推移を整理しています。

### ①国内宿泊観光旅行の推移

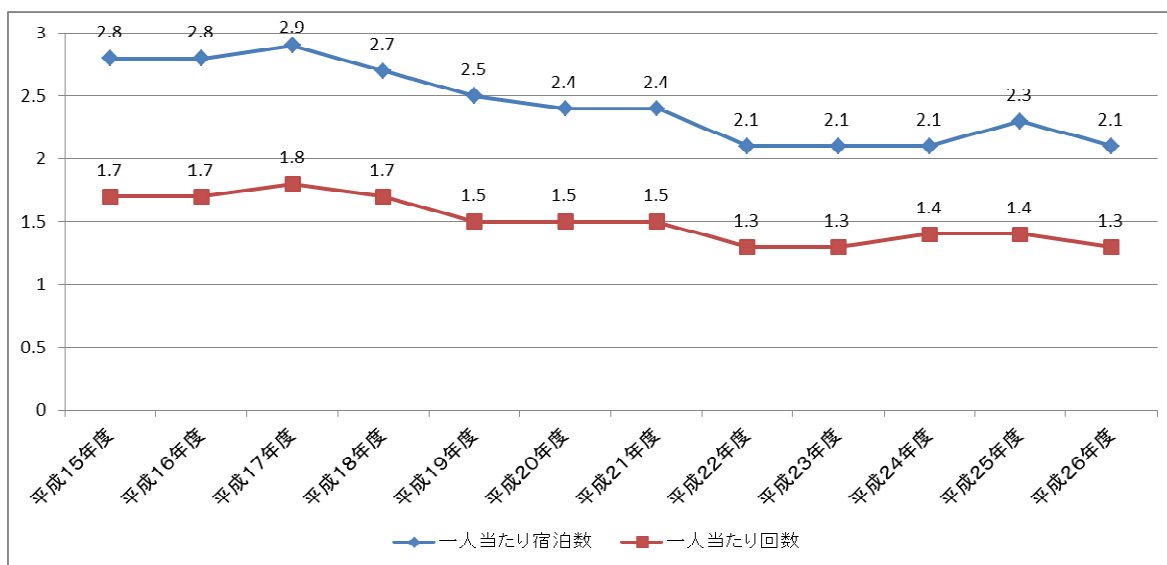
国民の国内宿泊観光旅行の推移を見ると、平成26年度の国民1人当たりの国内宿泊観光旅行回数は1.3回、平均宿泊数は2.1泊となっています。

これは、観光立国推進基本計画（平成24年度～28年度）に定められた国民の国内観光旅行による1人当たりの宿泊数の目標（平成28年度までに年間2.5泊）に対してはまだ8割程度の水準にとどまっています。

また、平成15年度から平成26年度までの宿泊を伴う国内観光旅行回数の推移を見ると、全体的には減少傾向にあります。1人当たりの旅行回数、1人当たりの宿泊回数共に平成22年度以降はほぼ横ばいで推移しています。

《国内宿泊観光旅行の回数及び宿泊数の推移》

回、泊

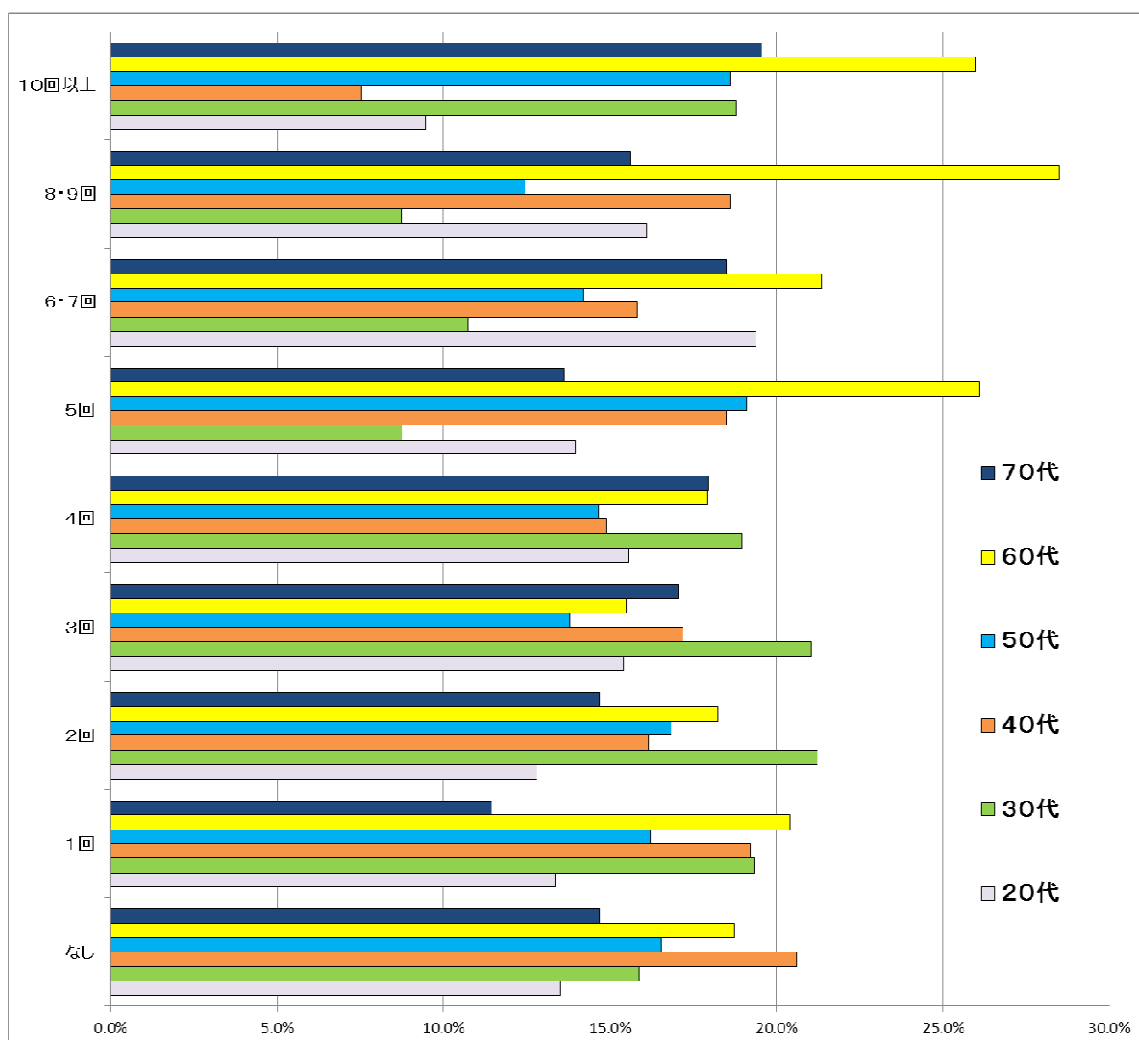


資料：『観光白書』『旅行・観光消費動向調査』（観光庁）



## ②平均年間国内旅行回数別による年代の内訳

平成25年度における宿泊を伴う平均年間国内旅行回数を各世代の内訳で分類すると、旅行回数が多くなるにしたがって60代が顕著に増加し、逆に旅行を全くしない世代としては40代が最も多い傾向にあります。



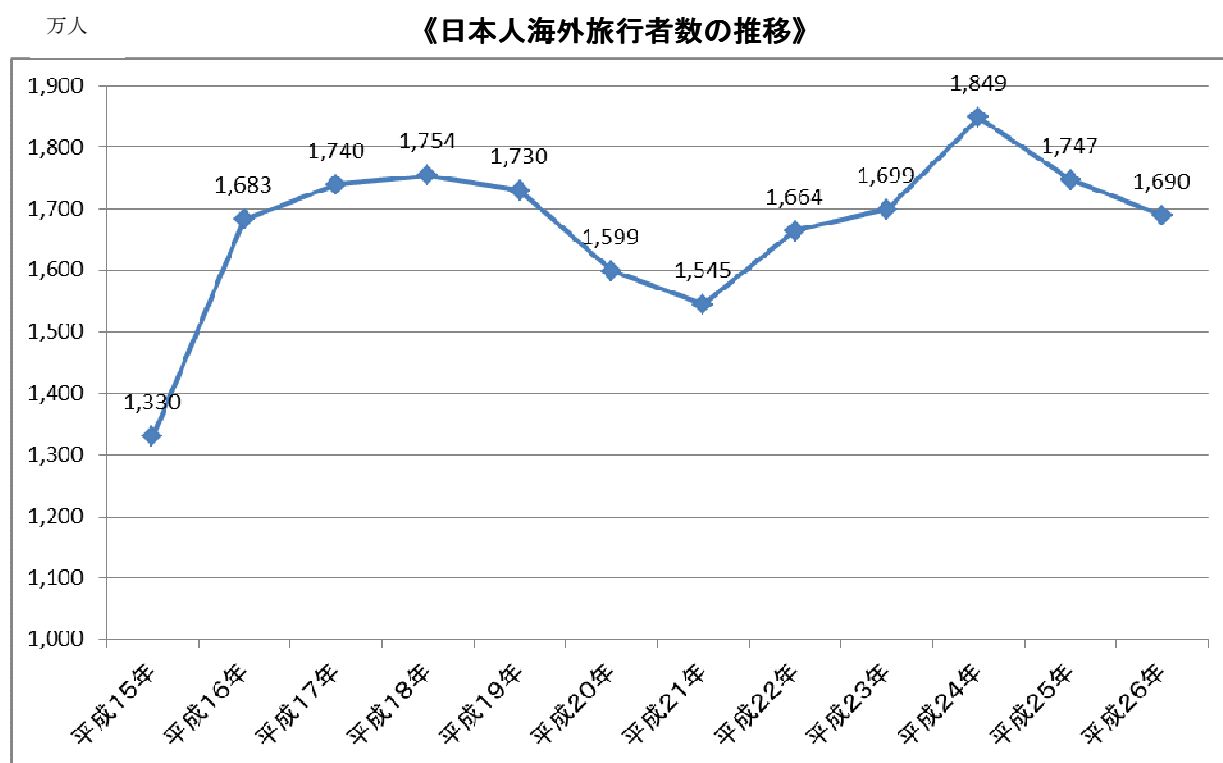
資料：『旅行・観光消費動向調査』（観光庁）

※平成28年3月現在では平成25年度データが最新。

### ③日本人の海外旅行の現状

日本人の海外旅行者数の推移を見ると、平成15年はSARSの発生（平成15年）等の影響により大きく落ち込みましたが、平成16年よりほぼ横ばいで推移しています。また、世界的な金融不況の影響を受けた平成20年、新型インフルエンザの感染拡大の影響を受けた平成21年は大きく落ち込んだものの、平成22年からは徐々に回復し、平成24年はこれまでの過去最高となる1,849万人を記録しました。

その後は円安の影響などもあり、平成25年度以降、再び減少傾向にあります。



資料：法務省及び（独）国際観光振興機構（JNTO）資料から観光庁作成

### ④北海道内における観光入込客数の推移

北海道観光入込客数調査によると、平成15年度以降から平成19年度までの北海道の観光入込客数（実人数）は、年間4,800万人～4,900万人前後で推移しています。平成20年度以降は、ガソリン価格の高騰による出控え、景気の低迷、新型インフルエンザの流行などから観光客数が減少し、平成22年には一度回復したものの、平成23年は東日本大震災の影響もあり再び大きく減少しました。

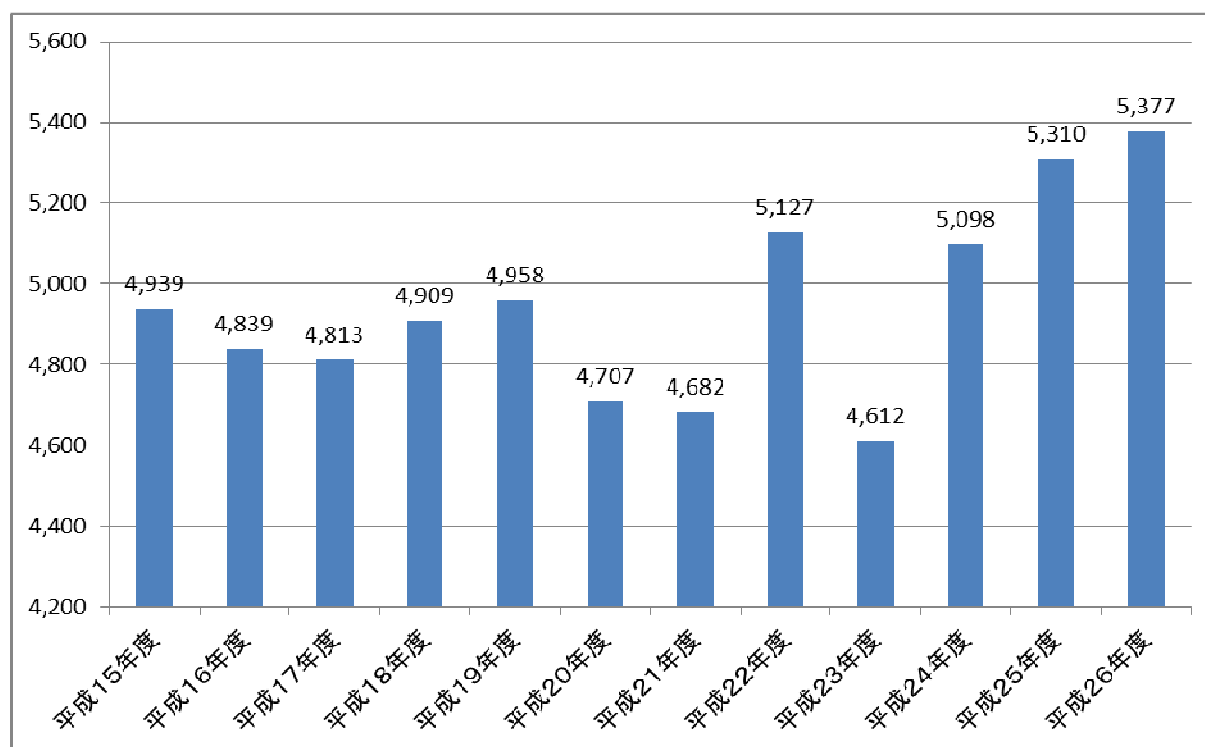
その後は訪日外国人観光客の底上げもあり、平成24年から増加しています。

一方、訪日外国人来道者数は、平成15年度以降増え続け、平成19年度には71.1万人まで増加しました。

平成20年度以降は、新型インフルエンザの流行、世界的な不況、円高などの悪条件や、平成23年の東日本大震災の影響もあり再び減少しましたが、国や北海道が行っている訪日外国人観光客増加のための様々な取組が功を奏し、平成24年からは再び増加し、平成26年は過去最高となる1,541万人となりました。

### 《北海道全体の観光入込客数（実人数）の推移》

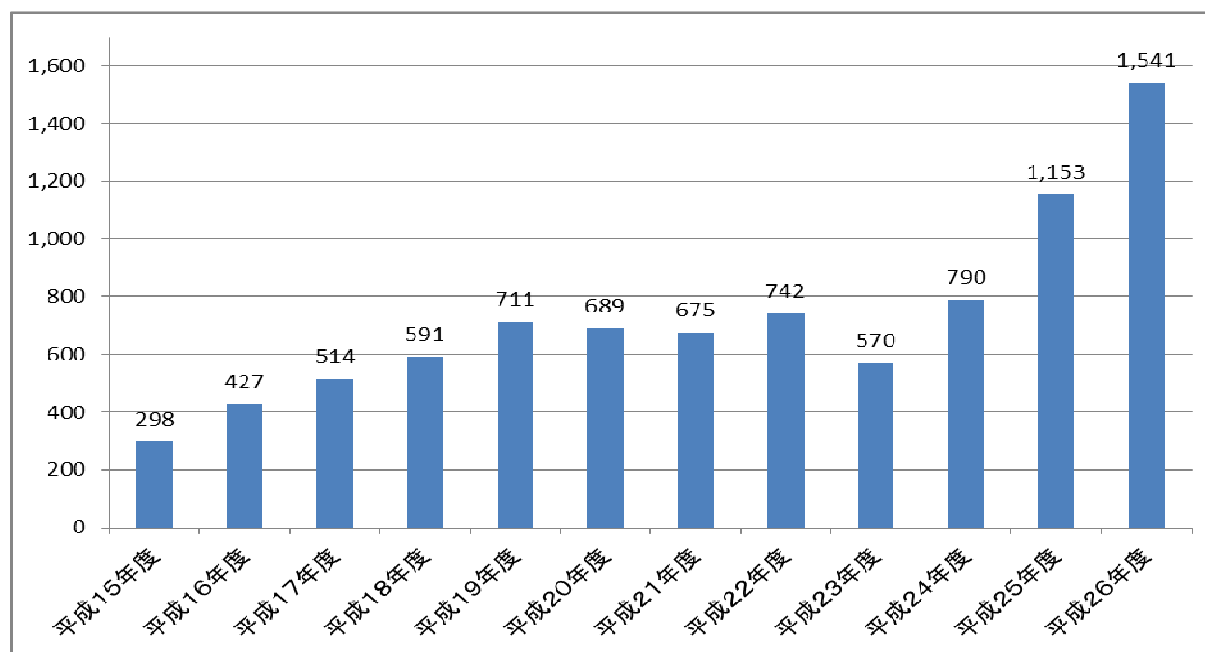
万人



資料：『北海道観光入込客数調査』（北海道）

### 《訪日外国人来道者数（実人数）の推移》

千人



資料：『北海道観光入込客数調査』（北海道）

## ⑤北海道を訪れる観光客の動態

北海道経済部観光局が発行した「北海道観光の現況」（平成27年10月）では、来道観光客動態・満足度調査等の結果から、北海道を訪れる観光客の動態について次のように整理しています。（平成23年度実施調査データによる）

### ■属性～女性の割合が高く、年齢では60代・20代が多い

性別では、男性が47.5%・女性が52.5%で、女性の割合が5ポイント大きくなっています。

年齢別では60代が多く、次に20代と続いています。

居住地別では、関東が46.8%と最も多くなっています。

### ■旅行形態～家族旅行が半数を超えており、個人旅行も若干増加

家族旅行が56.8%で最も多く、団体・グループ旅行が27.1%、個人旅行は13.5%となっており、平成19年度データと比較すると団体・グループ旅行が減少し、個人旅行が増加しています。

### ■旅行日程～長期滞在者が増加

これまで来道観光客の旅行日程は短縮化の傾向にありましたが、3泊4日の割合が27.0%、4泊5日が12.0%、5泊以上も16.7%と、最近では長期滞在者が増加しています。

### ■来道経験～80%以上がリピーター

北海道を訪れる道外観光客のうち、約80%以上は過去に来道経験があるリピーターで、5回以上の来道経験を持つ「北海道ファン」も40%を超えています。

### ■旅行目的の多様化の進展

北海道を訪れた観光客の旅行目的を見ると、「自然観賞」「温泉・保養」「買い物・飲食」「テーマパーク・遊園地」など目的は多様化しています。

一方、公益財団法人日本交通公社がまとめた「旅行者動向2013」によると、自然や景勝地を見て回る「自然観光」やおいしいものを食べる「グルメ旅行」の旅行先としては、北海道が他を大きく引き離して1位となっており、「自然」や「食」は、今後も北海道観光の大きな魅力となり続けると考えられます。

### ■パッケージツアーの利用～ルートの決まったパッケージツアー利用者の減少

パッケージツアーの利用状況を見ると、平成19年度には来道観光客の22.5%がルートの決まったパッケージツアーを利用していましたが、平成23年度には19.8%と減少し、パッケージツアーを利用しない観光客も45.3%と平成19年度と比べると増加しています。

### ■交通手段～貸切（観光）バスが減少し、鉄道の割合が増加

北海道内における主な移動手段としては、「貸切(観光)バス」の割合が平成23年度では21.0%と平成14年度の41.5%からほぼ半減しています。

一方、「鉄道」での移動が29.3%と最多となっており、少人数旅行の変化が移動手段の変化に表れているものと思われます。

### ■予約方法～若年層、中間層は特にネット利用者が半数を超えている

北海道旅行の手配方法を見ると、インターネットでの利用が若年層（10代～20代）と中間層（30代～50代）で50%を超え、高齢層（60代以上）でも40%を超えており、ネット利用者の割合も増加しています。

### ■観光情報の入手～インターネットが大きく増加する一方、旅行会社は減少

旅行情報の入手先を見ると、「インターネット」が平成14年度の10.1%から平成23年度は27.2%と大幅に上昇し、逆に「旅行会社」は、32.4%から13.5%と減少しています。

### ■観光消費額～訪日外国人来道客の1人当たりの観光消費額が最も大きい

観光客が1回の観光行動で消費する金額を見ると、直近のデータでは道内客は1人当たり13,271円、道外客は1人当たり69,670円、訪日外国人は1人当たり122,128円となっており、外国人観光客が最も消費額が大きい結果となっています。

#### 《観光消費額の推移》

回数	調査時期	道内客1世帯当たり	道外客1人当たり
第1回	昭和63年10月～平成元年9月	11,621円	68,358円
第2回	平成5年10月～平成6年9月	10,761円	62,005円
第3回	平成11年1月～平成11年12月	9,608円	61,007円
第4回	平成16年7月～平成17年6月	8,849円	60,677円

回数	調査時期	道内客1人当たり	道外客1人当たり	訪日外国人1人当たり
第5回	平成21年7月 ～平成22年6月	13,271円	69,670円	122,128円

資料：『北海道観光産業経済効果調査』（北海道観光産業経済効果調査委員会）

※第1回～4回までの調査は「1世帯当たりの消費額」であったが、

第5回の調査は「1人当たりの消費額」に変更となった。

## 2. 千歳市の概況

### (1) 自然条件、社会条件

#### ①千歳市の位置

千歳市は、北海道の中南部・石狩平野の南端に位置し、札幌市・恵庭市・苫小牧市・伊達市など4市・4町に隣接しています。

面積は594.50km<sup>2</sup>、市域は東西57.20km・南北30.40kmと東西に細長く、西高東低の地形を成しています。



#### ②沿革

千歳の開庁は、明治13（1880）年、当時の千歳村に「千歳郡千歳村外5ヶ村戸長役場」が設置されたことに始まります。太平洋と日本海を河川ルートで結ぶ・シコツ越え（千歳越え）など古くから交通の要衝として栄えてきましたが、現在の交通拠点としての発展は、苗穂～沼ノ端間に北海道鉄道が開通した大正15（1926）年が契機となりました。

この年、当時の小樽新聞社が、鉄道開通を記念して千歳川のさけますふ化場見学会と観楓会を催すこととなり、同社は飛行機を飛ばして、客の到着に合わせ空から歓迎のビラをまくことを企画していました。

村ではせっかくなら着陸してほしいと要請、村民が2日間ほどで造成した1本の着陸場が千歳飛行場の基礎となりました。

その後、昭和14年（1939年）に日本海軍によって航空隊基地が開設され、人口の増加により昭和17（1942）年には町制が施行されました。

終戦後、昭和26（1951）年の米オクラホマ州兵第45師団駐留に伴うオクラホマ景気から町は急速に発展し、昭和30（1955）年前後には陸空自衛隊の駐屯地・基地が相次いで開設されるなど、自衛隊のまちとしての側面も有することとなりました。

昭和30年代になると、駐留米軍の撤退が始まり、市は雇用創出のため新産業都市の指定を受け、北海道で初めての市営工業団地を造成分譲するなど生産都市へと脱却を図りました。

千歳市第1・2工業団地を皮切りに、昭和47（1972）年に民間デベロッパー方式による千歳第3工業団地を造成し、翌年に分譲を終了しました。

さらに、空港を始め、港湾・JR・高速道路などの輸送ネットワークの優位性を発揮し

千歳臨空工業団地、千歳サイエンスパーク、千歳市第4工業団地、千歳市根志越業務団地、千歳美々ワールド、千歳流通業務団地、千歳オフィス・アルカディアの造成・分譲と続き、今では立地企業数が250社を超える工業都市として、確固たる地位を築いています。

北海道24番目の市として昭和33年（1958年）に市制が施行された千歳市は、人口の増加に対応した都市整備、新千歳空港周辺の整備や企業誘致など様々な側面からまちづくりを進め、北海道の交通拠点・産業都市へと、大きく変貌を遂げました。

### ③人口

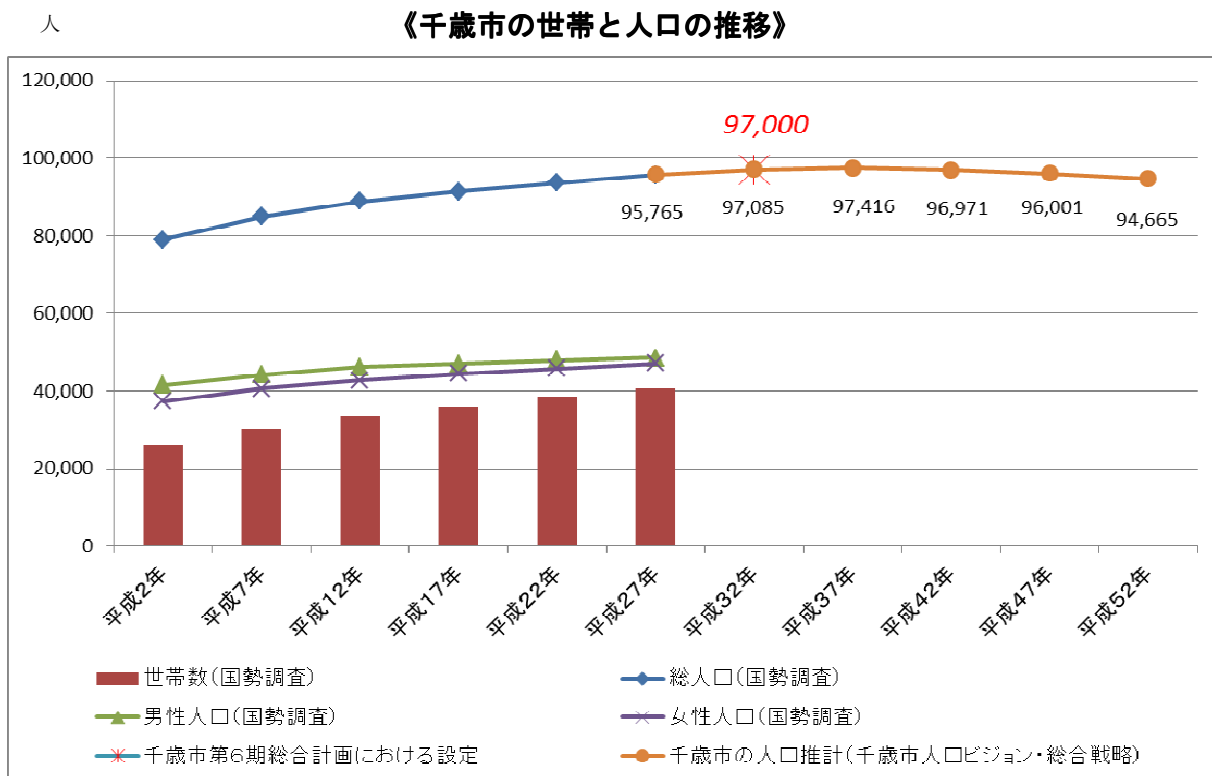
国勢調査における千歳市の人口は、昭和10年以降順調に増え続け、平成27年調査では人口95,664人で平成22年調査と比べて2,060人・2.2%の増加となり、世帯数も40,614世帯で平成22年度調査と比べて2,073世帯・5.4%の増加となりました。

従来から自衛隊員の人口が多く男女比率に偏りがありましたが、市の発展に伴いその差は縮小傾向にあります。

また、都市化の進展に伴い、人口集中地区の居住人口も調査年ごとに高くなっており、市街地への人口集中傾向が認められます。

将来人口について、千歳市第6期総合計画では、平成32年の人口を97,000人に見直しています。

また、千歳市における人口の将来展望では、平成32年以降も10年超にわたり同程度の人口維持を図ることとしています。



資料：『国勢調査』（総務省統計局）、『千歳市第6期総合計画』（千歳市）、  
『千歳市人口ビジョン・総合戦略』（千歳市）

#### ④交通

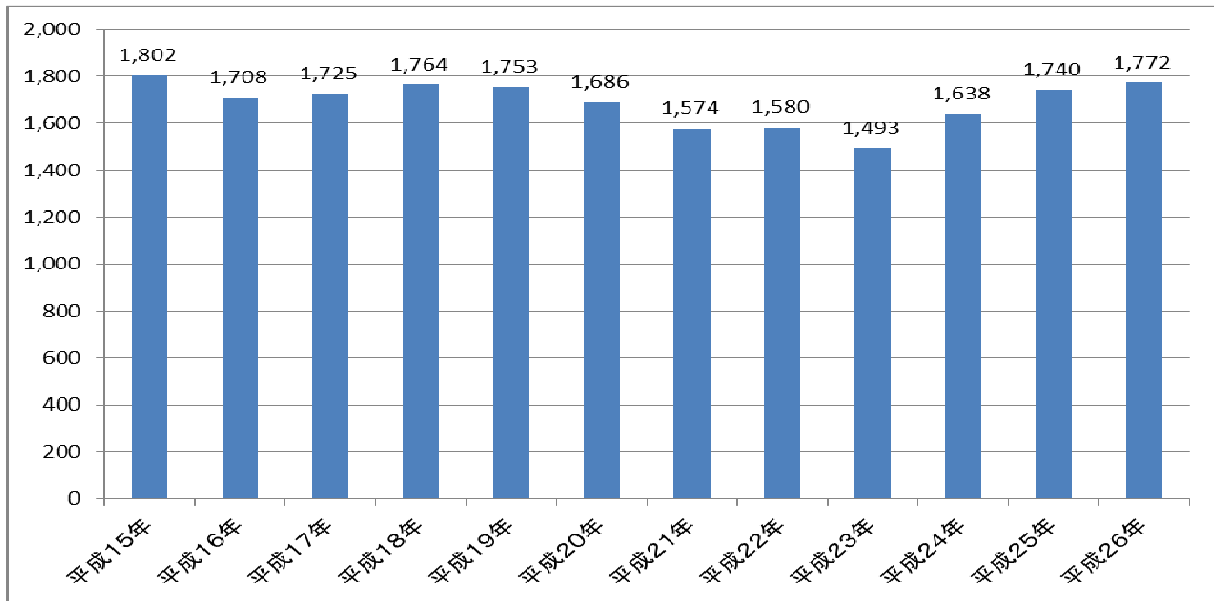
新千歳空港は、2本の3,000m滑走路を有する北海道における国際航空の拠点であり、国内における基幹空港であります。平成6年には日本初の24時間空港として運用を開始し、平成22年3月26日には国際線専用のターミナルビルが運用を開始しています。

景気低迷や災害などの影響により乗降客数が減少となった時期もありましたが、平成26年の乗降客数は、国内線・国際線を合わせて約1,927万人となっています。

平成24年以降は増加傾向であり、成長が著しい東南アジアなどを中心に、今後も利用者の増加が見込まれています。

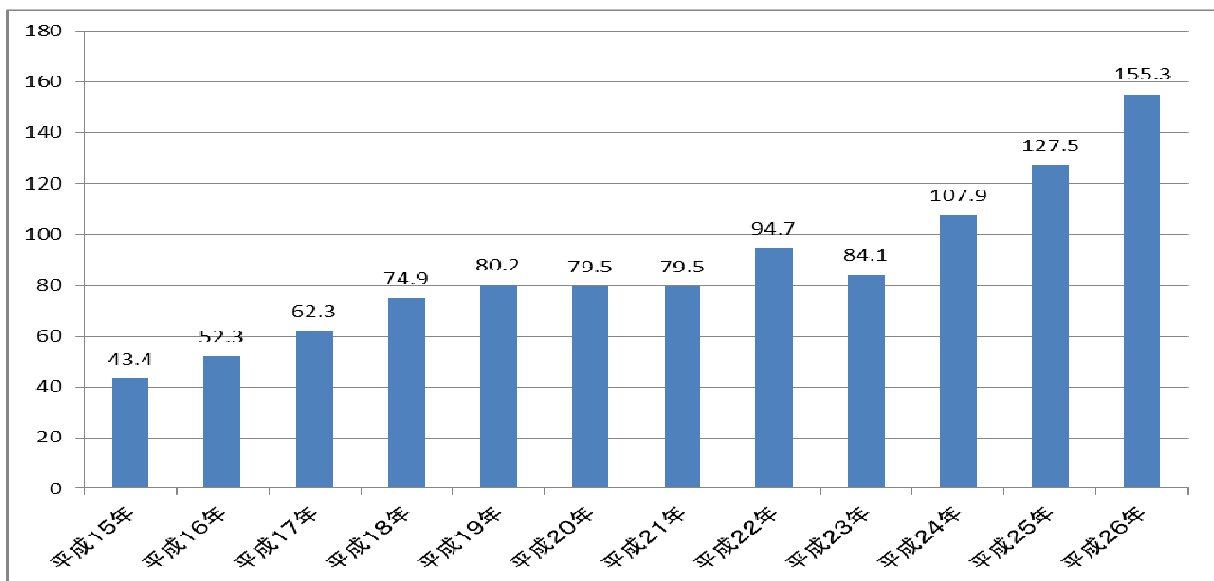
万人

#### 《国内線乗降客数の推移》



万人

#### 《国際線乗降客数の推移》



資料：『空港管理状況調査』（国土交通省）



特に料金的にも割安なLCC（ローコストキャリア）の就航がここ数年で増加していることに加え、国際線においてもアジア諸国との定期便が結ばれるなど、新千歳空港利用客はここ数年間で過去最高記録を更新しています。

このほかにも、平成27年には、深夜早朝便の発着枠が拡大したこともあり、今後は外国人観光客を始めとした多くの観光客が北海道を訪れることが期待できます。

都市間輸送を担うJR千歳線は、市街地において高架化されたJR北海道の最大幹線で、空港連絡鉄道としての性格を有しています。新千歳空港ターミナルビルの地下に列車が乗り入れる千歳線支線・新千歳空港駅は「鉄空一貫」の連携した旅客輸送を行っています。

道路は、道央道（北海道縦貫自動車道）及び道東道（北海道横断自動車道）の高速道路を始め、国道6路線・道道12路線が集積しています。新千歳空港から東部地区を抜けて石狩湾新港につながる道央圏連絡道路は、道東道まで完成供用され東千歳ICとの連結が向上し、さらに、平成25年度には道央道と道道泉沢新千歳空港線の交差部に新千歳空港ICが供用開始しています。

## (2) 観光に関連する環境の変化

観光に関連する環境の変化について、千歳市とその周辺地域に起きた出来事と、今後5年間に予想される変化を整理すると、以下のようになります。

なお、この環境の変化に応じた今後の取組の方向性について整理し、赤字で囲っています。

	ここ数年の出来事（平成27年度まで）
観光客に関する動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道洞爺湖サミットの開催（平成20年度）</li> <li>・外国人観光客の増加（北海道全体では平成26年は過去最高となる1,541万人となる）</li> <li>・平成23年3月11日に発生した東日本大震災等により国内観光客の動きの鈍化が見られたが、平成24年度末からアベノミクスによる円安が進むと訪日観光客が回復し、平成25年には年間1,036万人と始めて1,000万人の大台を超え、平成26年は1,341万人を記録</li> </ul>
千歳市内の施設に関する動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支笏湖温泉街に高級路線の宿泊施設が開業 支笏湖第一寶亭留翠山亭（平成14年） 支笏湖温泉レイクサイドVILLA翠明閣（平成20年） しこつ湖鶴雅リゾートスパ水の譚（平成21年）</li> <li>・支笏湖温泉街の整備 （支笏湖ビジターセンター、親水護岸、駐車場など）</li> <li>・千歳アウトレットモール・レラ開業（平成17年）・増床（平成19年）、千歳マッスルパーク（平成22年～平成23年）</li> <li>・千歳市人口9万5千人突破（平成25年5月）</li> <li>・支笏湖温泉第2泉源配湯（平成26年4月）</li> <li>・ダイナックスアリーナ（スポーツセンター）リニューアルオープン（平成26年4月）</li> <li>・千歳駅前多目的メッセージ表示器供用開始（平成27年3月）</li> <li>・サケのふるさと千歳水族館リニューアルオープン（平成27年8月）</li> <li>・道の駅サーモンパーク千歳リニューアルオープン（平成27年8月）</li> </ul>
周辺地域の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「さっぽろ広域観光圏」観光圏整備実施計画認定（平成21年4月）</li> <li>・三井アウトレットパーク札幌北広島開業（平成22年4月） …千歳アウトレットモール・レラとの競合</li> </ul>

計画期間（平成23～32年度）に予想される環境の変化

団塊の世代が退職～潜在的な観光需要増加

…中高年層向けのみではなく、若年層へのサービスも必要。

国内人口の減少

…観光客数全体の減少

東アジアの富裕層を中心に  
外国人観光客が増加

増加している外国人観光客へのおもてなし対応とともに、あらゆる世代を対象とした国内客誘客への取組が必要

平成23年度：新千歳空港ターミナルビルに娯楽施設（温浴施設、シネコンなど）オープン

…乗降客以外の集客力向上、空港内滞在時間の増加

平成27年度：新たな集客施設として「道の駅サーモンパーク千歳」及び「サケのふるさと千歳水族館がリニューアルオープン

空港利用客を市内観光施設へ誘導し、市内の回遊性向上に向けた取組を促進するとともに、宿泊を伴う観光を訴えていく

平成22年度：札幌駅前通地下歩行空間

…札幌市内中心部の人の流れが変化

札幌駅交流拠点再整備構想

…新幹線札幌開業と連携した再開発

北海道や札幌市を始めとした石狩管内市町村との連携により、道央圏の魅力について広く周知し、札幌市などに集まる観光客に対し当市への誘客を図る

内については千歳観光をより促進させるための今後の取組の方向性について記述したもの

	ここ数年の出来事（平成27年度まで）
交通機関に関する動き	<p><b>【道路】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高速道路料金改定（ETC休日割引、社会実験による一部無料化）</li> <li>・道央圏連絡道路の寿ランプ～中央ランプ間開通（平成22年12月）  <ul style="list-style-type: none"> <li>…新千歳空港周辺と農村地区の移動がスムーズに</li> </ul> </li> <li>・道央自動車道 新千歳空港インターチェンジ開業（平成25年8月）</li> </ul> <p><b>【空港】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新千歳空港新国際線ターミナルビル供用開始（平成22年3月）</li> <li>・中国・ロシア便の就航規制（曜日規制）緩和（平成22年3月）</li> <li>・JALの地方路線撤退、縮小（平成22年3月以降）</li> <li>・A-netが丘珠空港撤退、新千歳に路線集約（平成22年7月）</li> <li>・羽田空港D滑走路供用開始による発着枠拡大（平成22年10月）</li> <li>・羽田空港国際線ターミナルビルの供用開始（平成22年10月）</li> <li>・サハリン航空 ハバロフスク線定期便就航（平成22年12月～平成23年3月）</li> <li>・イースター航空 ソウル線定期便就航（平成23年5月～平成24年3月）</li> <li>・ジンエアー ソウル線定期便就航（平成23年7月）</li> <li>・新千歳空港国内線旅客ターミナル商業施設リニューアルオープン（平成23年7月）</li> <li>・ピーチ・アビエーション就航（平成24年3月）</li> <li>・ジェットスター・ジャパン就航（平成24年7月）</li> <li>・エアアジア・ジャパン就航（平成24年8月～平成25年10月）</li> <li>・トランスアジア航空 台北線定期便就航（平成24年9月）</li> <li>・タイエア バンコク線定期便就航（平成24年10月）</li> <li>・ハワイアン航空 ホノルル線定期便就航（平成24年10月）</li> <li>・新千歳空港国際線年間出入国者数100万人突破（平成24年12月）</li> <li>・新千歳空港国際線年間出入国者数100万人最速突破（平成25年10月）</li> <li>・ティーウェイ航空 ソウル線定期便就航（平成25年12月）</li> <li>・チャイナ・サザン航空 広州線定期便就航（平成26年1月～平成26年3月）</li> <li>・バニラ・エア 就航（平成26年1月）</li> <li>・新千歳空港年度別乗降客数過去最高（平成26年4月）</li> <li>・チャイナエアライン 高雄線就航（平成27年2月）</li> <li>・新千歳空港暦年（平成26年）別乗降客数過去最高（平成27年2月）</li> <li>・天津航空 天津線就航（平成27年3月）</li> <li>・エアアジアX クアラルンプール線就航（平成27年10月）</li> <li>・新千歳空港の深夜早朝便発着枠が増加（平成27年10月）</li> <li>・新千歳空港暦年（平成27年）別乗降客数過去最高（平成28年2月）  <ul style="list-style-type: none"> <li>初めて2,000万人を突破 国際線乗降客数も初めて200万人を突破</li> </ul> </li> <li>・北海道新幹線開業（平成28年3月）</li> </ul>

## 計画期間（平成23～32年度）に予想される環境の変化

平成23年度：北海道横断自動車道 夕張～占冠間開通

…道央から道東(逆もあり)  
へ向かうルートが増加

平成27年度：北海道横断自動車道 白糠～釧路開通

平成23年度：北海道縦貫自動車道 落部～森開通

…道央から道南(逆もあり)  
へ向かうルートが増加

平成24年度：北海道縦貫自動車道 森～大沼公園開通

平成25年度：新千歳空港 I C の供用開始

道道泉沢新千歳空港線の延伸

…空港周辺の動線が変化

道央圏連絡道路（国道337号）の整備

平成27年度：北海道新幹線新開業

…北海道観光の動線が変化  
(新幹線+航空路)

平成42年年度末：北海道新幹線札幌開業(目標)

…新幹線と航空路線の競合

道内航空網における新千歳への集中（LCC・国際定期便等）

…千歳イン・アウトの行程が増加、地方路線との乗換え客増加

平成27年度：新千歳空港の深夜・早朝発着枠の拡大

…早朝・深夜便利用客を想定したサービス

新千歳空港の乗降客数は、外国人観光客の増加に伴って年々右肩上がり増加しており、空港利用客に対する市内への誘導策をより促進する必要がある。  
一方、北海道新幹線の開通により道内観光の在り方は大きく様変わりすることが予想され、本市としては、新幹線利用客を市内へ誘客する方策の検討が必要となる。  
そのためには、本市の魅力を広くPRするとともに、新千歳空港やJR、北海道自動車道の要衝となっている本市の利便性を訴えていく必要がある。

内については千歳観光をより促進させるための今後の取組の方向性について記述したもの

### 3. 千歳市内の観光資源・施設の特徴

#### 見直しのポイント

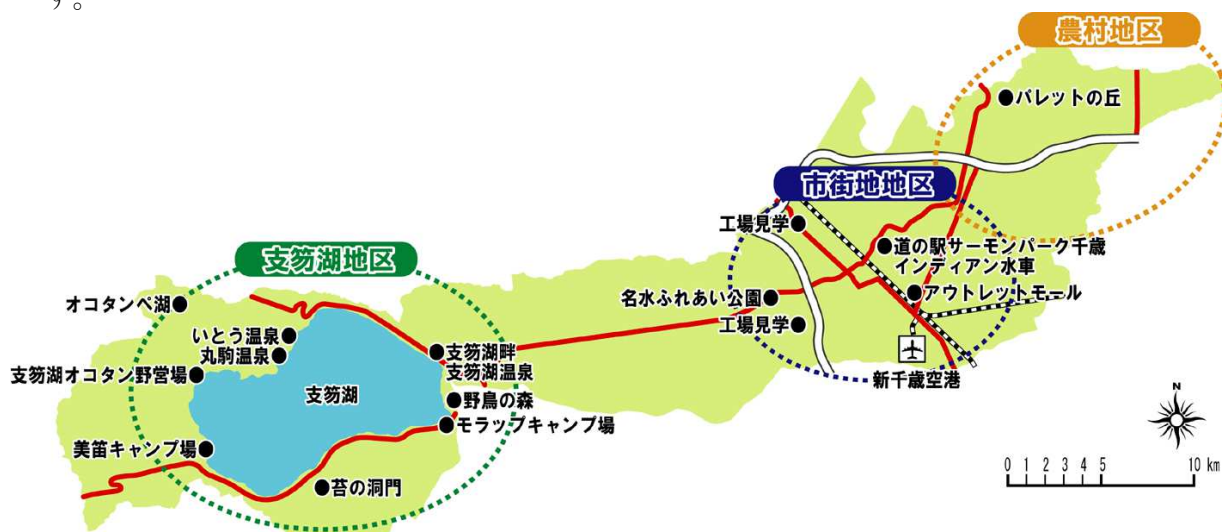
加筆修正した個所は**太字の斜体にして下線**を引いています。

また、「既に存在しない施設」や「現在立入りのできない施設」などでは**説明文を赤字にして残した上で波線を引き、「※」印で注釈を加えています。**

**このほかにも地図上の表現などで注釈が必要な個所は地図の下に「※」印を施して赤字で加筆修正しています。**

**写真についても可能な限り最新のものに差し替えています。**

千歳市内の観光地は、支笏湖地区・市街地地区・農村地区の大きく3つに分かれています。



#### (1) 支笏湖地区の主な観光資源・施設

支笏湖地区は、支笏湖を中心とした自然景観と温泉に恵まれたエリアです。



※「苔の洞門」は、当面は観覧できません。

※「いとう温泉」は、現在休業中です。

※「オコタン野営場」は、廃止しました。

※「美笛の滝」は、当面は現地に行くことができません。

※「オコタンペ湖」は、当面は現地に行くことができません。

## ①支笏湖



(写真上) 支笏湖の風景

(写真2枚目) チップ釣りの様子

(写真3枚目) ヒメマス

(写真4枚目) ヒメマス焼き

支笏湖は、支笏洞爺国立公園に属するカルデラ湖で、新千歳空港や札幌市中心部の近くに位置しています。最大水深360m・平均水深265mは、国内では秋田県の田沢湖に次いで2番目の深度を誇ります。また、水質においても、平成26年度の公共用水域水質測定で最も水質の良い湖として評価され、8年連続日本一となっています。

また、湖の中を見ることが出来る遊覧船からは、柱状節理など国内屈指の透明度を誇る支笏湖ならではの水中景観を楽しめます。

支笏湖に生息するヒメマスは、「チップ」の愛称で親しまれ、平成8年に市の魚として指定されています。毎年6～8月のチップ釣りは初夏の風物詩であり、ヒメマスは重要な観光資源にもなっています。

ヒメマスを始め、ヒメマスを使用した魚醬は、今後千歳市のブランドとして売り出していく予定です。

支笏湖では、この特産品のヒメマスや国内最大級のブランドトラウトなどの釣りを楽しめるほか、温泉宿泊施設、ロケーションに恵まれた2つの趣の異なるキャンプ場、蒼の洞門、樽前山や恵庭岳などの1,000m級の山々が周辺にあり、これらの資源を活用した自然体験メニューを財団法人自然公園財団や支笏湖温泉旅館組合などが展開しています。

毎年1月下旬から2月中旬にかけては、支笏湖の湖水を噴霧し制作した氷像が幻想的な雰囲気を出す「千歳・支笏湖氷濤まつり」が開催されています。

平成18年度からは、動力船の乗り入れが規制されており、豊かな自然に加えて静かな佇まいも貴重な財産となっています。

※「苔の洞門」は、自然災害の影響のため当面は観覧ができません。

## ②温泉



- ・支笏湖温泉は、支笏湖の東岸に位置し、温泉宿泊施設や飲食店、土産物屋が集積する温泉街です。近年は、高級路線の温泉宿にリニューアルする施設が多くなっています。
- ・丸駒温泉は、支笏湖の北西岸、恵庭岳の麓に位置する温泉です。大正4年創業の源泉かけ流しの老舗旅館があり、支笏湖とつながっている天然露天風呂の湯面は、湖の水位と連動しています。
- ・いとう温泉は、支笏湖の北西岸、恵庭岳の麓に位置する温泉です。源泉かけ流しの温泉宿が1か所あり、その露天風呂は、支笏湖と岩1枚で隔てた野趣あふれる造りとなっています。
- ・また、支笏湖温泉では平成26年4月から新たな泉源により配湯を開始し、これまでのナトリウム炭酸水素塩泉に加え塩化物温泉が加わり、湯冷めしにくい保温効果があります。

※現在「いとう温泉」は、休業中です。

## ③キャンプ場



(写真) 美笛キャンプ場

- ・支笏湖周辺には、美笛キャンプ場、モラップキャンプ場の2つのキャンプ場があります。
- ・美笛キャンプ場は、支笏湖の南西岸に位置するキャンプ場です。周辺には樹齢300年以上のカツラ、ミズナラ、シナノキなどの大木からなる「巨木の森」が広がっています。
- ・モラップキャンプ場は、支笏湖の南東岸に位置するキャンプ場です。場内には砂浜が広がり、車椅子対応の水洗トイレが完備されているなど、家族連れに適したキャンプ場です。
- ・オコタン野営場は、支笏湖の北西岸に位置するキャンプ場です。ミズナラやイタヤカエデ、トドマツなどの森林に囲まれ、原始的な自然を残しています。

※現在オコタン野営場は廃止しました。



#### ④苔の洞門 (当面は観覧ができません)



「苔の洞門」は、風不死岳の麓にある枯れた峡谷にエビゴケ、チョウチンゴケ、オオホウキゴケなど約30種の苔がむした景勝地です。樽前山の噴火によって流れ出た溶岩が、沢水等により浸食されてできた回廊状の地形で、第1洞門(420m)と第2洞門(770m)に分かれており、高さ最大10mに及ぶ切り立った岩肌に、ビロードで覆われたかのような苔が生えています。

現在、岩盤崩落の危険があるため、内部への立入りは禁止されており、平成26年9月に発生した大雨の影響で観覧台も流されてしまったため、当面は外からの観覧もできません。

#### ⑤支笏湖周辺の山々 (恵庭岳、風不死岳、樽前山、紋別岳)



(写真) 樽前山の山頂

- ・ 恵庭岳 (標高1,320m) は、昭和47年の札幌オリンピック冬季大会の滑降競技会場になった支笏湖西岸に高くそびえる円錐型火山です。山頂からは、支笏湖全景や日高山系、石狩平野などが見渡せますが、現在、落石などの危険があるため第2見晴台(8合目と9合目の間)より上は立入禁止となっています。
- ・ 風不死岳 (標高1,102m) は、山頂近くまでトドマツやエゾマツ、落葉広葉樹を交える森林に覆われています。樽前山7合目ヒュッテから風不死岳登山口へ通じる道には、通称「お花畑」が広がっています。また、山頂からは支笏湖の美しい青色や、樽前山、羊蹄山やニセコの山々などが望めます。
- ・ 樽前山 (標高1,041m) は、世界的にも珍しい溶岩ドームの活火山です。比較的短時間で山頂まで行くことが可能で、活火山の様相や高山植物を見ることができ、眺望が良いことなどから多くの登山者が訪れています。なお、外輪山の内側の火口原への立入りは、禁止されています。
- ・ 紋別岳 (標高866m) は、湖畔から最も近い山で比較的短時間で登ることができます。山頂からの眺めも良く、支笏湖や樽前山、風不死岳、恵庭岳のほか、千歳・苫小牧・札幌市街が望めます。

### ⑥美笛の滝 (当面は現地まで行くことができません)



美笛の滝は、落差50m以上の高さから階段状の岩肌を白糸のように水が流れ落ちる趣のある滝です。春のヤマザクラや夏の深緑、秋の紅葉と季節ごとの風情が楽しめます。

平成26年9月に発生した大雨の影響で、現在は現地まで行くことができません。

### ⑦山線鉄橋



湖畔温泉街近くの千歳川河口に架かる一本の鉄橋は通称「山線鉄橋」と呼ばれ、記念撮影のポイントになっています。明治41（1908）年、王子製紙が千歳川に第一発電所を建設するための物資運搬用に苫小牧から軽便鉄道（山線）を走らせた際に架けたもので、当初は木製でしたが大正12（1923）年に鉄橋に架け替えられました。

昭和26年（1951）には、道路交通網の急速な発達により輸送手段がトラック等に移り変わりこの山線も廃止されましたが、その後もこの鉄橋は道路橋・歩道橋として長年利用されてきました。当時を偲ぶ唯一の名残となっています。

現在のものは、平成9年に修復工事を行い再生されたもので、平成19年に経済産業省の近代産業遺産に認定されています。

### ⑧オコタンペ湖（特別保護地区） (当面は現地まで行くことができません)



北海道三大秘湖の一つであるオコタンペ湖は、原生林に抱かれ、天候や見る角度・時間によって、湖水の色がエメラルドグリーンやコバルトブルーなどに変化して見えます。

オコタンペ湖周辺は、森林生態系保護地域に指定されており、立入りは禁止されています。

また、現在は湖までの道路は崖崩れの恐れがあるため閉鎖しており、見学はできません。

## ⑨支笏湖ビジターセンター



支笏湖ビジターセンターは、支笏湖の自然を親しみやすく示した施設で、支笏湖地区の観光案内所としての役割も担っています。館内では、火山活動の様子や支笏湖周辺に生息する動植物生態、湖の中の世界などを、模型や大型写真などにより魅力的に紹介しています。

また、支笏湖周辺の散策や野鳥観察などの自然観察会を実施しています。

このほかにも、4Kによる映像で支笏湖周辺の自然を高画質で紹介したプログラムもあり、多言語にも対応しています。

※4K映像：フルハイビジョンの4倍の解像度による映像。

## ⑩支笏湖のイベント



(写真上) 支笏湖湖水まつり  
(写真中) 支笏湖紅葉まつり  
(写真下) 千歳・支笏湖氷濤まつり

・支笏湖では、春の「湖水開き」、夏の「湖水まつり」、秋の「紅葉まつり」、冬の「氷濤まつり」と季節ごとにイベントを実施しています。

・支笏湖湖水開きでは、安全祈願祭のほか、遊覧船の割引運航に加え、一部では日帰り入浴の半額開放を行っています。

・支笏湖湖水まつりでは、2日間の日程でステージイベントや湖上打上げ花火大会を行っています。

・支笏湖紅葉まつりでは、支笏湖の特産品であるヒメマスを使った味覚汁を主に、農産物の販売や縁日などを行っています。

また、遊覧船の割引運航に加え、一部では日帰り入浴の半額開放もを行っています。

・千歳・支笏湖氷濤まつりでは、支笏湖の湖水を噴霧して制作した氷像を約3週間にわたり公開しています。期間中は、各種ステージイベントや花火大会なども行っています。会場では、甘酒やそば・うどんなどを販売する売店も設けられています。

## (2) 市街地地区の主な観光資源・施設

市街地地区は、新千歳空港やアウトレットモール、淡水魚の水族館、サケの捕魚車（通称インディアン水車）、工場見学など多様な観光資源・施設が点在したエリアです。



※「千歳サケのふるさと館」は平成27年8月のリニューアルにより、「サケのふるさと千歳水族館」となり、「道の駅サーモンパーク千歳」も平成27年8月にリニューアルオープンしました。

## ①新千歳空港



(写真上) ターミナルビル外観  
(写真下) 同ビルセンタープラザ

国内有数の規模を誇る新千歳空港は、航空機への搭乗や見送りだけでなく、飲食・買物を楽しむことができる魅力的な施設です。

平成22年3月に国際線旅客ターミナルビルが新たにオープンし、これに伴い国内線ターミナルビルの連絡橋の工事や増築も行われました。

現在、空港ターミナルビル内には、飲食店やショッピング施設のほか、キャラクターを使ったテーマパークや映画館や温泉など、子供から大人まで楽しむことのできる施設がそろっています。

また、平成27年10月には深夜早朝の発着枠が6便から30便へ増加しています。

## ②道の駅サーモンパーク千歳



道の駅サーモンパーク千歳は、平成27年8月にリニューアルオープンし、地元の新鮮野菜を提供する直売所やレストラン、フードコートのほか、大型遊具やプロジェクションマッピングを設置したキッズコーナーなど大変好評で、館内は多くの市民や観光客で賑わっています。

## ③アウトレットモール



国内外のショップが集積した道内初のアウトレットモールで、日本初・北海道初進出のショップも多数出店しています。

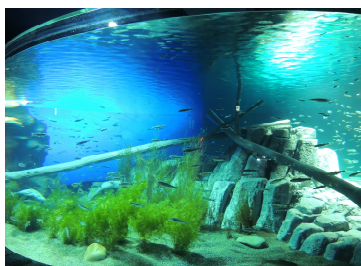
ファッションアイテムだけでなく、スポーツやアウトドア、インテリアなど多彩なラインナップのブランドを365日アウトレットプライスで楽しむことができます。

南千歳駅に隣接しているとともに、新千歳空港からも近く、交通の便がよいアウトレットモールとして札幌近郊だけでなく、道外や海外から観光客が訪れています。

また、平成22年7月に、子供から大人まで楽しめる屋内型スポーツテーマパークが併設されました。

※現在スポーツテーマパークは、閉鎖しました。

#### ④サケのふるさと千歳水族館



平成27年8月にリニューアルオープンしたサケのふるさと千歳水族館は、新設した支笏湖神秘のホールや子供が楽しめる日本初の全面アクリル製タッチ水槽、インディアン水車のミニチュアを設置した円形流水水槽などを配置し、多くの市民や観光客などに喜ばれています。

また、千歳川の中の様子を見ることができる水中観察室では、四季折々の生き物や、秋の遡上時期には産卵に向かうサケの群れを見ることができます。

#### ⑤インディアン水車



インディアン水車は、国内でも珍しい水力のみで稼働する捕魚車（遡上するサケを捕獲するための設備）です。

その歴史は、後に北海道庁初代水産課長となった伊藤一隆が、明治19（1886）年に研修のためアメリカに渡った際、西海岸のコロンビア川で見た捕魚車の設計図を持ち帰り日本に伝えたことに始まります。

この捕魚車が千歳川に初めて設置されたのは明治29年（1896年）11月で、その後改良が重ねられて現在の形になっています。サケの遡上時期（8月下旬から12月上旬）に設置され、水車でサケを捕獲する光景は、千歳の秋の風物詩として親しまれ、毎年大勢の見学者が訪れています。

#### ⑥工場見学



（写真上）ビール工場  
（写真下）ワイナリー

- ・千歳市内では、ビール工場やワイン醸造所、しょうゆ工場など、数多くの工場が見学可能となっています。
- ・ビール工場では、ビールの製造から出荷までの工程の見学と、出来立てのビールを試飲できるブルワリーツアーを実施しています。
- ・ワイン醸造所では、特産品のハスカップを使ったワイン等を製造しており、試飲や製造している蔵を見学することができます。
- ・しょうゆの製造工程などを見学できる工場では、しょうゆ造りを体験する小学生向けの見学コースも用意されています。

## ⑦名水ふれあい公園



**(写真上) 名水ふれあい公園**

**(写真下) 「北海」 第一号機の模型**

名水ふれあい公園は、内別川（水道水源）の源となるナイベツ川湧水の「名水百選」認定を記念して造られた公園です。

園内には、内別川を観察できる散策路や、湧水噴出口をイメージした水道水の水くみ場が設置されています。

また、隣接する浄水場管理棟の1階には、千歳に初めて降り立った飛行機「北海」第1号機の模型が展示されています。

## ⑧ゴルフ場



**(写真上) ゴルフ場イメージ**

**(写真下) ゴルフ場での  
冬のアクティビティ**

千歳市には、6か所のゴルフ場があり、海外・国内のプロゴルファーが参加する各種トーナメント会場にもなっている充実した環境が整っています。

全てのコースが新千歳空港から車で15～30分圏内にあり、札幌市内からも1時間～1時間20分程度と、交通アクセスも優れています。

価格帯もセルフコースからキャディ付きコースまで、多様なニーズに対応できます。

**また、一部のゴルフ場では冬のアクティビティを体験できる施設もあり、市民スキー場などを活用して観光客にスキー体験させる取組なども行われています。**

## ⑨青葉公園



千歳市中心部に位置する青葉公園は、総面積102.3haを擁する道内屈指の自然豊かな総合公園で、平成12年に市民が適正に利用・活用しながら保全する地区として、市条例に基づく第2種自然環境保全地区に指定されています。

公園内には、図書館やピクニック広場、なかよし広場、テニスコート、陸上競技場、野球場、多目的広場など、17施設が整備されています。

園内には、豊かな緑に囲まれた散策路があり、散歩やジョギング、冬には歩くスキーのコースとして多くの市民などに利用されています。

また、公園に隣接した市街地を一望できる場所にある千歳神社は、千歳川にちなんだ古く江戸時代からの歴史を持ち、季節のお祭りや行事などを通じて市民に親しまれています。

## ⑩市街地のイベント



- ・千歳 J A L 国際マラソンは、原生林に囲まれた森林コースを走るマラソン大会で、フル・ハーフ・10km・3km・**3kmファミリーマラソン競技**及び団体戦が開催され、毎年、国内外から1万人を超える参加があります。
- ・スカイ・ビア&YOSAKOI祭では、飲食ブースが出展し、4大ビールメーカーのビールや地ビールなどを味わうことができます。また、全道から集結したYOSAKOIチームによるトーナメント及びパレードのほか、空路交流都市によるPRステージや野外コンサートなど各種ステージイベントを行っています。
- ・千歳基地航空祭は、航空自衛隊千歳基地を会場に、各種装備品や自衛隊機等の展示のほか、ブルーインパルスによる曲技飛行なども行われ、全国から航空ファンが集まるイベントです。  
**毎年多くの市民や見物客が訪れる夏のイベントの代表格となっています。**
- ・インディアン水車まつりは、千歳川とサケとインディアン水車をテーマに「千歳の秋を楽しむ」をモットーにしたイベントです。道の駅サーモンパーク千歳を会場に、サケ鍋やイクラ弁当の販売のほか、ヤマメの釣堀や各種ステージ行事が行われています。

(写真上から)

千歳 J A L 国際マラソン  
スカイ・ビア & YOSAKOI 祭  
千歳基地航空祭  
インディアン水車まつり



## ⑪清流千歳川



千歳川は、支笏湖から流れ出る唯一の川で、市街地を貫流し日本海に注ぐサケの遡上する一級河川です。

その上流域の一部は、平成12・15年に厳格に保護・保存する地区として、市条例に基づく第1種自然環境保全地区に指定されています。

毎年7月から8月にかけては、キンポウゲ科の水生植物で、ウメに似た白い花を咲かす「チトセバイカモ」の見頃を迎えます。

また、釣りやラフティング、カヌーのスポットにもなっています。

千歳川沿いには、散策に適した遊歩道が設置されており、今後は桜を植樹して新たな桜の名所とする予定です。

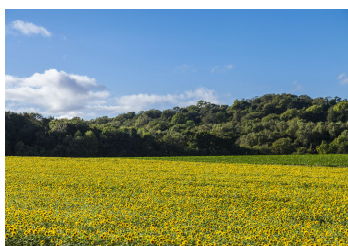
### (3) 農村地区の主な観光資源・施設

千歳市東部に広がる農村地帯は、温泉施設や数多くの農場、ファームレストラン・直売所が点在し、パレットの丘に代表される農村景観を楽しめるエリアです。札幌市や新千歳空港から近く、高速道路などの交通条件も整っており、今後、都市との交流進展が期待されています。



※「信田温泉」は、現在営業していません。

#### ①パレットの丘



パレットの丘は、国道337号から東丘へ抜ける途中の幌加地区にある波状丘陵地帯を指します。

緑肥用として植えられたヒマワリが黄色く咲き誇り、黄金色の小麦やビートの緑の葉と相まって、美しいコントラストを形成する秋に見頃を迎えます。

## ②観光農園



(写真上) 観光農園イメージ

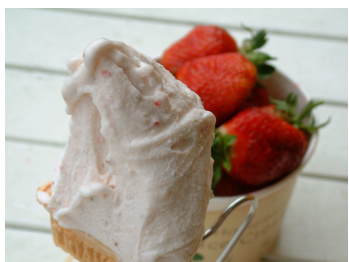
(写真下) 農場での冬の  
アクティビティ

農村地区には、牧場が多数あり、搾乳や乳製品づくりなどの酪農体験ができます。

また、イチゴやハスカップ、トウモロコシなどの収穫体験、ひまわりの迷路、ドライフラワー講習、そば打ちなどを楽しむこともできます。

このほかにも冬のアクティビティを体験できる農場もあり、多くの観光客が訪れています。

## ③ファームレストラン・直売所



農村地区には、地元産の旬の食材を生かした料理や、地元野菜・果物・牛乳を原材料にしたアイスクリームなどを提供するレストランが点在しています。また、季節の野菜や米、そばなどを販売する直売所も多い地域です。

## (4) 千歳市全域で展開する観光資源

### ①千歳バーガー



千歳バーガーは、北海道で有数の生産量を誇る千歳産の鶏卵を使用したご当地グルメです。

卵のほかにも地元食材を使用した各店舗のオリジナルメニューを楽しむことができます。

現在では、支笏湖地区から東部の農村地区に至るまで約20店舗を超えるお店が参画し、スタンプラリーなどを開催するなど新たな「食」の魅力をもPRするための取組を実施しています。

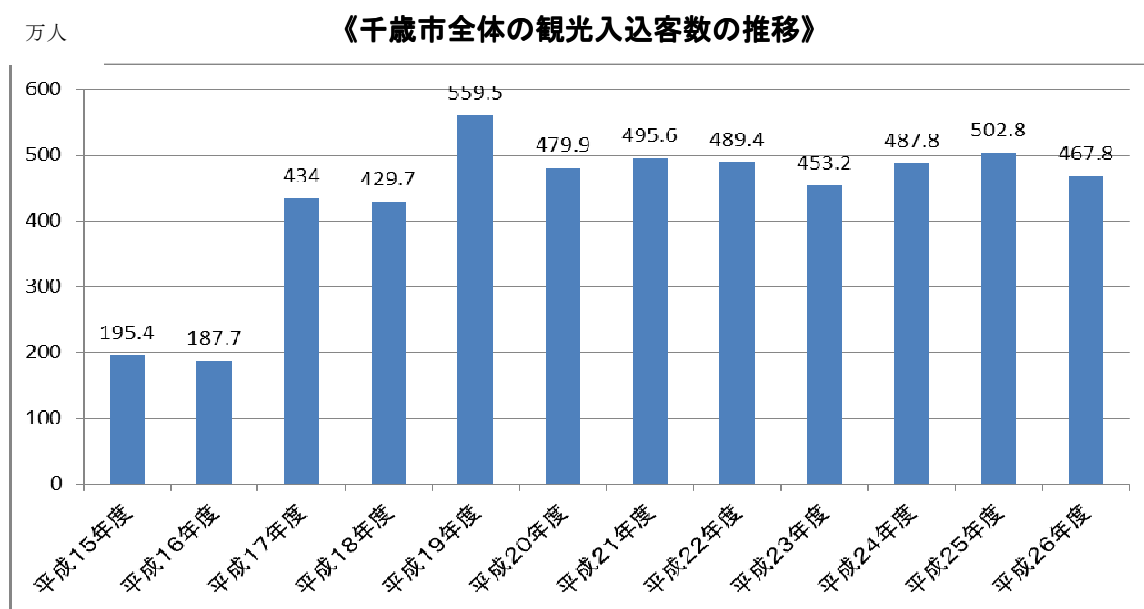
## 4. 千歳市に関する観光の状況

### (1) 千歳市全体の観光入込客数・宿泊客数

#### ①千歳市全体の観光入込客数～道内からの日帰り客が中心

千歳市全体の観光入込客数は、平成16年度までは200万人弱で推移してきましたが、平成17年4月に南千歳駅隣接地にアウトレットモールが開業したことから大きく増加し、400万人を超えるようになりました。平成19年度には559.5万人まで増加しましたが、その後減少し、平成22年度までは480万人前後で推移しています。

平成23年度は東日本大震災の影響もあり大きく減少し、その後は若干増加したものの、平成26年度は「道の駅サーモンパーク千歳」と「サケのふるさと千歳水族館」のリニューアル工事の影響もあって減少しています。

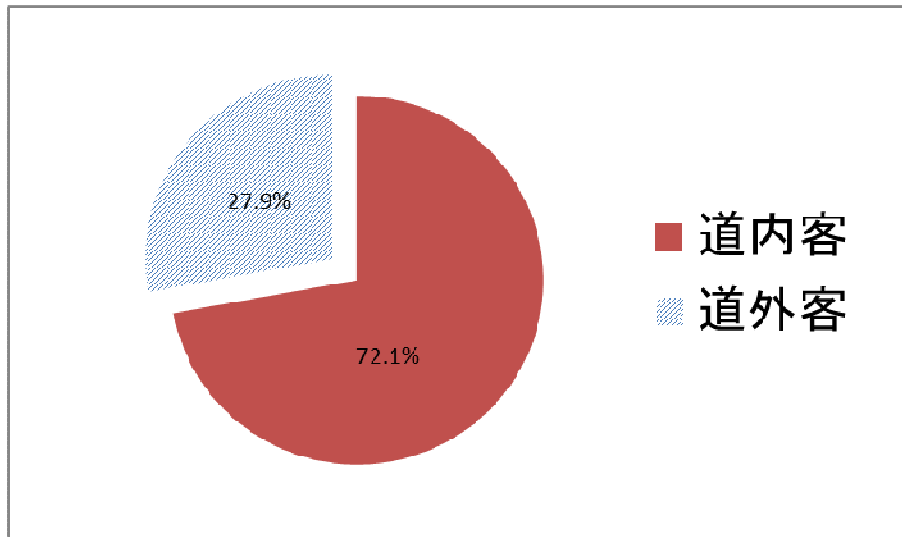


資料：千歳市資料

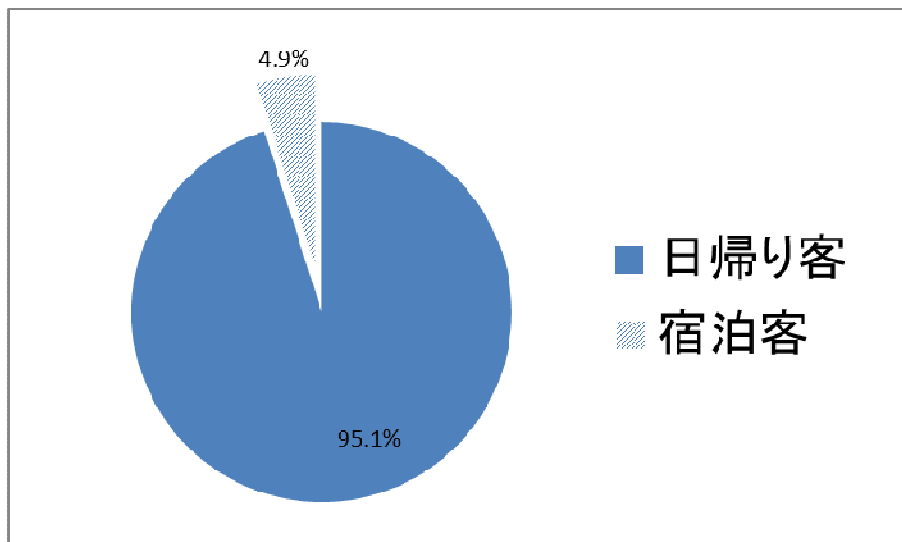
平成26年度の観光入込客数を道内客・道外客別に見ると、道内客が72.1%を占めており、一方、日帰り客・宿泊客別に見ると、日帰り客は95.1%で宿泊客を大きく上回っています。

この傾向は、平成21年度データにおいても同様の結果となっており、千歳市は道内からの日帰り客が中心の観光地であることが伺えます。

《千歳市全体における道内・道外客の割合：平成26年度》



《千歳市全体における日帰り・宿泊の割合：平成26年度》



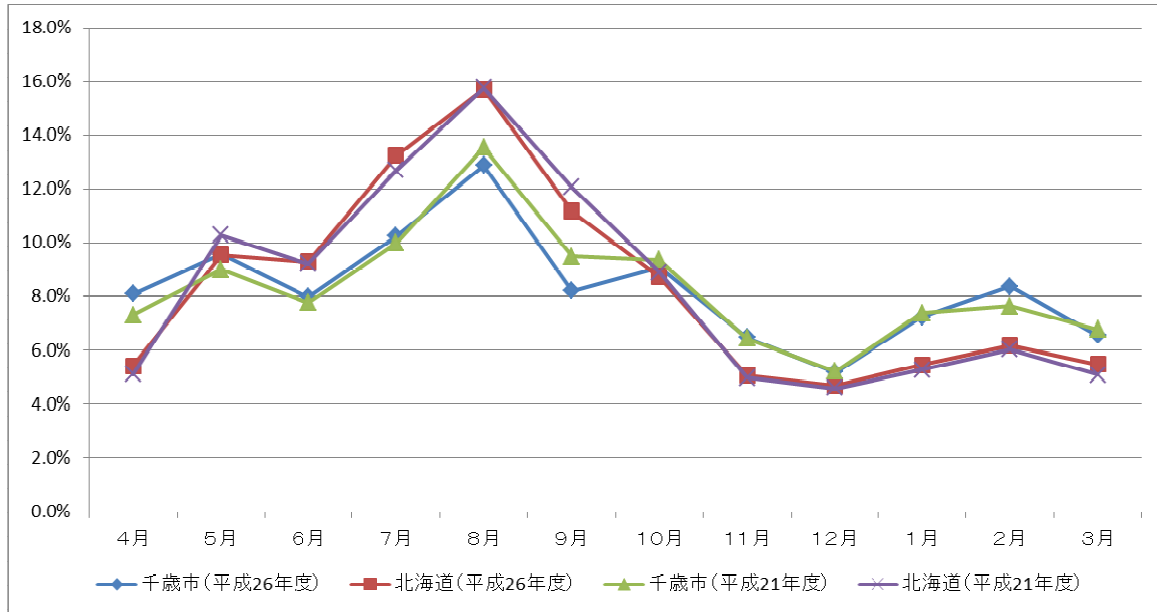
資料：千歳市資料

## ②千歳市全体の観光入込客数の季節変動～夏季の入込が最多

北海道と千歳市の月別観光入込客数について、平成21年度と平成26年度の月別割合を比較すると、8月に観光客が最も多く、12月に最も落ち込む傾向は共に同じです。

夏場の比較では、平成21年度、平成26年度共に千歳市よりも北海道が多いものの、氷濤まつりが行われる1月から2月にかけては北海道よりも千歳市が多いことがわかります。

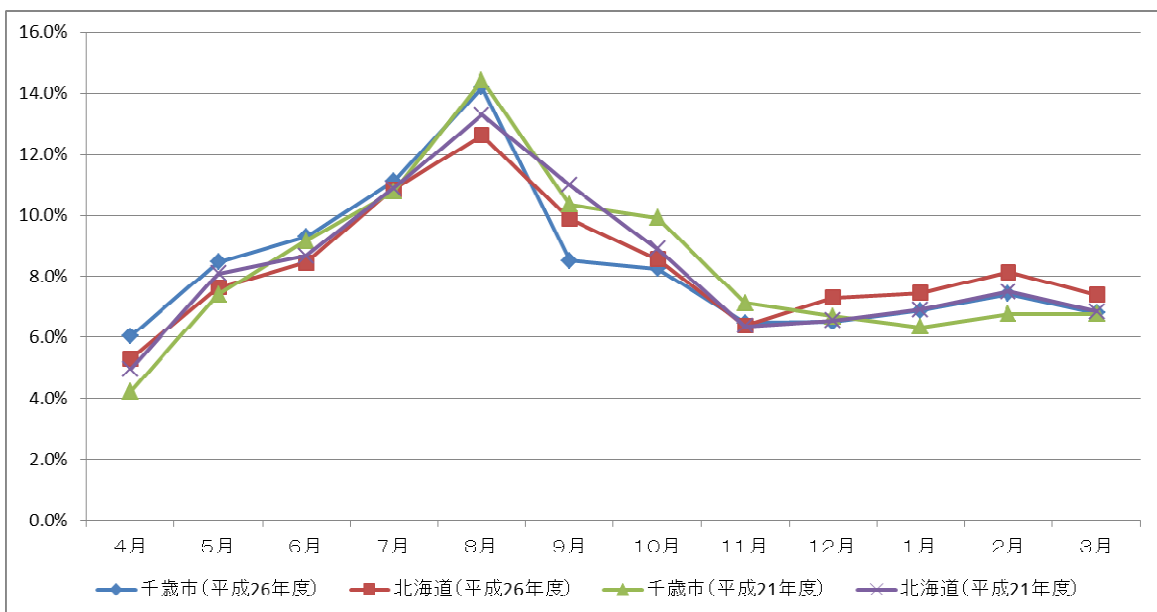
《月別観光入込客数の変化（年間合計に対する割合）》



資料：千歳市資料、『北海道観光入込客数調査』（北海道）

同様に、平成21年度と平成26年度の月別の宿泊客延べ数を比較すると、北海道、千歳市共に夏期に集中する傾向は変わっていません。

《月別宿泊客延べ数の変化（年間合計に対する割合）》



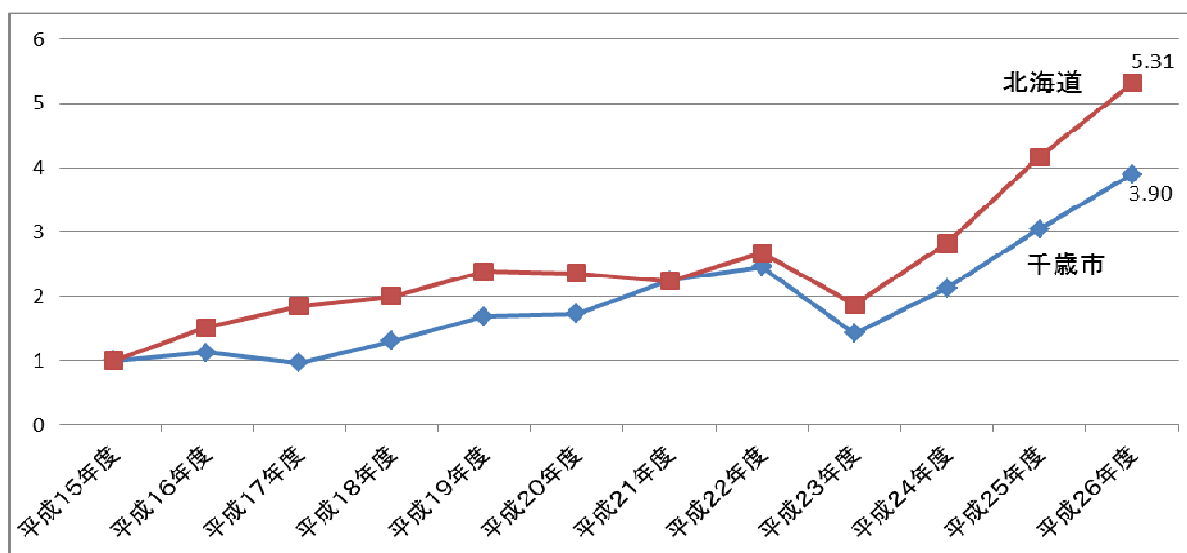
資料：千歳市資料、『北海道観光入込客数調査』（北海道）

### ③外国人宿泊客の状況～全道の伸び率よりは低いものの、中国人の増加が顕著

千歳市に宿泊した外国人宿泊客延べ数は、直近の平成26年度で年間76,533人となっており、平成15年度と比較して3.9倍に伸びています。

道内における外国人観光客数は、その間に約5.31倍の伸びとなっており、千歳市の伸び率を大きく上回っています。

《外国人宿泊客延べ数の推移～千歳市と全道の比較》



(平成15年度を1とした場合)

資料：『北海道観光入込客数調査』（北海道）

平成26年度の外国人宿泊客延べ数を国・地域別に見ると、「中国」が28,103人で最も多く、次いで「タイ」の9,534人、「シンガポール」の5,701人と続いています。

外国人宿泊客延べ数について、平成22年度と平成26年度を比較すると、タイが7.47倍、台湾が3.19倍、中国が2.56倍と増えているのに対して、韓国やシンガポールは約半分の減少となっています。

《千歳市における外国人宿泊客延べ数：国・地域別》

単位：人

国・地域 年度	アジア							ヨーロッパ	アメリカ	オーストラリア	その他不明	計
	中国	韓国	台湾	香港	シンガポール	マレーシア	タイ					
平成22	10,992	6,004	1,671	3,418	11,826	2,559	1,277	1,126	2,990	1,163	4,984	48,010
平成23	8,763	2,981	1,037	1,303	3,957	1,188	465	1,174	1,798	1,044	3,990	27,700
平成24	10,934	2,612	2,835	2,704	7,006	2,010	2,947	1,776	3,284	2,308	2,953	41,369
平成25	14,474	2,368	3,180	3,984	5,948	2,944	8,462	2,574	7,306	2,493	3,749	57,482
平成26	28,103	3,208	5,329	5,174	5,701	3,773	9,534	1,976	5,356	3,417	3,127	74,698

資料：千歳市資料

## (2) 支笏湖地区の観光入込客数・宿泊客数

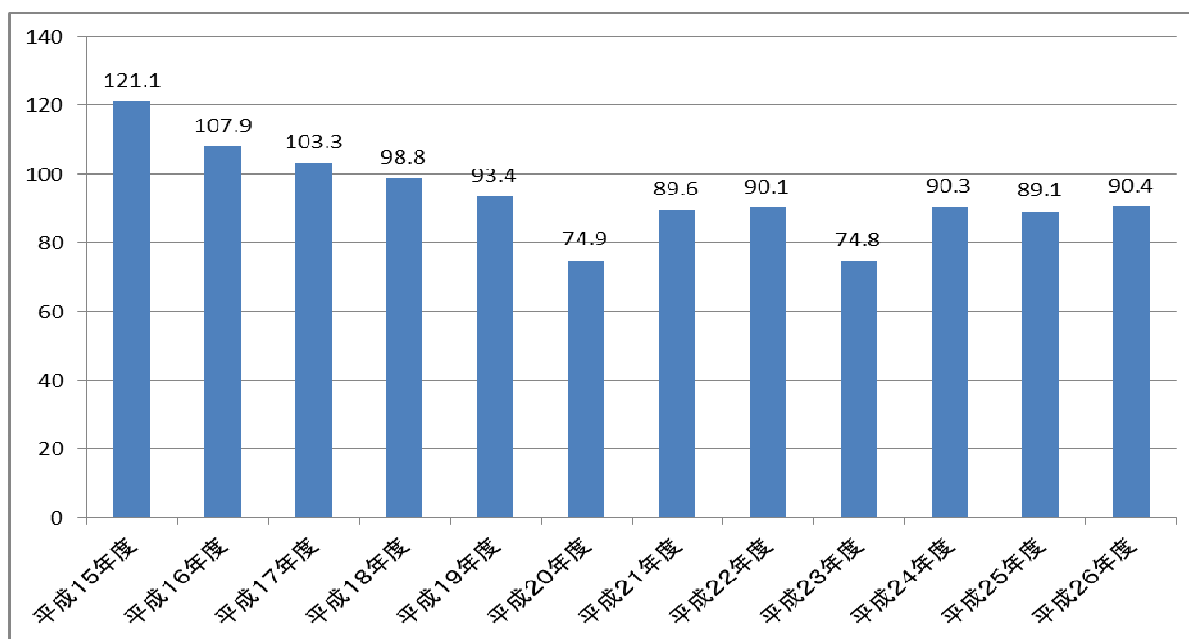
～入込客はここ数年ほぼ横ばい・道内客、宿泊客は増加

支笏湖地区の観光入込客数は、特にサミット開催に伴う警備強化や景気の低迷などが原因となった平成20年度に74.9万人まで減少しました。

平成21年度以降は回復したものの、平成23年度は東日本大震災の影響もあって再び減少しましたが、平成24年度から平成26年度まではほぼ90万人前後で推移しています。

(万人)

《支笏湖地区の観光入込客数の推移》

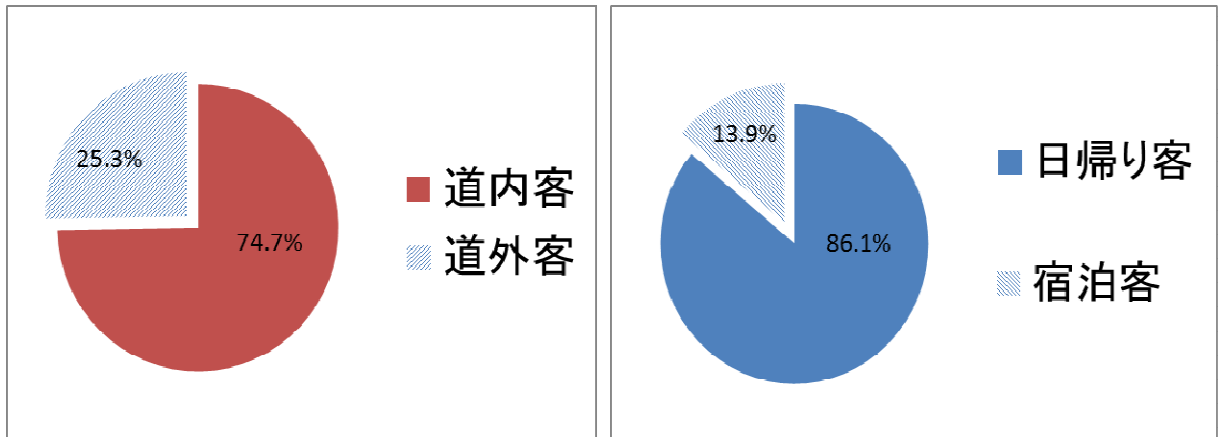


資料：千歳市資料



平成26年度の観光入込客数を道内客・道外客別に見ると、道内客が74.7%を占めています。また、日帰り客は86.1%となっており、支笏湖地区においても道内からの日帰り客が中心となっています。

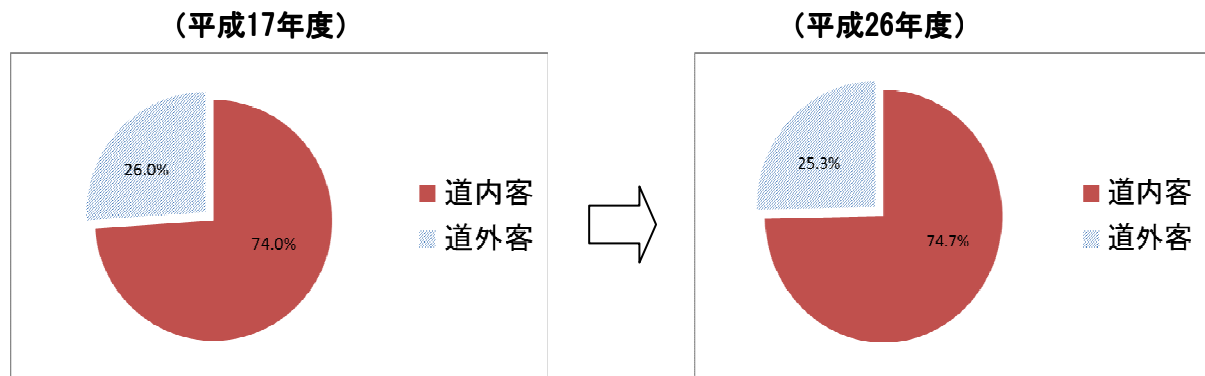
《支笏湖地区における、道内・道外、日帰り・宿泊の割合：平成26年度》  
 (道内客・道外客の割合) (日帰り客・宿泊客の割合)



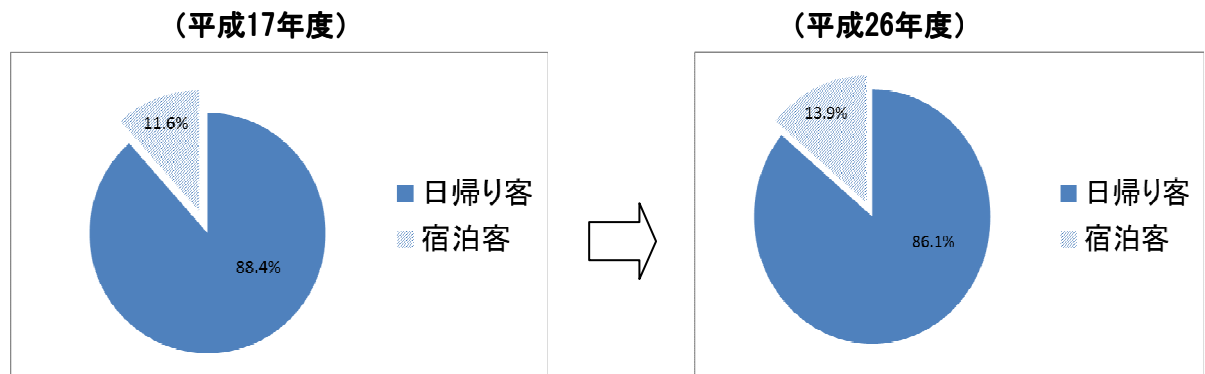
資料：千歳市資料

平成17年度と平成26年度における道内・道外客の割合と日帰り・宿泊客の割合の変化を見ると、道内客・宿泊客の割合がそれぞれ増加しています。

道内客・道外客の割合



日帰り客・宿泊客の割合



資料：千歳市資料

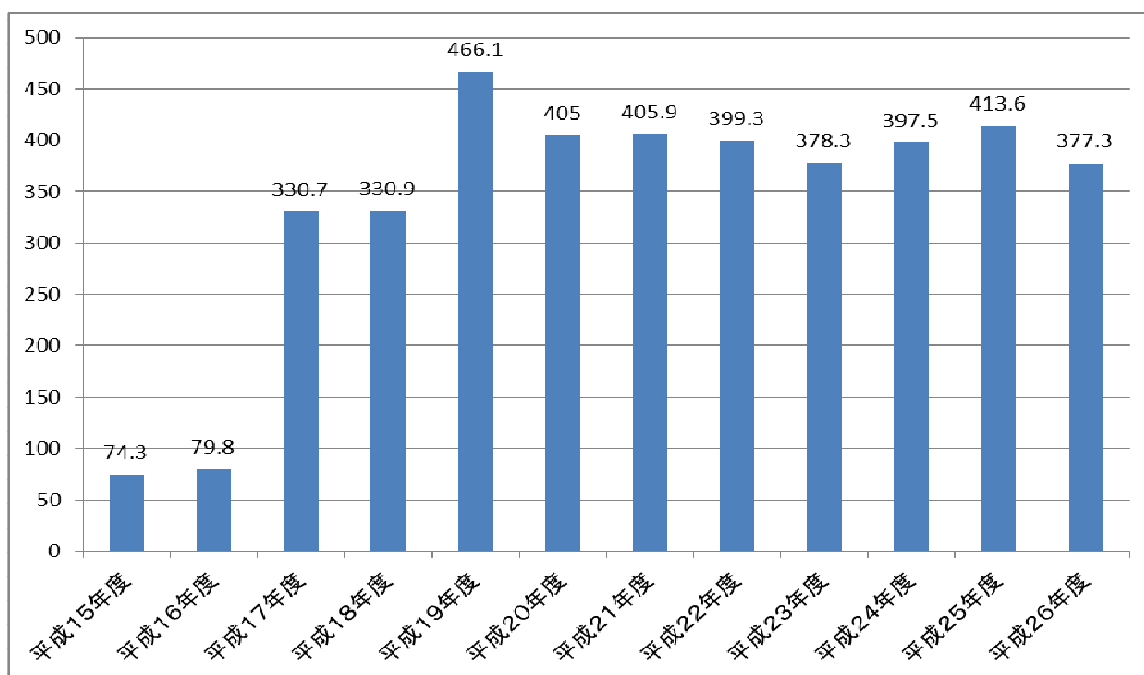
### (3) 市街地地区の観光入込客数・宿泊客数

～道の駅のリニューアル工事により入込客は減少し、道内容、宿泊客は増加

市街地地区の観光入込客数の推移を見ると、アウトレットモールが開業した平成17年度以降大きく増加し、アウトレットモールが増床した平成19年度は466.1万人まで増加しました。平成23年度は東日本大震災の影響で観光入込客数は減少し、その後は400万人前後で推移しましたが、平成26年度は「道の駅サーモンパーク千歳」と「サケのふるさと千歳水族館」のリニューアル工事の影響もあって減少しています。

(万人)

《市街地地区の観光入込客数の推移》

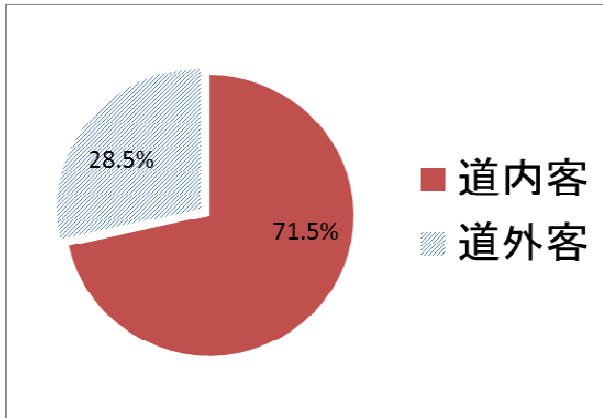


資料：千歳市資料

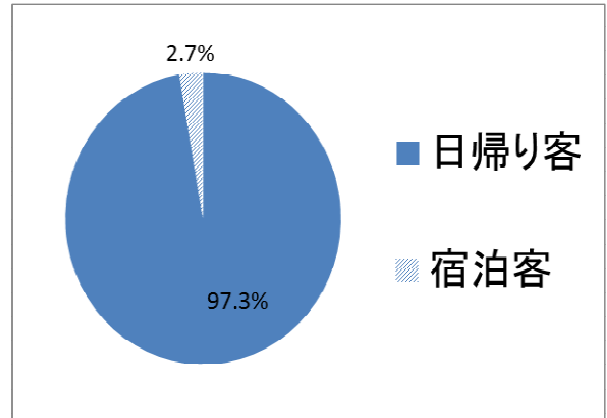
平成26年度の観光入込客数を道内客・道外客別に見ると、道内客が71.5%を占めています。また、日帰り客は97.3%となっており、これまでよりも道外客の割合は増加したものの、道内からの日帰り客が多い構成となっています。

《市街地地区における、道内・道外、日帰り・宿泊の割合：平成26年度》

(道内客・道外客の割合)



(日帰り客・宿泊客の割合)

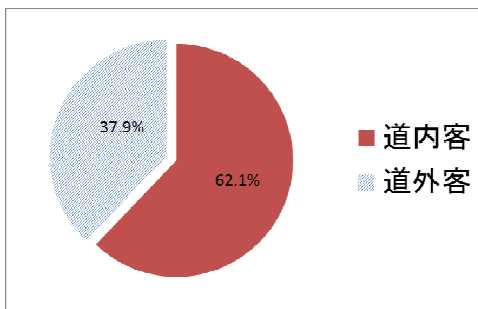


資料：千歳市資料

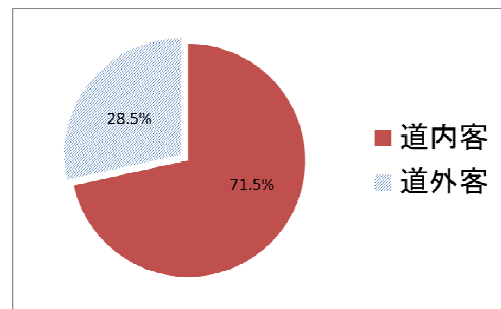
平成17年度と平成26年度における道内・道外客の割合と日帰り・宿泊客の割合の変化を見ると、道内客・宿泊客の割合が共に増加していますが、支笏湖地区と比較してまだ宿泊割合は少ないため、今後は千歳全体での宿泊割合を増加させるための取組が必要です。

道内・道外客の割合

(平成17年度)

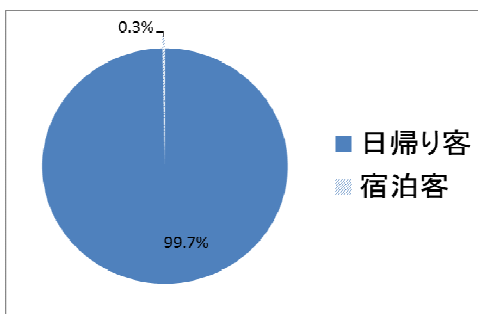


(平成26年度)

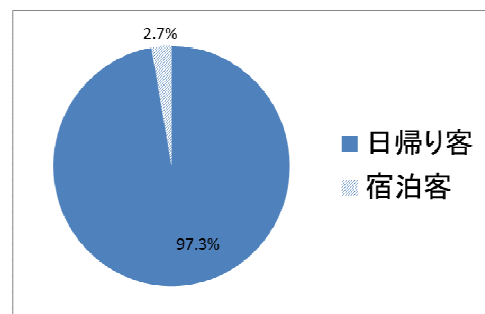


日帰り・宿泊客の割合

(平成17年度)



(平成26年度)



資料：千歳市資料

## 5. 千歳市を訪れた観光客に対する満足度調査の結果

千歳市観光振興計画の見直しに当たって、千歳市内の観光ポイントを訪れた観光客や宿泊者に対し観光満足度調査を実施しました。

調査の概要及び調査結果は、次のとおりとなっています。

なお、掲載している結果については、全ての調査項目から一部を抜粋したものを掲載しています。

### ●調査の概要

調査時期：平成27年8月～平成28年2月

調査箇所：観光ポイント→支笏湖地区、市街地地区、農村地区

宿泊施設→支笏湖地区、市街地地区

調査方法：観光ポイント→調査員による観光客への面談方式

宿泊施設→施設内での留め置き方式

調査票言語：日本語、英語、中国語（繁体字＝台湾）、中国語（簡体字＝中国本土）

### ●調査結果について

《国内観光客について》

- ・札幌市を中心とした道内近郊からの観光客が増加している。
- ・千歳観光の特徴として日帰り客が多い傾向である。
- ・宿泊を伴う旅行の方が観光消費額は多い。
- ・宿泊を伴わない国内観光客は、スポーツなどに費やす費用が最も多い。
- ・国内客からは、「宿泊施設や体験施設での接客」について期待度以上に満足度が高いという結果が得られた。
- ・千歳市の観光促進に必要な環境整備としての設問では、国内客にとっては、「情報発信の強化」が最も必要であるとの結果が得られた。

《外国人観光客について》

- ・外国人観光客による「爆買い」の影響が市内でも見られ、国内客と比べ相対的に外国人観光客が市内で消費する金額が多い結果となった。
- ・「食」や「お土産」などの充実を求める結果が得られた。
- ・千歳へのアクセス方法の調査結果では、JRやレンタカーなどの利用が増えていることから、最近では、FIT（個人や少人数による観光客）が増加していることが判明した。
- ・国籍では、依然中国本土や台湾などが多いものの、タイやマレーシア、インドネシアなどの東南アジア諸国からも多くの外国人観光客が当市を訪れている。
- ・無料公共Wi-Fiの整備について求める声が多かった。

## ●項目別調査結果

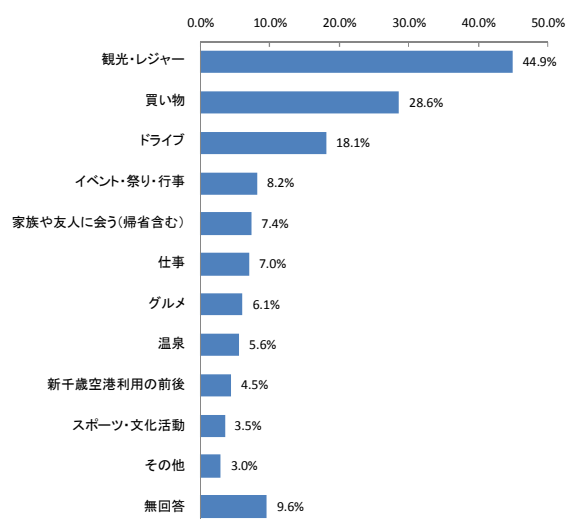
### (1) 旅行目的（複数回答）

国内客の旅行目的は、「観光・レジャー」が 928 人（44.9%）で最も多く、次いで「買い物」が 591 件（28.6%）、「ドライブ」が 374 件（18.1%）と続いている。

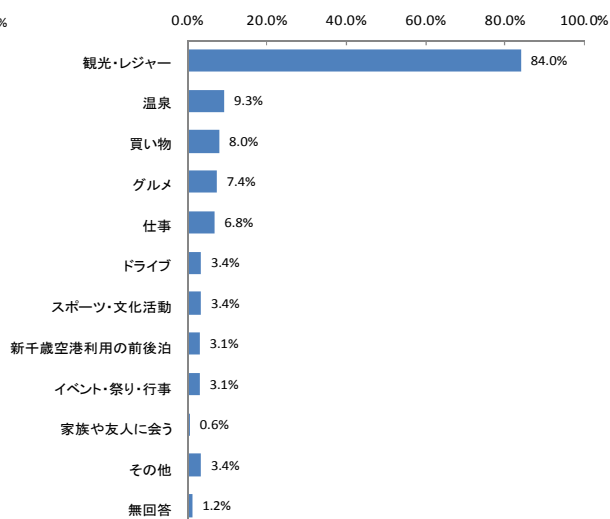
道内客と道外客を比較すると、道内客では、「観光・レジャー」が 625 件（38.1%）、「買い物」が 574 件（35.0%）と拮抗しており、次いで「ドライブ」346 件（21.1%）となっている。道外客では、「観光・レジャー」が 302 件（72.9%）と圧倒的に多く、次いで「家族や友人に会う」が 54 件（13.0%）となっている。

外国人客では、「観光・レジャー」が 272 件（84.0%）と一番多く、大きく差をつけて、温泉 30 件（9.3%）、買い物 26 件（8.0%）と続いている。

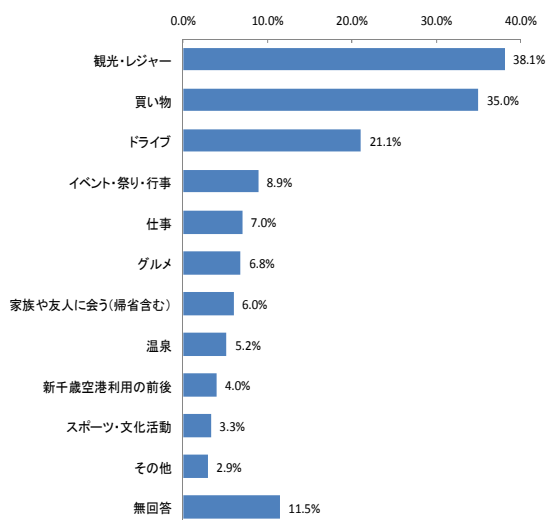
【国内客全体】（n=2,065）



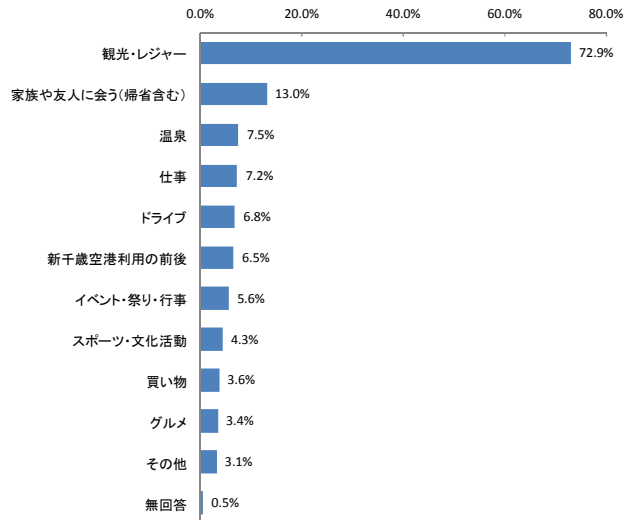
【外国人客】（n=324）



【道内客】（n=1,641）



【道外客】（n=414）



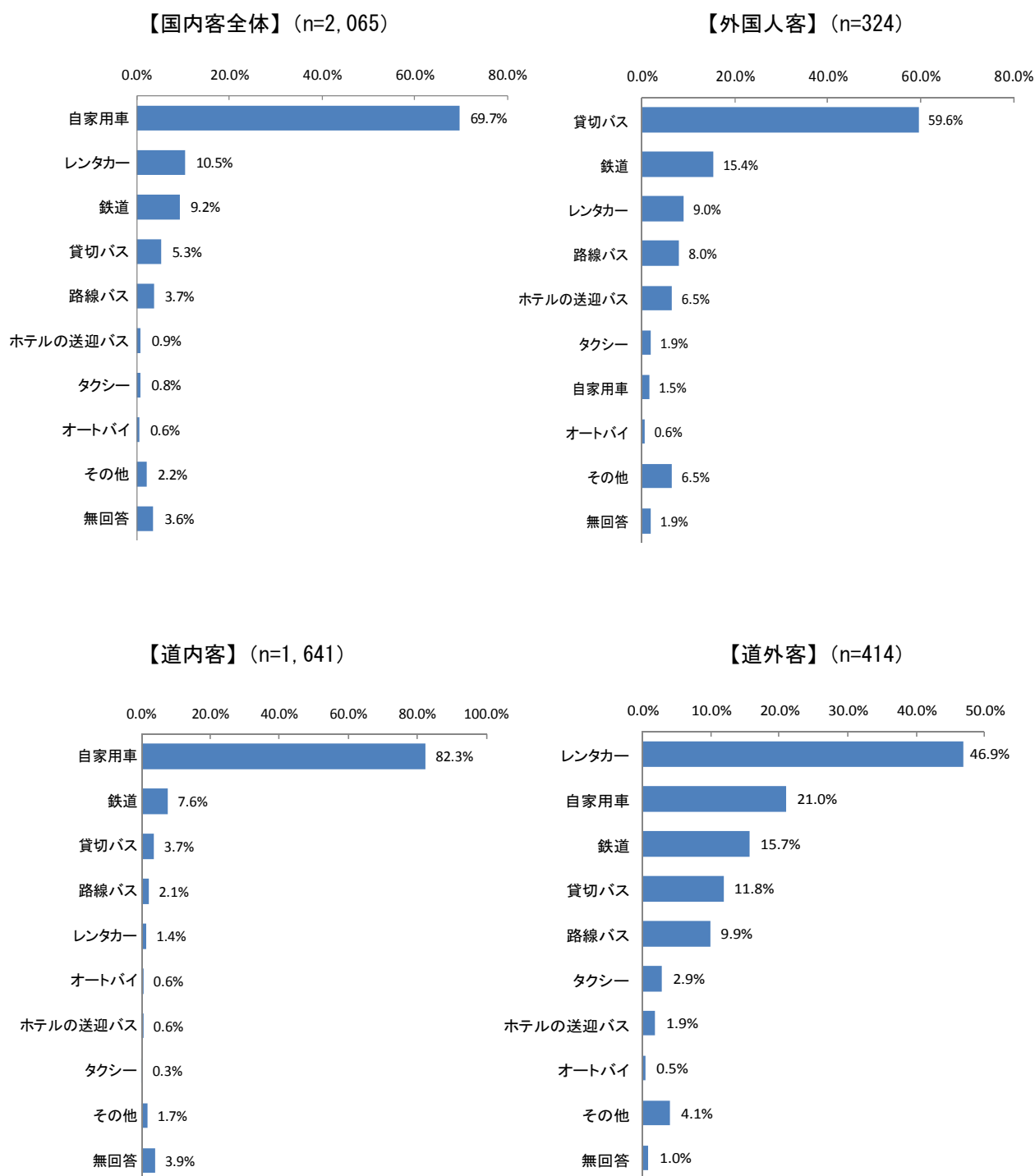
※「居住地」無回答者 10 名は、道内客か道外客の内訳が不明のため（n）から除く。

## (2) 利用交通手段

国内客の利用交通手段は、「自家用車」が1,440人(69.7%)で最も多く、次いで大きく差をつけて「レンタカー」が217人(10.5%)となっている。

道内客と道外客を比較すると、道内客では、「自家用車」が1,351人(82.3%)と圧倒的多数を占め、道外客では、「レンタカー」194人(46.9%)、「自家用車」87人(21.0%)、「鉄道」が65人(15.7%)の順に多くなっている。

外国人客では、「貸切バス」が圧倒的に多く、59.6%を占めている。



※国内客全体のうち「居住地」無回答者10名は、道内客か道外客の内訳が不明のため(n)から除く。

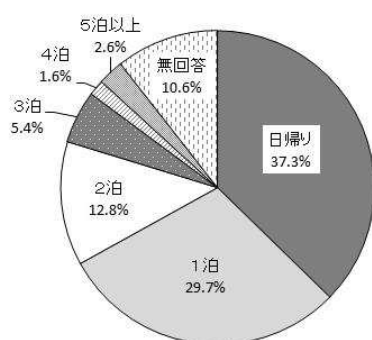
### (3) 千歳市内での宿泊

宿泊を伴う旅行中であると答えた人の中の千歳市内での宿泊数については、国内客全体では、「日帰り」が254人(37.3%)で最も多くなっている。

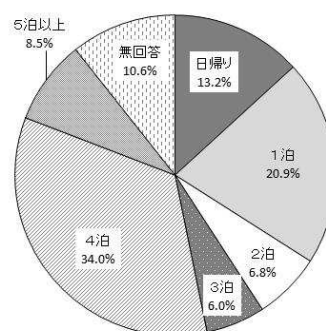
道内客と道外客を比較すると、道内客では、「1泊」が129人(43.0%)と最も多く、道外客では、「日帰り」が167人(43.8%)と最も多い。

外国人客では、「4泊」が80人(34.0%)と最も多く、「1泊」49人(20.9%)と続いている。

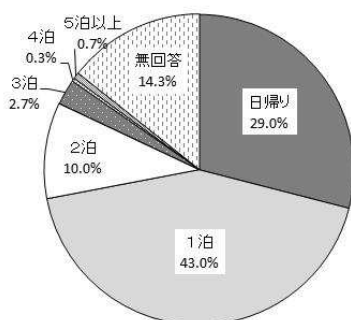
【国内客全体】(n=681)



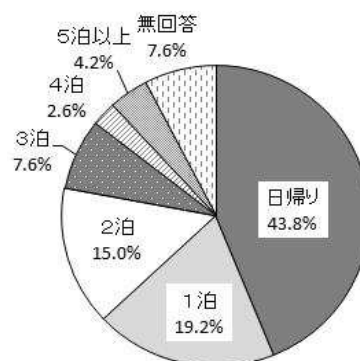
【外国人客】(n=235)



【道内客】(n=300)



【道外客】(n=381)



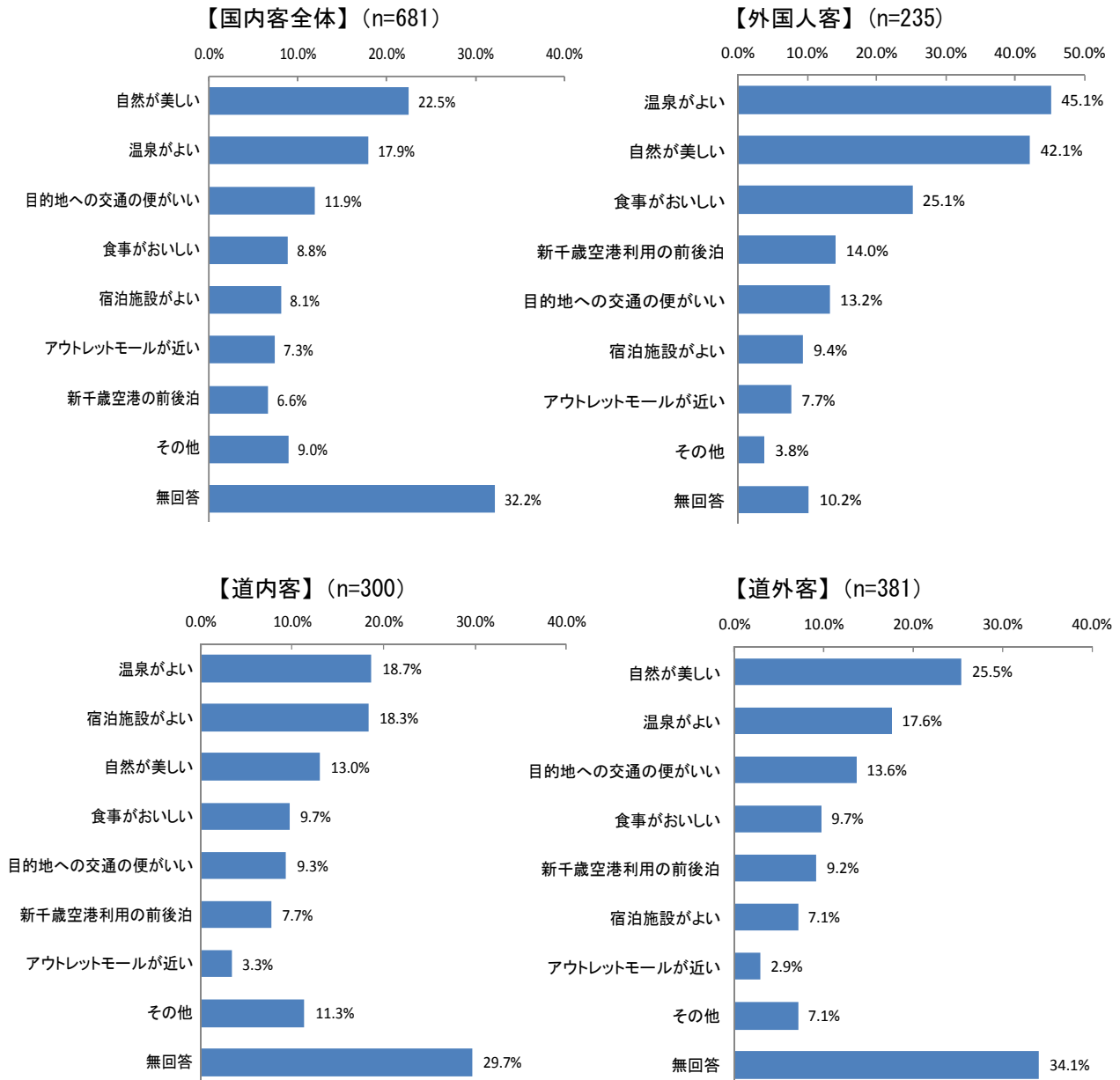
※「居住地」無回答者10名の宿泊を伴う旅行は0名だった。

#### (4) 宿泊の理由

千歳市内に宿泊した人の主な理由は、国内客全体では、「自然が美しい」が153件(22.5%)と最も多く、次いで「温泉がよい」が122件(17.9%)と続いている。

道内客では、「温泉がよい」56件(18.7%)と「宿泊施設がよい」55件(18.3%)がトップを占めているのに対し、道外客では、「自然が美しい」が97件(25.5%)と多く、次いで「温泉がよい」が67件(17.6%)と続いている。

外国人客では、「温泉がよい」が106件(45.1%)と最も多く、「自然が美しい」が99件(42.1%)、「食事がおいしい」が59件(25.1%)と続いている。



※「居住地」無回答者10名の千歳市内宿泊の有無は0名であった。

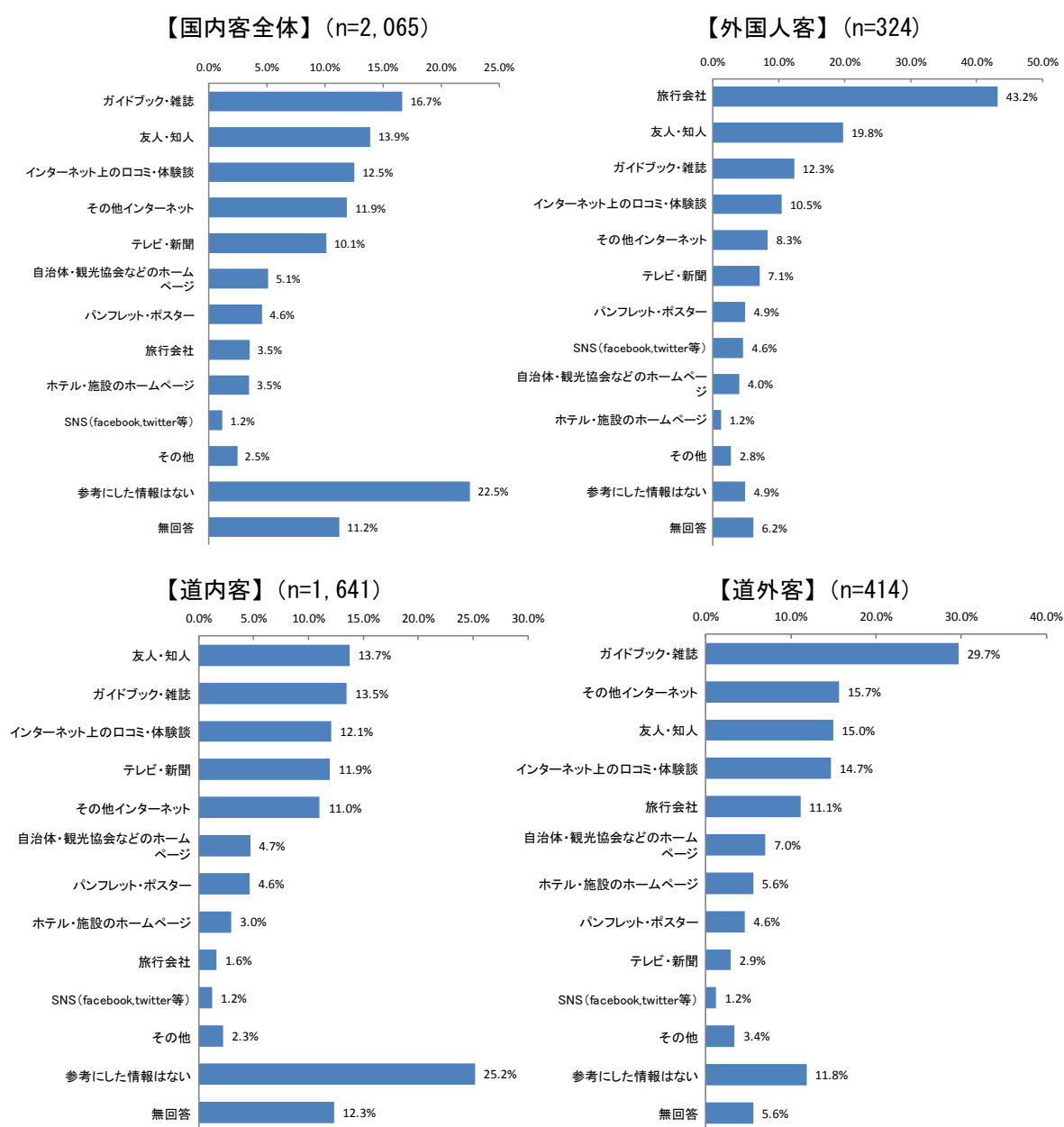


### (5) 事前に参考にした情報(複数回答)

旅行情報を得るために事前に参考にした情報は、国内客全体では、「参考にした情報はない」が464人(22.5%)で最も多く、次いで「ガイドブック・雑誌」が344人(16.7%)、「友人・知人」が287人(13.9%)の順になっている。

道内客と道外客を比較すると、道内客では、「参考にした情報はない」が413人(25.2%)で最も多く、次いで「友人・知人」が225人(13.7%)、「ガイドブック・雑誌」が221人(13.5%)の順になっている。道外客では、「ガイドブック・雑誌」が123人(29.7%)で最も多く、次いで「その他インターネット」が65人(15.7%)、「友人・知人」が62人(15.0%)の順になっている。

外国人客では、「旅行会社」の情報が140人(43.2%)と最も多く、「友人・知人」64人(19.8%)、「ガイドブック・雑誌」40人(12.3%)と続いている。



※「居住地」無回答者10名は、道内客か道外客の内訳が不明のため(n)から除く。

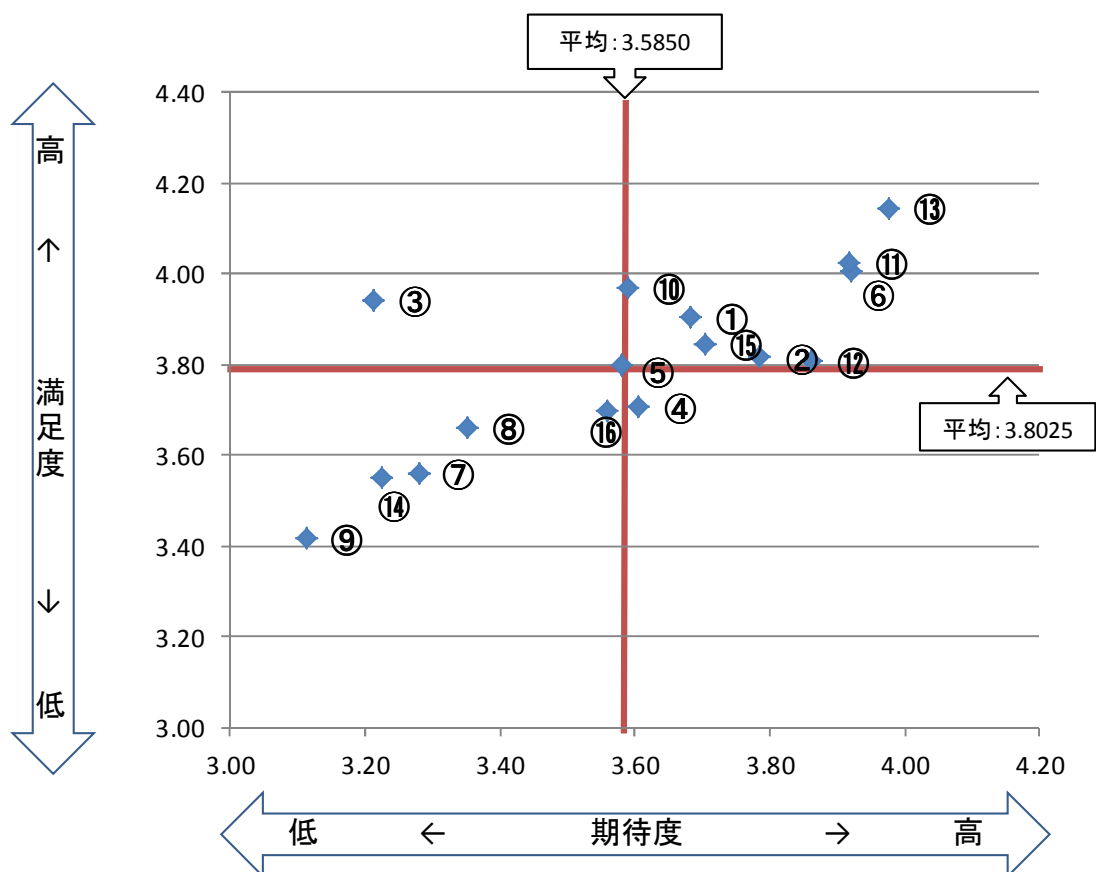
## (6) 訪問場所の期待度・満足度

### ①国内客全体の期待度・満足度 - まとめ -

国内客全体の千歳市における各訪問先での「期待度」と「満足度」をプロットし、それらの平均値を出した。期待度の平均は 3.5850 で、「どちらともいえない」と「期待していた」の中間くらい、満足度の平均はそれよりも高く、3.8025 で、「満足」にほぼ近い。

訪問地別では、期待度・満足度ともに高いのは「新千歳空港」である。また、新装になった「道の駅サーモンパーク千歳」はテレビなどで周知させたこともあり、雑誌などでも露出の高い「支笏湖温泉・丸駒温泉」とともに高い期待度を示し、ここを目指してでかけてくる観光客も多く、満足度も高かった。

期待度がそれほどでもないのに満足度が高く、評価されたのは、「支笏湖ビジターセンター」で、あまり存在を知らず、ふらっと入ったら思いのほか素晴らしかったという意見が、自由記述欄にも多くみられている。また、期待度が高かった割には満足度が低いというものはみられない。



- |                    |               |                 |
|--------------------|---------------|-----------------|
| ①支笏湖畔 (祭りやイベント時以外) | ⑦ポロピナイ        | ⑫千歳アウトレットモール・レラ |
| ②支笏湖畔 (祭りやイベント時)   | ⑧名水ふれあい公園     | ⑬新千歳空港          |
| ③支笏湖ビジターセンター       | ⑨ノーススノーランド    | ⑭そなえーる          |
| ④体験観光できる場所         | ⑩見学できる工場      | ⑮農村地区           |
| ⑤キャンプ場             | ⑪道の駅サーモンパーク千歳 | ⑯その他            |
| ⑥支笏湖温泉・丸駒温泉        | (千歳水族館含む)     |                 |

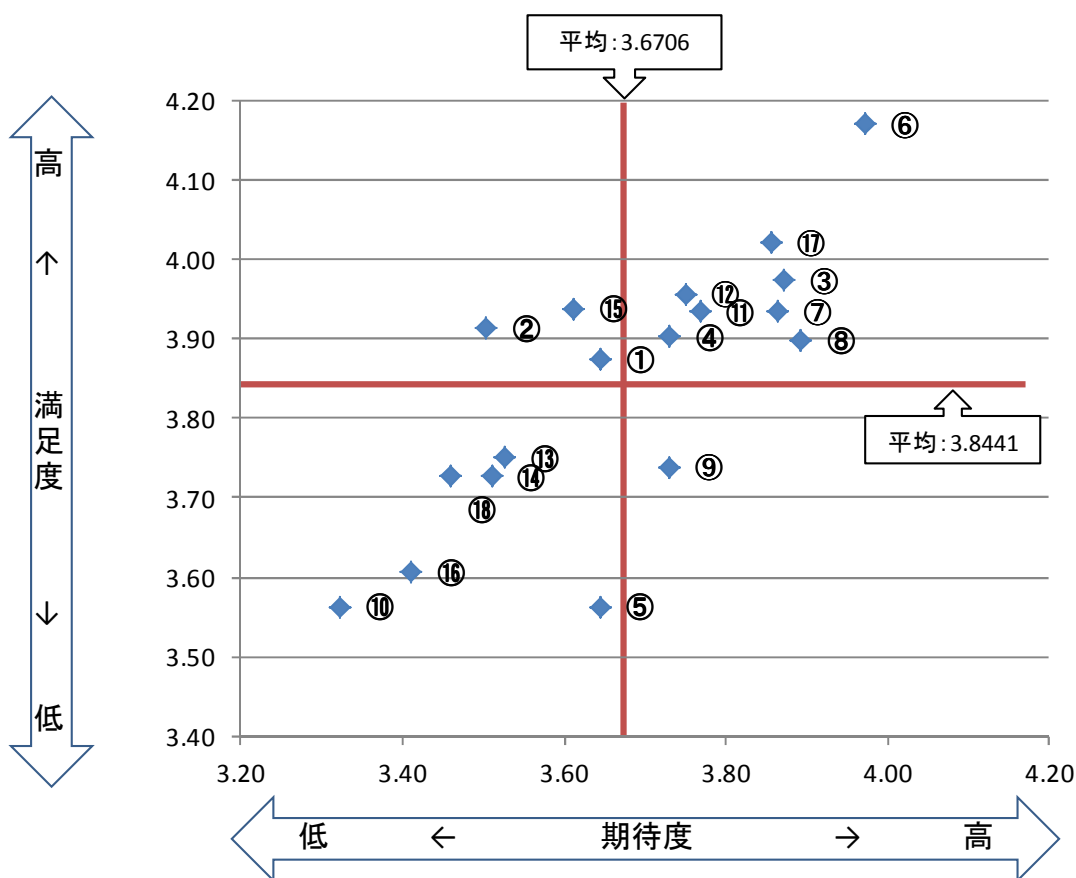
※各訪問先の期待度を、「とても期待していた」→5、「期待していた」→4、「どちらともいえない」→3、「期待していなかった」→2、「全然期待していなかった」→1、満足度を、「とても満足」→5、「満足」→4、「どちらともいえない」→3、「不満」→2、「とても不満」→1 として点数化、平均を求め、期待度と満足度の交点にプロット。また全回答の期待度と満足度の平均値を出した。

(7) 体験内容の期待度・満足度

①国内客全体の期待度・満足度 - まとめ -

国内客全体の体験の期待度と満足度の平均値をみると、期待度は3.6706、満足度は3.8441で、「期待」「満足」が多い傾向である。

期待度・満足度ともに非常に高いのが「温泉」で、「祭りやイベント」、「観光スポットめぐり」なども期待度、満足度ともに高い。「公共交通機関での移動」は満足度が低く、「冬のアウトドア体験」「農業体験」なども、満足度がやや低い。期待度はさほど高くなかったにもかかわらず満足度が高いのは「宿泊施設や観光施設での接客」となっている。



- |                |               |          |
|----------------|---------------|----------|
| ①千歳市内での宿泊      | ⑦食事・グルメ       | ⑬自然観察・学習 |
| ②宿泊施設や観光施設での接客 | ⑧買い物          | ⑭スポーツ    |
| ③観光スポットめぐり     | ⑨夏のアウトドア体験    | ⑮工場見学    |
| ④ドライブ          | ⑩冬のアウトドア体験    | ⑯農業体験    |
| ⑤公共交通機関を使つての移動 | ⑪キャンプ         | ⑰祭りやイベント |
| ⑥温泉            | ⑫自然散策・サイクリング等 | ⑱その他     |

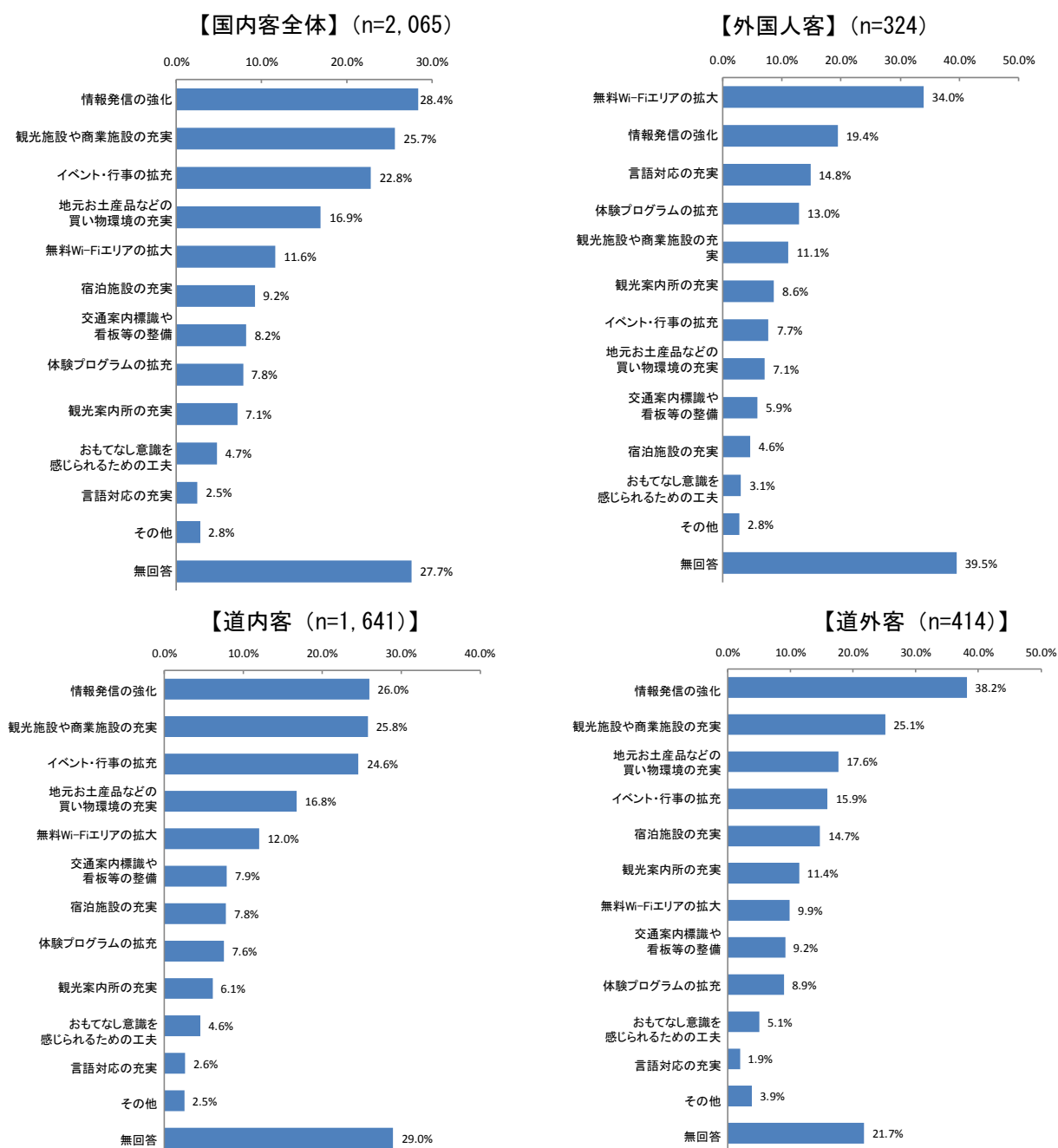
※各訪問先の期待度を、「とても期待していた」→5、「期待していた」→4、「どちらともいえない」→3、「期待していなかった」→2、「全然期待していなかった」→1、満足度を、「とても満足」→5、「満足」→4、「どちらともいえない」→3、「不満」→2、「とても不満」→1として点数化、平均を求め、期待度と満足度の交点にプロット。また全回答の期待度と満足度の平均値を出した。

### (8) 千歳市の観光促進に必要な環境整備（複数回答）

千歳市の観光促進のために必要な環境整備は、国内客全体では、「情報発信の強化」を挙げた人が566人（28.4%）と最も多く、「観光施設や商業施設の充実」530人（25.7%）、「イベント・行事の拡充」471人（22.8%）と続く。

道内客の順番は、国内客全体とほぼ同じであるが、道外客では、最も多い「情報発信の強化」を挙げた人は、38.2%と割合が大きくなる。また、道内客に比べ、「イベント・行事の拡充」を挙げた人は少なく、「地元お土産品など買い物環境の充実」や「宿泊施設の充実」を挙げた人は多かった。

外国人客では、「無料Wi-Fiエリアの拡大」を第一に挙げる人が多く、「情報発信の強化」と続いている。

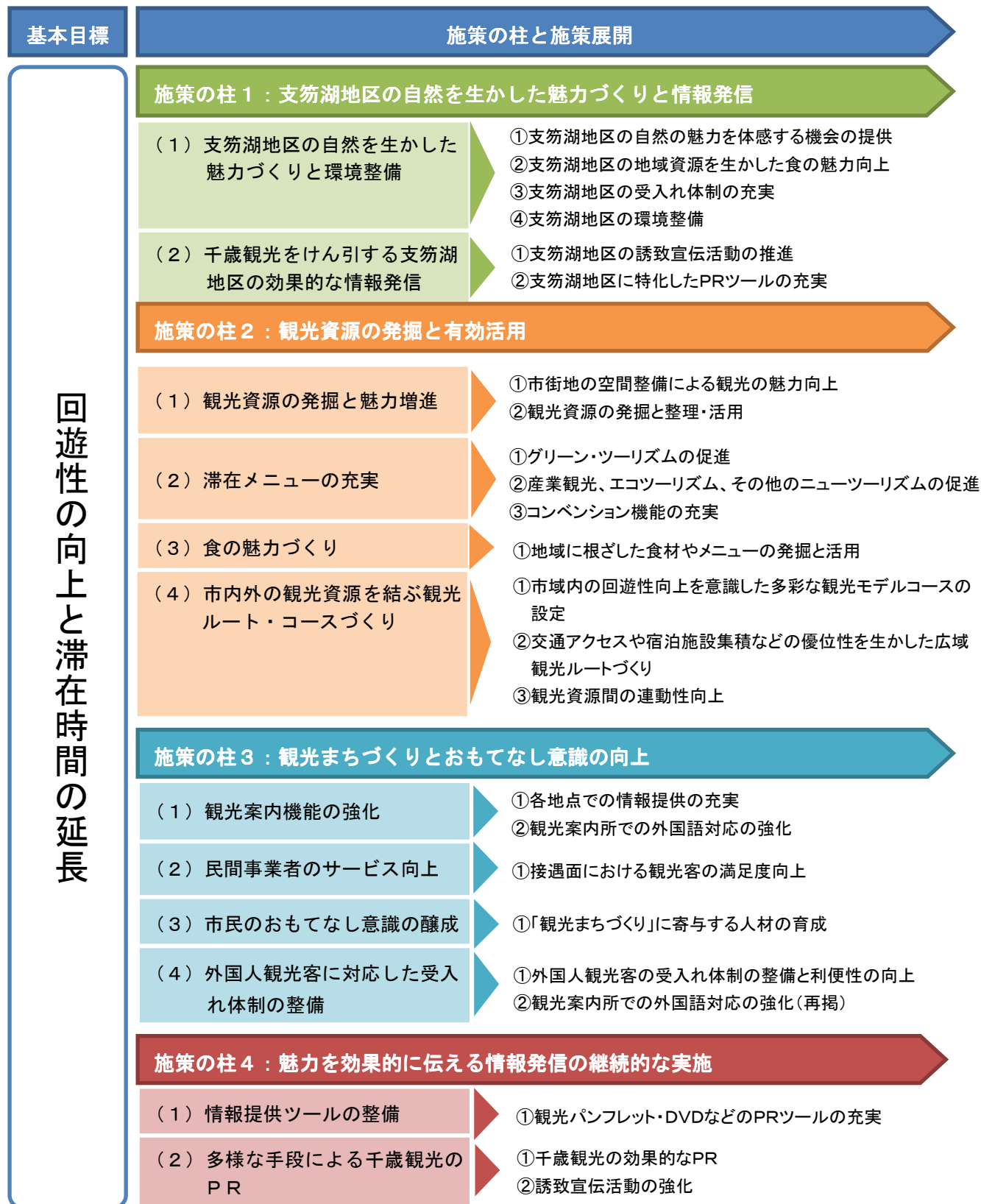


※「居住地」無回答者10名は、道内客か道外客の内訳が不明のため（n）から除く。

# 第3章 観光振興計画

## 1. 計画の体系

### 計画の体系



## 2. 観光振興に対する考え方とコンセプト・目標

### (1) 観光振興に対する考え方

平成26年度北海道観光入込客数調査によると、千歳市の観光入込客数は道内5位(468万人)となっていますが、宿泊客延べ数は道内22位(27.6万人泊)となっており、千歳市は、宿泊客の占める割合が極端に低い日帰り・立寄り型の観光地であるといえます。

平成27年度に実施した「観光客満足度調査」では、当市の観光の特徴として日帰り客が多いという結果も得られています。

一般的に、日帰りの観光客は宿泊客に比べて観光消費額が少ない傾向にあることから、「観光消費額の増加」が千歳観光の大きな課題となっています。

国内人口が減少している中、観光消費額を増加させるには、宿泊客数の増加を図るとともに、観光客の回遊性を高め千歳市内での滞在時間を延長させる必要があります。

観光満足度調査においても市内で消費する観光消費額は宿泊を伴うものが最も高いという結果となっています。

また、新千歳空港という国内・国際的な交流基盤と千歳市内の観光資源を有効活用しながら、国内観光客の再訪と国内のみならず海外からの来訪を促進するほか、新千歳空港の国際拠点空港化を目指し、関係団体等と連携して国内外の定期航空路線の維持・拡充に努めることも必要です。

観光満足度調査結果では、外国人観光客の観光消費額は国内客よりも大幅に多いという結果を得られたことから、千歳を国内客のみならず外国人にとっても魅力のある観光地として認知させ、市内での消費活動を促していく取組が今後も重要となります。

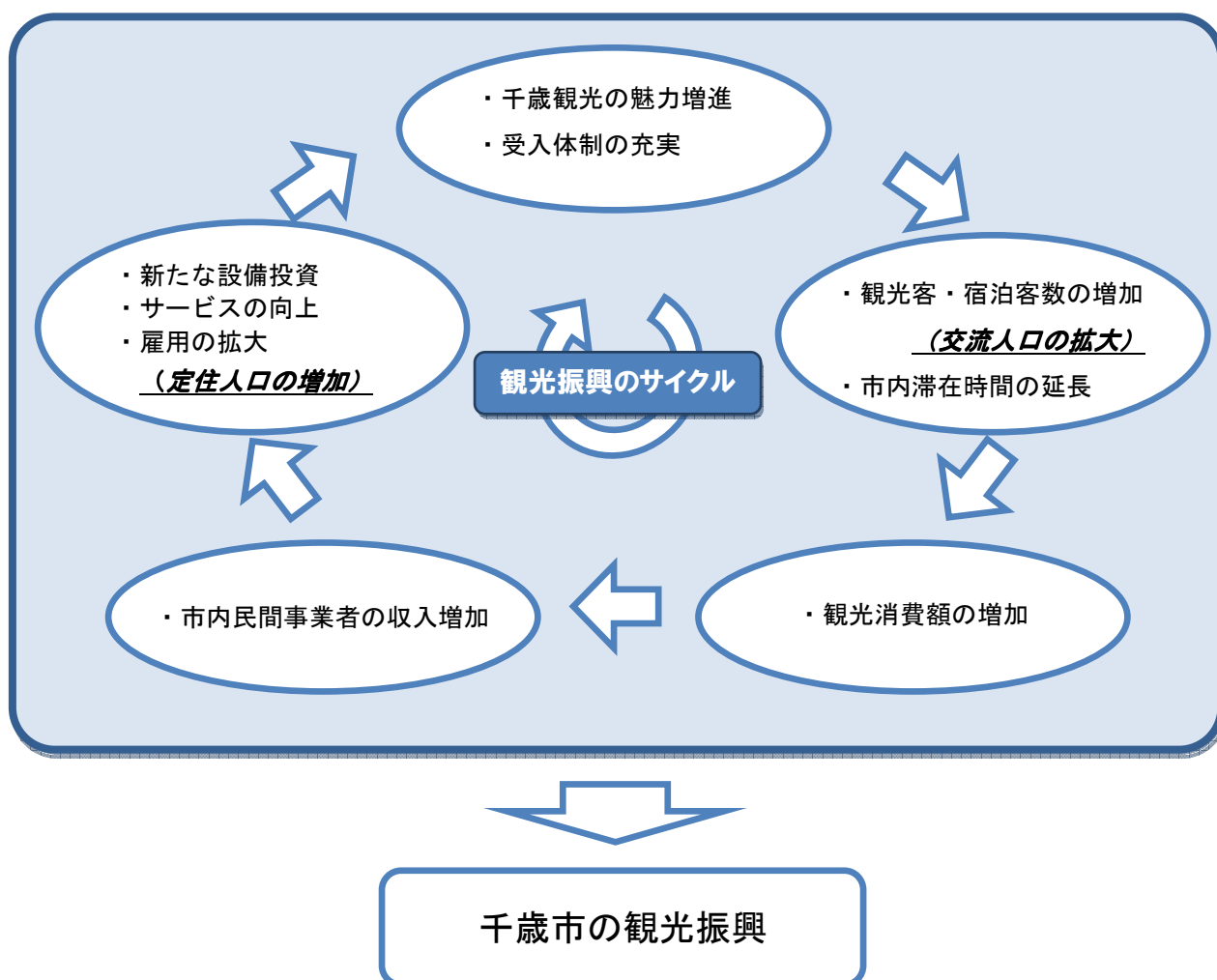
(2) 定住人口増加と交流人口拡大の考え方及び観光振興のサイクル

現在、我が国は少子高齢化時代を迎え、本市においてはまちの活力を高めるために定住人口を増加させるための各施策に取り組んでいます。

観光消費額の増加は、民間事業者の収入増のみならず、新たな設備やサービスの向上に対する投資への期待につながるほか、雇用の拡大にも好影響を与えます。さらに、民間事業者の設備投資などにより、千歳観光の魅力が高まると、観光客の増加や滞在時間が延長され、千歳市の観光振興が進展するといった好循環が生まれます。

このように、国内・外国人に限らず観光客を千歳へ誘客する「交流人口拡大への取組」によって観光産業が活性化することは、「定住人口増加」に寄与するものと言えることから、今後も特に宿泊を伴う観光客の誘客に向けて取り組んでいく必要があります。

《観光振興のサイクル》



### (3) 計画の基本コンセプト

計画の基本コンセプトは、「空が結ぶまち千歳・水が繋(つな)ぐまち千歳～豊かな自然(水・緑・温泉)と交通アクセスを生かした観光地づくり～」とします。

この計画の基本コンセプトは、千歳観光の将来性や方向性を示す計画上の指針であるほか、千歳観光のイメージを確立し、観光客や旅行会社などに千歳観光の素晴らしさを伝えるメッセージとなります。

計画の基本コンセプトには、豊かな自然と交通アクセスを生かした観光地づくりを進めることにより、空路で結ばれている国内外の各地から、多くの観光客が千歳市を訪れ、清流千歳川がつなぐ千歳市内の各地区を回遊し、滞在時間が延びることへの期待を込めています。

#### 【千歳観光の基本コンセプト】

**空が結ぶまち千歳・水が繋<sup>つな</sup>ぐまち千歳**  
～豊かな自然(水・緑・温泉)と交通アクセスを生かした観光地づくり～

#### 「空が結ぶまち千歳」

北海道の空の玄関である新千歳空港や、手付かずの自然が残されている支笏湖の澄んだ空気、農村地区の青い空が、空路で世界各地と結ばれるといった無限の広がりを持つ千歳の可能性を表現しています。

#### 「水が繋<sup>つな</sup>ぐまち千歳」

支笏湖から市街地の中心部を流れ、農村地区の一部を潤している清流千歳川が「支笏湖」「市街地」「農村」をつなぐ象徴的な存在であり、この清らかな流れとともに千歳観光を発展させようとの思いを表現しています。

### (4) 計画の基本目標と施策の柱

計画の基本目標は、「(1) 観光振興に対する考え方」及び「(2) 定住人口増加と交流人口拡大の考え方及び観光振興のサイクル」で示したとおり、観光消費額の増加が肝要と考え「回遊性の向上と滞在時間の延長」とします。

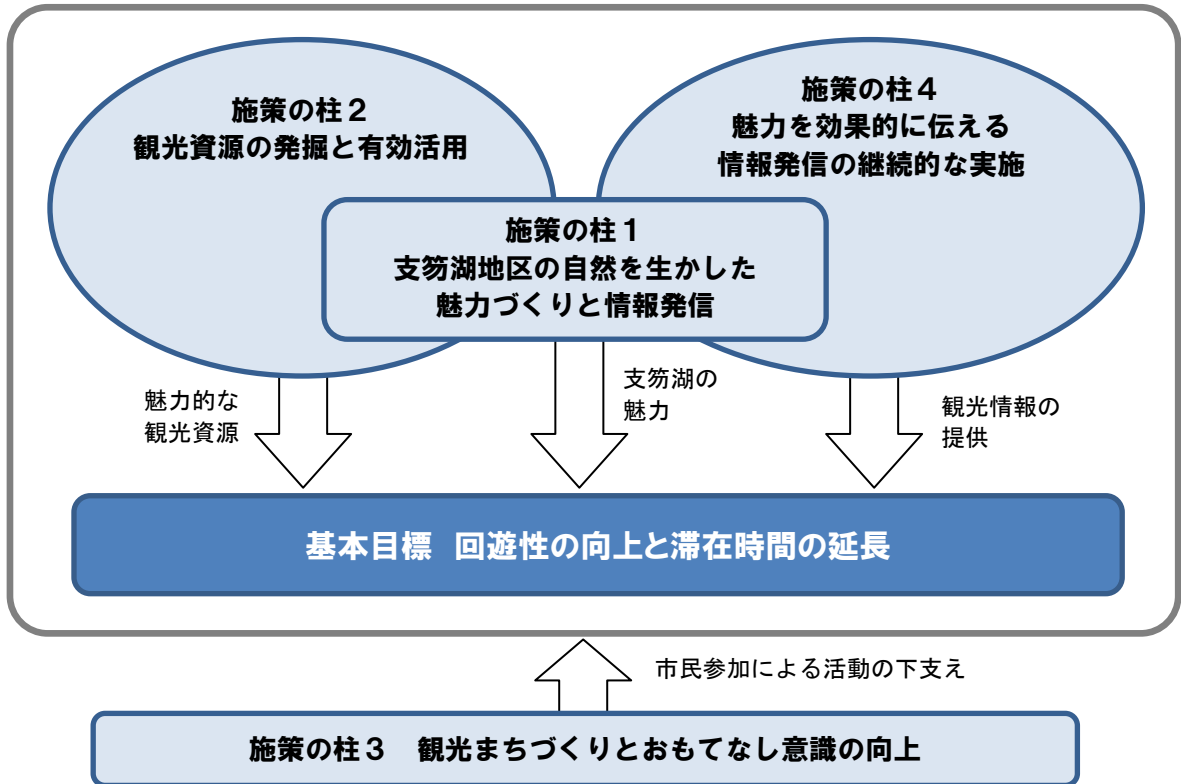
この基本目標を実現するために、「①支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと情報発信」「②観光資源の発掘と有効活用」「③観光まちづくりとおもてなし意識の向上」「④魅力を効果的に伝える情報発信の継続的な実施」を施策の柱に据え、柱ごとに現状と課題を整理し、今後推進すべき施策を展開していきます。

施策の柱は、「千歳市第6期総合計画」の観光振興の柱「(1) 観光都市としての魅力づくり」「(2) 観光客の満足度を高める受入れ環境の充実」「(3) 観光客誘致宣伝活動の推進」の3本柱に対応した順となっています。

なお、支笏湖については、千歳観光を代表する観光資源であることから、施策の柱1として取り上げ、この魅力をけん引役に千歳観光の集客力向上を図っていきます。



《基本目標と施策の柱の整理》



(5) 計画の指標

計画に掲げる各種施策が有効に機能し滞在時間が延びると、観光客の消費額の増加につながります。

このため、千歳市観光振興計画では、観光消費額を計画の指標とします。

	平成23年度 (新規調査)	平成27年度	平成32年度
観光消費額	<u>国内客：16,941円</u> <u>外国人客：39,260円</u>	<u>国内客：12,571円</u> <u>外国人客：61,341円</u>	増加

※消費額は、千歳市内で旅行中に消費した一人当たりの金額

**観光消費額結果の分析**

前回調査との比較では、国内客全体は消費額が減少し、外国人客全体は約1.5倍となりました。

これは、いわゆる「爆買い」する外国人に比べて国内客が旅行に充てる費用が減少したとする見方がある一方、宿泊施設では外国人客が増加したことにより国内客が予約を取りにくい状況であり、相対的に国内客の消費額が減少した傾向もあると分析できます。

宿泊した場合は、宿泊しない場合と比較して消費額が約2.8倍に増加することから、今後も引き続き国内客、外国人客ともに宿泊を伴う観光をしてもらうための取組を促進させる必要があります。

## (6) 計画の推進体制

千歳市は、観光による地域経済の活性化と魅力的なまちづくりを地域が一体となって推進するため、新たな観光振興計画を策定しました。

千歳市では、この計画に基づき、国・北海道・近隣市町村を始め、観光振興に関連する機関、団体などとの連携を図りながら、観光情報の収集に努め、地域のイメージを発信するとともに、民間事業者及び市民の活動支援や基盤整備を含めた総合的な施策の推進を図ります。

計画には、今後10年間で取り組むべき施策とその実施主体の目安を示していますが、裾野の広い産業と呼ばれている観光は、旅行会社や宿泊施設、観光レクリエーション施設、飲食店、旅行雑誌社、交通機関など関連する事業者が多岐にわたっており、その推進には、各主体の積極的な取組と様々な主体との連携が求められます。

特に、地域の力を結集し千歳観光をより盛り上げていくには、観光振興の一翼を担い積極的に事業展開している千歳観光連盟や千歳商工会議所との連携が欠かせません。

最近では、これら観光に携わる様々な分野の方々が一堂に会する「千歳の観光を考える会」が発足しており、業種の垣根を越えた意見や情報を交換する場として活用されています。

千歳市では、これらの組織と連携し、具体的な事業の検討や計画の進行管理等を定期的に行う場を設け、計画に掲げた施策等を着実に実行していきます。

## (7) 第2期千歳市商業振興プランとの連携について

平成28年3月に千歳市が策定した「第2期千歳市商業振興プラン」では、多くの市民や観光客を市内の商店街などに誘客し、売り上げに結び付けるため、個店の情報発信力や商品の付加価値を高める「個店の魅力向上」や、新千歳空港や道の駅などの集客力が高い施設を有するメリットを活用し観光客等の回遊性を高める「地域特性を生かした商店街づくり」などを基本目標とし、施策の効果を図る成果目標の一つとして「年間商品販売額」を設定しています。

一方、本観光振興計画では、「千歳市内における観光消費額」を計画の指標としており、より多くの観光客が千歳市内で買い物や観光施設で消費していただけるよう「回遊性の向上と滞在時間の延長」を基本目標として設定しています。

このため、観光やスポーツ大会などで千歳を訪れる交流人口が拡大し、かつ、市内での滞在時間が延長することは、市内での消費活動が活発化して観光消費額が増加することにつながることから、本観光振興計画に基づいた施策の推進は、商業振興プランが目標とする「年間商品販売額」も満足させるものとして位置付けることができます。

今後も市内全体での消費活動を活性化させるためには、観光と商業が相互に連携・補完して施策に取り組んでいく必要があります。

### 3. 施策の展開

#### 施策の柱1 支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと情報発信

支笏湖とその周辺の手付かずの自然は、千歳市の最も重要な観光資源となっています。

支笏湖地区の魅力は、国立公園として保護されてきた豊かな自然景観や温泉などが、新千歳空港から至近にあり、比較的移動に時間を要しないで楽しめることにあります。

施策の柱1「支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと情報発信」では、支笏湖地区の自然環境の保全に配慮した魅力づくりと情報発信を推進し、ひいては千歳観光全体の魅力向上につなげていきます。

#### 【現状と課題】

##### ■支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと環境整備

千歳市を代表する観光地である支笏湖は、平成26年度の観光入込客数によると、依然日帰りの観光客が多く、雄大な自然をより深く楽しむ体験型の観光客は少ない状況にあるといえます。

登山・自然散策・カヌーなどの自然を生かした多彩な体験メニューの展開とPR、地元食材を生かしたメニューづくりなどにより、他の観光地との差別化を図ることが必要です。

一方、平成27年度に実施した観光満足度調査では、千歳市内に宿泊した理由として「自然の美しさ」や「温泉の良さ」などが上位に挙げられていることから、これらの魅力をより磨き上げる取組が必要です。

そのためには、支笏湖の観光を支える人材・組織の育成や、観光客を迎え入れるための環境整備が求められています。

また、平成26年4月から新泉源（第2泉源）により配湯を開始しており、支笏湖温泉の新たな魅力となっています。

## ■千歳観光をけん引する支笏湖地区の効果的な情報発信の強化

支笏洞爺国立公園に属する支笏湖は、日本最北の不凍湖としても知られています。この支笏湖の魅力は、交通アクセスの良さと、湖を囲む山々や温泉、森に息づく動植物などの豊かな自然環境を兼ね備えているところにあります。

新千歳空港から車で僅か40分足らずで堪能できる「静かな佇まい」の観光地支笏湖というイメージを浸透させ、こうした魅力をPRすることで、千歳市を訪れる観光客の増加につなげていく必要があります。

しかしながら、まだ支笏湖の情報発信は充分とは言えず、平成27年度に実施した「観光客満足度調査」では、千歳市の観光促進に必要な環境整備としての設問に対しては、国内客は「情報発信の強化」を最も望むものとしていたことから、インターネットなど様々な媒体を活用して国内外に支笏湖のロケーションを始め、イベントの周知や自然の魅力を発信していく取組が今後も必要であり、支笏湖の魅力を広くPRするための体制づくりが求められています。

## (1) 支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと環境整備

### ① 支笏湖地区の自然の魅力を生かす機会の提供

支笏湖周辺には、自然散策のほか、夏の「支笏湖湖水まつり」や冬の「千歳・支笏湖氷濤まつり」など四季折々のイベントが開催され、多くの観光客が訪れています。

支笏湖地区の自然の魅力を生かした体験メニューやイベントの充実を図り、観光の通年化や観光入込客数と滞在時間の増加につなげていきます。

#### 戦略的な取組

##### ◎ 多彩な体験メニューと商品づくり

支笏湖周辺では、登山を楽しめる山々、温泉やキャンプ場があるほか、釣りなどができ多彩な体験観光や学習メニューの展開が可能です。

こうした条件を生かした地域ならではの体験メニューづくりと、民間事業者や団体等による体験観光の商品化を促進し、観光の通年化を図ります。

○ 四季折々のイベントの魅力拡充とPR

○ 温泉湯めぐり手形の促進

### ② 支笏湖地区の地域資源を生かした食の魅力向上

市の魚に指定されているヒメマスは、支笏湖を代表する食資源です。

この支笏湖産ヒメマスを活用した食の発掘や、既存のご当地グルメの普及・定着に努めるとともに、支笏湖産ヒメマスなどを活用した新たなメニューづくりを促進します。

また、観光客に親しまれているヒメマスの更なる商品化を推進し、「支笏湖産ヒメマス」のブランド形成を促進します。

ヒメマスのブランド化については、国の地域住民生活緊急支援交付金を活用して平成27年度には急速冷凍庫などを購入するなど、ヒメマスの安定供給に向けた具体的な取組を進めており、今後はヒメマスを使った「魚醤」などの加工品を含めブランド形成に向け努めていきます。

○ ご当地グルメの定着・普及

○ ヒメマスなどを活用した食の発掘等

○ 支笏湖産ヒメマスのブランド形成

### ③支笏湖地区の受入れ体制の充実

外国人観光客にも対応した体験観光等を推進するため、その受け皿となる組織の育成など受入れ体制の充実を図り、観光地としての魅力を高めます。

#### 戦略的な取組

##### ◎地元発旅行商品の企画販売等を行う担い手育成

小グループでの旅行が増加し、多様化・深化している観光客のニーズに対応するため、支笏湖地区の魅力を十分に理解した地元発の旅行商品づくりとそのPR活動を行う組織を支援します。

##### ◎支笏湖地区の魅力を伝える案内体制の整備

資源の保全、利用者の安全管理に正しい技量と知識を持ち、支笏湖地区の魅力を観光客に分かりやすく説明することができるガイドの育成に努めます。

また、増加傾向にある外国人観光客に対応可能な案内スタッフの配置や、案内表示の多言語化を推進するなど、外国人観光客が支笏湖地区を楽しめる体制整備を促進します。

### ④支笏湖地区の環境整備

温泉、キャンプ場、苔の洞門、ヒメマスなど支笏湖周辺の観光資源を活用している民間事業者等の円滑な事業展開を促進します。また、訪れた観光客が安心安全で快適に過ごせるよう支笏湖周辺の環境整備に努めます。

#### 戦略的な取組

##### ◎新たな泉源開発

支笏湖温泉は湯量が減少しており、新たな泉源の確保が喫緊の課題となっています。支笏湖温泉地域のホテルなどに安定した湯量を供給するため、新たな泉源を開発します。

※平成26年4月から第2泉源による配湯を開始しています。

##### ◎ヒメマスの安定供給に向けた施設の整備

ヒメマスふ化放流事業を計画的に推進し、その円滑化と防疫対策を充実させるため、老朽化した支笏湖ヒメマスふ化場の改築や関連施設を整備します。

なお、ヒメマスふ化場は平成26年12月に新設し、今後は災害で崩壊した「導水管」や「防波堤」の整備を予定しています。

- 苔の洞門のあり方の検討
- キャンプ場の環境整備
- 高速通信網の整備促進
- 解説看板・誘導案内板等の整備
- 清潔で美しい観光地づくりに向けた美化活動の促進
- ポロピナイ園地の整備

【今後の施策展開】

取組名	想定される実施主体	着手時期		前期5年間の着手の有無
		前期	後期	
◎多彩な体験メニューと商品づくり	協働	◎		○
○四季折々のイベントの魅力拡充とPR	民間	○		○
○温泉湯めぐり手形の促進	民間	○		○
○ご当地グルメの定着・普及	協働	○		○
○ヒメマスなどを活用した食の発掘等	協働		○	○
○支笏湖産ヒメマスのブランド形成	民間		○	
◎地元発旅行商品の企画販売等を行う担い手育成	協働	◎		○
◎支笏湖地区の魅力伝える案内体制の整備	協働	◎		○
◎新たな泉源開発	行政	◎		○
◎ヒメマスの安定供給に向けた施設の整備	行政	◎		○
○苔の洞門のあり方の検討	協働	○		○
○キャンプ場の環境整備	行政	○		○
○高速通信網の整備促進	民間	○		
○解説看板・誘導案内板等の整備	行政	○		
○清潔で美しい観光地づくりに向けた美化活動の促進	協働	○		○
○ポロピナイ園地の整備	行政	○		

※想定される実施主体：行政・民間・協働（行政と民間又は市民との連携）に区分

行政とは、国・北海道・千歳市・札幌広域圏組合をいう。

民間とは、民間事業者・千歳商工会議所・千歳観光連盟・その他観光関係機関・団体をいう。

市民とは、千歳市民・市民団体等をいう。

※着手時期：「前期」（5年以内）「後期」（10年以内）、◎は戦略的な取組、○はその他の取組

**※前期5年間で既に実施済みの施策は○を記載し、未着手のものは後半5年間で実施できるよう取組を進めます。**

## (2) 千歳観光をけん引する支笏湖地区の効果的な情報発信

### ①支笏湖地区の誘致宣伝活動の推進

旅行会社への商品化に向けた働き掛けや、新聞・雑誌・テレビ・ラジオなどのメディアへの露出度を上げるための活動、観光キャンペーン、広告等の誘致宣伝活動を温泉旅館組合や市内の民間事業者等との連携により推進します。

#### 戦略的な取組

#### ◎組織力を生かした誘致宣伝活動の展開

独自の誘致宣伝活動を展開し、誘客のノウハウが蓄積されている宿泊施設とそれらが加入する温泉旅館組合や、市内の民間事業者等とも連携しながら、支笏湖を始め千歳市全体のPRや商品化の働き掛けを展開していきます。

#### ○地元発旅行商品の企画販売等を行う担い手育成（再掲）

### ②支笏湖地区に特化したPRツールの充実

支笏湖地区に特化した多言語パンフレット等を整備するとともに、観光キャンペーンなどでの活用を前提としたマスコットキャラクターの開発を進めます。

#### ○多言語化によるパンフレットの作成

#### ○地域をPRするマスコットキャラクターづくり

#### 【今後の施策展開】

取組名	想定される実施主体	着手時期		前期5年間の着手の有無
		前期	後期	
◎組織力を生かした誘致宣伝活動の展開	協働	◎		○
○地元発旅行商品の企画販売等を行う担い手育成（再掲）	協働	○		○
○多言語化によるパンフレットの作成	協働	○		○
○地域をPRするマスコットキャラクターづくり	協働	○		



## 施策の柱2 観光資源の発掘と有効活用

千歳市には、支笏湖以外にも数多くの魅力ある観光資源・施設があります。

施策の柱2「観光資源の発掘と有効活用」では、いまだ顕在化していない観光資源の発掘や、観光客等に既に認知されている観光資源等の更なる有効活用に向けた取組を千歳市内外からの視点を活用しつつ推進し、千歳観光の魅力向上に努めます。

### 【現状と課題】

#### ■観光資源の発掘と魅力増進

千歳市内には、支笏湖やサケのふるさと千歳水族館、道の駅サーモンパーク千歳、アウトレットモール、観光農園、ファームレストランなど、観光の対象となる様々な資源・施設がありますが、集客には偏りがあります。

新たな観光資源の発掘や既存資源・施設の魅力増進に加え、支笏湖やアウトレットモールなど集客力のある資源と周辺の観光資源を組み合わせたメニューの構築が求められています。

また、観光客のニーズや動態は日々変化していることから、これらに対応するため、日頃から必要な情報入手に努めていくことが求められています。

#### ■滞在メニューの充実

千歳市内での回遊性を高め滞在時間を延ばすには、自然環境、農村空間、見学可能な工場などの資源を生かした滞在メニューを充実させることが必要です。

平成27年度に実施した「観光客満足度調査」では、当市の観光の特徴として日帰り客が多いというデータのほか、市内で消費する観光消費額は、宿泊を伴うものが最も高いという結果が出ており、今後は観光消費額を増加させるため、「宿泊を伴う観光客」を増加させていく必要があります。

一方、宿泊を伴わない国内観光客は、スポーツなどに費やす費用が最も多い結果も得られたことから、自然環境や雪を生かした体験型の観光やスポーツを活用した新たなスポーツツーリズムを促進することも、市内での観光消費額を増加させるための有効な取組となります。

市内では、このような体験型観光などができる施設が数多く存在していることから、現在、観光事業者との連携により、これら施設を活用したスポーツツーリズムの促進へ向けた新たな取組もスタートしています。

グリーン・ツーリズムについては、協議会など組織的な体制は整備されていますが、個々の農家における農家民泊・農業体験への受入れ体制の整備が求められています。

また、千歳市内で開催される国際大会・会議などのコンベンションについては、参加者を市内観光に誘導することも必要となります。

## ■食の魅力づくり

千歳市では、多彩な農畜産物が生産されており、特に北海道でも有数の出荷量を誇る「鶏卵」を使用して開発された「千歳バーガー」は、新たなご当地メニューとなっています。

一方、支笏湖産のヒメマスについてもブランド化する動きがあり、ヒメマスを始めこれを使用した「魚醤」の生産に取り組むなど、千歳ならではの食の魅力を展開しています。

平成27年度に実施した「観光客満足度調査」においても「食」の充実を求める声が多かったことから、今後は千歳の魅力を広くPRできる新たな誘客のツールとして「食」の在り方を検討していくことが必要となります。

## ■市内外の観光資源を結ぶ観光ルート・コースづくり

平成26年度千歳市観光入込客数調査によると、千歳市を訪れる観光客の95%が日帰り観光客です。

平成27年度に実施した「観光客満足度調査」においても日帰り客が多い結果となりました。

日帰り・通過している観光客の回遊性を高めるため、「支笏湖」「市街地」「農村」の3地区内の観光資源などを一つのテーマで結びつけたストーリー性のあるコースづくりが求められています。

さらに、千歳市は、空港から近く道央圏の中央に位置するため、交通結節点の利点を生かし広域観光の拠点を形成することが求められています。

## (1) 観光資源の発掘と魅力増進

### ①市街地の空間整備による観光の魅力向上

集客力のある道の駅の整備や千歳川の賑わい創出に向けた空間整備など、市街地地区の観光スポットとしての魅力を向上させます。

#### 戦略的な取組

##### ◎道の駅の魅力向上

道の駅利用者の利便性と満足度を高めるため、特産品などの物販・案内機能の強化や周辺の河川風景を生かした施設等を再整備し、市街地地区の更なる魅力づくりを推進します。

「道の駅サーモンパーク千歳」は、平成27年8月にリニューアルオープンし、新たな観光スポットとしての魅力を提供しています。

##### ◎千歳川の魅力向上と有効活用

支笏湖を水源とし市街地を貫流する清流千歳川は、まちの象徴となっています。

サケが遡上する川として親しまれているこの千歳川の親水性を高めるなど、市民や観光客が楽しめる空間整備を推進します。

### ① 観光資源の発掘と整理・活用

千歳市民等から新たな観光資源となり得る素材を公募するなど、観光資源の発掘や有効活用に努めるとともに、観光資源に関する情報の整理と活用を進めます。

また、観光客のニーズや動態は日々変化していることから、これらに対応するため、日頃から必要な情報入手に努めていくことが求められています。

#### 戦略的な取組

##### ◎観光資源データベースの構築と活用

千歳市内の観光資源を様々な角度で見直す資料とするため、その概要や特徴、写真・映像、開放状況などの情報をまとめたデータベースを構築します。

### ○千歳市内外から見た観光資源の発掘と活用

【今後の施策展開】

取組名	想定される実施主体	着手時期		前期5年間の着手の有無
		前期	後期	
◎道の駅の魅力向上	行政	◎		○
◎千歳川の魅力向上と有効活用	行政	◎		○
◎観光資源データベースの構築と活用	行政	◎		○
○千歳市内外から見た観光資源の発掘と活用	協働	○		○

## (2) 滞在メニューの充実

### ①グリーン・ツーリズムの促進

千歳市における農業体験の需要は、新千歳空港に近いことや教育旅行の目的が体験学習中心に変化していることなどにより、増加傾向にあります。農家民泊への対応は、施設整備などの課題もあり、大きな増加は難しい状況にあります。周辺市町村や市街地の宿泊施設などとの連携を強化するなど、教育旅行を始めとした団体の農業体験の受入れや、直売所・レストランなどのサービスの充実を促進します。

○周辺市町村との連携による農業体験等の受入れ

○個人観光客向けサービスの充実

○グリーン・ツーリズム連絡協議会との連携

○グリーン・ツーリズムの普及啓発

### ②産業観光、エコツーリズム、その他のニューツーリズムの促進

千歳市では、工場見学に代表される産業観光、自然環境を生かしたエコツーリズムや、マラソン・ゴルフを楽しむスポーツツーリズム、温泉・健康などをテーマとした様々なツーリズムが展開されています。

これらのニューツーリズムの充実を図るため、民間事業者や関係団体、宿泊施設などとの連携を強化し、多様化する観光ニーズに対応した取組を促進します。

○多様化するニューツーリズムに対応するための連携強化

### ③コンベンション機能の充実

新千歳空港を抱える千歳市には、大規模なホテルや千歳科学技術大学等のコンベンションなどを受け入れる条件が整っています。

コンベンションは、諸外国や国内他地域とのヒト、モノ、情報のハイレベルな交流を促進し、地域に最先端の情報をもたらすほか、地域のイメージアップが図られるなどの効果を生み出します。また、参加者の宿泊、飲食等の消費を通じて、地域には大きな経済効果をもたらします。

関連機関などとの連携や機能整備により、スポーツ大会・合宿を含めたコンベンションの受入れ環境の充実に努め、コンベンションなどの参加者を市内観光に誘導し、観光による消費を促します。

○コンベンションなどの受入れ環境の充実

○アフターコンベンションの充実

【今後の施策展開】

取組名	想定される実施主体	着手時期		前期5年間の着手の有無
		前期	後期	
○周辺市町村との連携による農業体験等の受入れ	協働	○		○
○個人観光客向けサービスの充実	民間	○		○
○グリーン・ツーリズム連絡協議会との連携	協働	○		○
○グリーン・ツーリズムの普及啓発	協働	○		○
○多様化するニューツーリズムに対応するための連携強化	協働		○	○
○コンベンションなどの受入れ環境の充実	協働	○		
○アフターコンベンションの充実	協働		○	

### (3) 食の魅力づくり

#### ①地域に根ざした食材やメニューの発掘と活用

地域の観光の魅力を考える際に、食の魅力は重要なテーマとなっています。

千歳市の農村地区では、小麦、てん菜、大豆、牛乳、鶏卵などの農畜産物が生産されているほか、駒里地区では地域振興策の一つとしてそばの栽培が行われています。

小豆、牛乳、ハスカップ、鶏卵は石狩管内で最も農業生産額が大きく、特にこの鶏卵を使用して開発された「千歳バーガー」は、千歳の新たな食の魅力となっています。

このほかにも支笏湖産ヒメマスやこれを使用した「魚醤」などのブランド化に取り組んでいます。

今後はこれらの地域の農畜産物を活用した新たなメニューの開発を生産者や飲食店、学校などと連携し進めていきます。また、既存メニューや特産品などのPRと販売を促進します。

#### 戦略的な取組

##### ◎千歳ならではの食の発掘とPR

千歳ならではの食材としては、支笏湖産のヒメマス（チップ）や、ハスカップなどがあります。行政や観光事業者などとの連携により、これらの食材を活用した新たなメニュー開発とPRを進めるとともに、市民からのレシピ募集を行うなど、様々な形でメニュー化に向けた活動を進めます。

#### 【今後の施策展開】

取組名	想定される実施主体	着手時期		前期5年間での着手の有無
		前期	後期	
◎千歳ならではの食の発掘とPR	協働	◎		○

#### (4) 市内外の観光資源を結ぶ観光ルート・コースづくり

##### ①市域内の回遊性向上を意識した多彩な観光モデルコースの設定

千歳市内の観光地は、「支笏湖地区」「市街地地区」「農村地区」の大きく3つに分かれており、それぞれに異なる魅力と集客力のある施設等があります。千歳の歴史やストーリー性に着目し、「支笏湖+市街地」、「農村+市街地」といった各地区をつなぐ観光コースを設定するなど、市域内での回遊性の向上を図ります。

また、千歳市を通過するドライブ客や買い物客、市街地の宿泊客、新千歳空港の乗換え客などが短時間で楽しめるメニューを充実させることで、滞在時間と消費額の拡大を図ります。

#### 戦略的な取組

##### ◎地元発旅行商品の企画開発に向けた組織づくり

市内3地区のそれぞれの魅力や観光メニューを生かしたルートを設定するとともに、観光コースを商品化できる組織の育成に努めます。

○千歳の歴史やストーリー性に着目した多彩なコースづくり

○市街地を散策するコースづくり

##### ②交通アクセスや宿泊施設集積などの優位性を生かした広域観光ルートづくり

新千歳空港を起点にすると、札幌・小樽方面、旭川・富良野方面、日高方面まで日帰り観光のルートを形成することができます。同様に、支笏湖を起点にすると、登別・洞爺湖方面、ニセコ方面までのルートを形成できます。さらに、道東自動車道が開通すると帯広方面も日帰り観光圏内となります。このように、千歳市を起点に道内市町村の観光地と連携したコースづくりを行い、広域観光の拠点を形成します。

○空港や支笏湖を起点とした広域観光ルートづくり

○道内市町村と連携した広域観光への対応

##### ③観光資源間の連動性向上

北海道内外からの千歳市への交通アクセスは、航空路線網（羽田空港発着枠の拡大に伴う便数増加、格安航空会社の就航など）や高速道路網の整備、平成28年3月に開業した北海道新幹線などによるJRの利用などにより、今後ますます向上することが期待されます。

その一方で、千歳市内の観光地間の移動、特に支笏湖－市街地－農村地区の移動に関しては、バスなど公共交通機関だけでは困難であり、自家用車やレンタカーが中心となっています。



観光客の回遊を促すために、千歳市内の観光地点を結ぶバス路線の確保（イベント開催時の増便や臨時便を含む。）や、観光タクシー・レンタサイクルといった移動手段の整備など、観光資源間の連動を円滑にする取組を促進します。

○観光資源間の移動の円滑化に向けた取組の促進

【今後の施策展開】

取組名	想定される実施主体	着手時期		前期5年間の着手の有無
		前期	後期	
◎地元発旅行商品の企画開発に向けた組織づくり	協働	◎		○
○千歳の歴史やストーリー性に着目した多彩なコースづくり	協働	○		○
○市街地を散策するコースづくり	協働	○		○
○空港や支笏湖を起点とした広域観光ルートづくり	協働	○		○
○道内市町村と連携した広域観光への対応	協働	○		○
○観光資源間の移動の円滑化に向けた取組の促進	協働	○		

## 施策の柱3 観光まちづくりとおもてなし意識の向上

人口減少社会が到来し、観光客数の増加に向けたリピーターの確保や外国人観光客の誘致が、これまで以上に重要となっています。

施策の柱3「観光まちづくりとおもてなし意識の向上」では、今後も増加が予想される外国人観光客を始め、イベントやスポーツ大会・合宿に参加する選手など千歳市を訪れる人に対するおもてなし意識の向上を図るため、民間事業者のサービスの向上を促進するとともに、観光案内所の機能を強化します。また、「観光まちづくり」に寄与する人材を育成するため、観光客を受け入れる民間事業者や市民などに対して、市内の観光資源の魅力や素晴らしさを広く周知し、観光都市としての認識を普及させる取組を推進します。

### 【現状と課題】

#### ■観光案内機能の強化

通過・日帰り観光客の多い千歳市にとって、滞在時間を延ばし消費の拡大を図ることは重要な課題となっています。市内での回遊を促し滞在時間を延長するには、観光案内所等における外国人にも対応した適切な情報提供など、観光案内機能を強化する必要があります。

#### ■民間事業者のサービス向上

千歳市を訪れる観光客の満足度を高めるためには、観光客を応対する民間事業者のサービス向上が欠かせません。現状を把握するための満足度調査の実施や民間事業者への観光知識の普及などの活動を通じて、サービスの向上につなげていくことが求められています。

平成27年度に実施した「観光客満足度調査」において、国内客からは「宿泊施設や体験施設での接客」について期待度以上に満足度が高いという結果が得られたことから、今後もこれら観光客がリピーターとなるためのサービスを続けていくことが重要となります。

#### ■市民のおもてなし意識の醸成

観光客を温かく迎え入れるためのおもてなしの意識は、民間事業者だけでなく、市民にも求められています。また、観光客は、地域の生活文化に触れ合うことや地域資源に精通した地元住民などによるガイドを必要としています。

市民が観光まちづくりに積極的に携わることは、自分たちのまちを見直す機会になるばかりでなく、これまで観光資源として取り上げてこなかった自分たちのまちの資源を発掘・再発見することにもつながります。

## ■外国人観光客に対応した受入れ体制の整備

北海道における観光客の入込み状況を見ると、国内からの観光客数は頭打ち状態にあり、外国人観光客、特に、中国や台湾を始めとするアジアや東南アジア圏からの観光客の増加が目立っています。

千歳市においても、同様に外国人観光客が増加しており、新千歳空港の深夜早朝発着枠が拡大したこともあって、この傾向は今後も続くと予想されます。

特に市内の複数の宿泊施設では、今後施設を増築・増床する予定もあり、増加する外国人観光客に対応する動きも出ています。

また、国では、新たな宿泊施設の提供手段として「民泊」の普及を進めていることから、当市も「民泊」について情報収集を進めていく必要があります。

一方、外国人観光客が増加していることを受け、各観光施設においては、多言語表示の案内標識を整備する動きもあり、今後は外国人観光客の利便性を高めるため、外国語表記・ピクトグラム（絵文字）の案内看板等の整備をより促進することや、Wi-Fi環境の整備について検討していく必要があります。

## (1) 観光案内機能の強化

### ①各地点での情報提供の充実

観光情報の提供は、観光客が集まる施設等で行うことが基本となっています。多くの観光客が訪れる新千歳空港や道の駅などでの情報提供の充実を図ります。

#### 戦略的な取組

#### ◎観光客の出発・立寄り地点における情報提供の充実

観光客の出発地点（新千歳空港・レンタカー営業所）や主な立寄り地点（道の駅・アウトレットモール）などにおける情報提供の充実を図り、市内の回遊性の向上を促します。

### ②観光案内所での外国語対応の強化

今後も増加が予想される外国人観光客に対応するため、各観光案内所における外国語による案内機能を強化します。

#### 戦略的な取組

#### ◎各観光案内所への外国語対応スタッフの配置

外国人観光客の利便性の向上を図るため、観光案内所に外国語で案内ができる人材の配置を促進します。

#### 【今後の施策展開】

取組名	想定される実施主体	着手時期		前期5年間での着手の有無
		前期	後期	
◎観光客の出発・立寄り地点における情報提供の充実	協働	◎		○
◎各観光案内所への外国語対応スタッフの配置	協働	◎		○

## (2) 民間事業者のサービス向上

### ① 接遇面における観光客の満足度向上

リピーターを確保するには、観光客の満足度を高める仕組みづくりが必要となります。

観光客満足度等の定期的な把握や民間事業者に対する観光知識の普及などサービス向上に向けた取組を促進します。

#### 戦略的な取組

##### ◎ 定期的な満足度調査の実施と事業者へのフィードバック

千歳市を訪れる観光客に対して、観光地やサービスに関する満足度等調査を定期的実施し、調査結果を事業者にフィードバックすることにより、サービス内容の改善を促進します。

- 市内宿泊施設や飲食店等との連携強化
- 民間事業者を対象とした観光知識の普及
- イベント参加者などに対するおもてなし意識の向上

#### 【今後の施策展開】

取組名	想定される実施主体	着手時期		前期5年間での着手の有無
		前期	後期	
◎ 定期的な満足度調査の実施と事業者へのフィードバック	行政	◎		○
○ 市内宿泊施設や飲食店等との連携強化	協働	○		○
○ 民間事業者を対象とした観光知識の普及	協働		○	○
○ イベント参加者などに対するおもてなし意識の向上	協働	○		○

### (3) 市民のおもてなし意識の醸成

#### ① 「観光まちづくり」に寄与する人材の育成

観光によるまちづくりを推進するには、市民参加が欠かせないことから、市民の活躍の場の創出と、観光客を温かく迎え入れ、市内観光をサポートする人材の育成を推進します。

#### 戦略的な取組

##### ◎観光ガイドの育成と仕組みづくり

千歳市を訪れる観光客を案内する観光ガイドを育成するため、ガイド研修やマニュアルの作成、観光ガイドが活躍する仕組みづくりなどを検討します。

○清潔で美しい観光地づくり

○千歳の歴史や自然環境について理解を深める制度の検討

#### 【今後の施策展開】

取組名	想定される実施主体	着手時期		前期5年間での着手の有無
		前期	後期	
◎観光ガイドの育成と仕組みづくり	協働	◎		
○清潔で美しい観光地づくり	協働	○		○
○千歳の歴史や自然環境について理解を深める制度の検討	協働	○		○

#### (4) 外国人観光客に対応した受入れ体制の整備

##### ①外国人観光客の受入れ体制の整備と利便性の向上

語学・おもてなし研修の開催による外国人対応の強化、看板や通訳体制の整備、海外発行クレジットカードの取扱い店舗の普及促進など、宿泊施設や観光案内所等における外国人観光客の利便性の向上を図ります。

また、新たな宿泊手段の一つとしての「民泊」についての情報収集を進めます。

#### 戦略的な取組

##### ◎外国人観光客の受入れ環境の充実に向けた組織づくり

増加傾向にある外国人観光客の受入れ促進に当たり、課題や対応策を検討する場となる組織を設置します。観光に関連する団体や事業者などとの検討の場を設けることにより、効果的な事業を推進します。

- 語学研修や外国人対応セミナーの開催
- PRツールやメニュー表などの多言語化
- 外国人観光客に対応した案内看板等の整備
- 交通機関における多言語案内
- 外国人観光客に対する通訳体制の整備促進
- 海外発行クレジットカード等の利用可能店舗の拡充
- 「民泊」など新たな宿泊手段についての情報収集
- 高速通信網の整備促進（再掲）

##### ②観光案内所での外国語対応の強化（再掲）

今後も増加が予想される外国人観光客に対応するため、各観光案内所における外国語による案内機能を強化します。

- 各観光案内所への外国語対応スタッフの配置（再掲）

#### 【今後の施策展開】

取組名	想定される実施主体	着手時期		前期5年間での着手の有無
		前期	後期	
◎外国人観光客の受入れ環境の充実に向けた組織づくり	協働	◎		○
○語学研修や外国人対応セミナーの開催	協働	○		○
○PRツールやメニュー表などの多言語化	協働	○		○
○外国人観光客に対応した案内看板等の整備	協働	○		

○交通機関における多言語案内	協働	○		○
○外国人観光客に対する通訳体制の整備促進	協働	○		
○海外発行クレジットカード等の利用可能店舗の拡充	協働	○		
<u>○「民泊」など新たな宿泊手段についての情報収集</u>	<u>協働</u>		<u>○</u>	
<u>○高速通信網の整備促進（再掲）</u>	<u>民間</u>	<u>○</u>		○
○各観光案内所への外国語対応スタッフの配置（再掲）	協働	○		○



## 施策の柱4 魅力を効果的に伝える情報発信の継続的な実施

観光地としての魅力を高めても、その魅力が観光客に伝わらなければ集客にはつながりません。

施策の柱4「魅力を効果的に伝える情報発信の継続的な実施」では、千歳観光の魅力を効果的に伝えるため、パンフレットやDVDなど観光PRツールの充実を図ります。

また、ホームページ・メール等を活用したメディア、映画製作会社などへの情報提供や、国内外各地で行われる観光物産展や商談会への参加を促進するなど、様々な場面・手法を活用し、関係団体等と連携した継続的な情報発信・提供に努め、観光客の来訪を促します。

### 【現状と課題】

#### ■情報提供ツールの整備

千歳市には、多くの観光資源・施設がありますが、観光客にその魅力が十分に伝わっていません

観光資源・施設の魅力を効果的に伝えるには、パンフレットやホームページを充実させるとともに、写真や映像を積極的に活用したPRを進める必要があります。

また、平成27年度に実施した「観光客満足度調査」では、千歳市の観光促進に必要な環境整備としての設問において、国内客にとっては、「情報発信の強化」が最も必要であるとの結果が得られたことから、これまでの取組を継続して進めるとともに、あらゆる手段や機会を通じて千歳の魅力を広く伝えるための活動を進めていく必要があります。

#### ■多様な手段による千歳観光のPR

多くの人に千歳観光の魅力を伝えるには、パンフレット類の配布やホームページの活用など従来の取組を継続しながら、様々な場面や手法を用いて情報発信を行っていくことが求められています。今後は、より多くの民間事業者が、国内外の旅行博などに参加する機会を増やすとともに、観光客や市民がブログなどを通して情報発信を行うための環境整備も必要となります。

また、映画やドラマ、テレビコマーシャルなどのロケを誘致することは、撮影隊がもたらす経済効果や作品を通じた市のPR効果が期待できます。

ロケ誘致に関する取組としては、道内の自治体などが会員となっているジャパン・フィルムコミッション北海道ブロックを中心に、千歳観光連盟と連携しながら映像製作会社からの問合せや相談を始め、関係機関との連絡調整やロケハン同行などの支援を行っていますが、更なるロケ誘致を推進するため、これらの団体と連携を深めるなど現行の体制を強化するとともに、観光ホームページやDVDなどを充実し、積極的な情報提供に努める必要があります。

これらの取組は、行政や市内各観光事業者などが一体となり効果的に進めていく必要があります。

## (1) 情報提供ツールの整備

### ①観光パンフレット・DVDなどのPRツールの充実

市内の魅力を網羅した観光パンフレット、ホームページ、DVD、観光マップなどのPRツールの充実を図ります。パンフレット等の作成に当たっては、外国人観光客に対応するため多言語化することを基本とします。

#### 戦略的な取組

#### ◎PR用DVDやフォトライブラリーの整備

PR用の動画を集めたDVDや、雑誌社・新聞社等に提供する写真を集めたフォトライブラリーを整備します。PR用のDVDは、観光客向けの映像に加えて、映画などのロケを誘致することを視野に入れた内容で製作します。

○パンフレット類の内容・種類の充実

○市ホームページの内容の充実

#### 【今後の施策展開】

取組名	想定される実施主体	着手時期		前期5年間の着手の有無
		前期	後期	
◎PR用DVDやフォトライブラリーの整備	協働	◎		○
○パンフレット類の内容・種類の充実	協働	○		○
○市ホームページの内容の充実	行政	○		○

## (2) 多様な手段による千歳観光のPR

### ①千歳観光の効果的なPR

観光客の来訪やスポーツ合宿、ロケ誘致を促すため、継続的な情報提供とブログや口コミなど新しいツールを活用した情報発信の促進など、各種媒体を活用したPRに努めます。

また、来訪した観光客の回遊性を高めるため、案内所機能等の充実に努めるとともに、観光客の出発・立寄り地点を活用し、効果的な情報提供を推進します。

○メディアや旅行者、旅行会社などへの継続的な情報発信

○定期的な情報更新と情報提供の工夫

○ブログ、口コミ情報などを活用した情報発信

○イベントなどを活用した情報発信

### ②誘致宣伝活動の強化

国内外からの誘客を促すため、民間事業者による旅行博及び商談会への参加や、旅行会社・雑誌社等のメディア関係者の招へいなどの誘致宣伝活動を関係機関・団体と連携し促進します。

#### 戦略的な取組

#### ◎国内外で開催される観光物産展・商談会等への**参加と支援**

海外を含めた各地で開催される旅行博や商談会、物産展などに関する情報収集を行うとともに、行政や市内各事業者などが連携して積極的に参加し、活発な誘致宣伝活動を促進します。

○国内外の旅行会社やメディア関係者の招へい事業の促進

【今後の施策展開】

取組名	想定される実施主体	着手時期		前期5年間の着手の有無
		前期	後期	
○メディアや旅行者、旅行会社などへの継続的な情報発信	協働	○		○
○定期的な情報更新と情報提供の工夫	協働	○		○
○ブログ、口コミ情報などを活用した情報発信	協働	○		○
○イベントなどを活用した情報発信	協働	○		○
◎国内外で開催される観光物産展・商談会等への参加・支援	協働	◎		○
○国内外の旅行会社やメディア関係者の招へい事業の促進	協働	○		○

#### 4. 千歳市観光振興計画の施策一覧表

##### 施策の柱1：支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと情報発信

施策展開	取組名	想定される実施主体	着手時期		前期5年間の着手の有無
			前期	後期	
(1) 支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと環境整備					
①支笏湖地区の自然の魅力を体感する機会の提供	◎多彩な体験メニューと商品づくり	協働	◎		○
	○四季折々のイベントの魅力拡充とPR	民間	○		○
	○温泉湯めぐり手形の促進	民間	○		○
②支笏湖地区の地域資源を生かした食の魅力向上	○ご当地グルメの定着・普及	協働	○		○
	○ヒメマスなどを活用した食の発掘等	協働		○	○
	○支笏湖産ヒメマスのブランド形成	民間		○	
③支笏湖地区の受入れ体制の充実	◎地元発旅行商品の企画販売等を行う担い手育成	協働	◎		○
	◎支笏湖地区の魅力を伝える案内体制の整備	協働	◎		○
④支笏湖地区の環境整備	◎新たな泉源開発	行政	◎		○
	◎ヒメマスの安定供給に向けた施設の整備	行政	◎		○
	○苔の洞門のあり方の検討	協働	○		○
	○キャンプ場の環境整備	行政	○		○
	○高速通信網の整備促進	民間	○		
	○解説看板・誘導案内板等の整備	行政	○		
	○清潔で美しい観光地づくりに向けた美化活動の促進	協働	○		○
○ポロピナイ園地の整備	行政	○			

施策展開	取組名	想定される実施主体	着手時期		前期5年間の着手の有無
			前期	後期	
(2) 千歳観光をけん引する支笏湖地区の効果的な情報発信					
①支笏湖地区の誘致 宣伝活動の推進	◎組織力を生かした誘致宣伝活動の展開	協働	◎		○
	○地元発旅行商品の企画販売等を行う担い手育成(再掲)	協働	○		○
②支笏湖地区に特化したPRツールの充実	○多言語化によるパンフレットの作成	協働	○		○
	○地域をPRするマスコットキャラクターづくり	協働	○		

## 施策の柱2：観光資源の発掘と有効活用

施策展開	取組名	想定される実施主体	着手時期		前期5年間の着手の有無
			前期	後期	
(1) 観光資源の発掘と魅力増進					
①市街地の空間整備による観光の魅力向上	◎道の駅の魅力向上	行政	◎		○
	◎千歳川の魅力向上と有効活用	行政	◎		○
②観光資源の発掘と整理・活用	◎観光資源データベースの構築と活用	行政	◎		○
	○千歳市内外から見た観光資源の発掘と活用	協働	○		○
(2) 滞在メニューの充実					
①グリーン・ツーリズムの促進	○周辺市町村との連携による農業体験等の受入れ	協働	○		○
	○個人観光客向けサービスの充実	民間	○		○
	○グリーン・ツーリズム連絡協議会との連携	協働	○		○
	○グリーン・ツーリズムの普及啓発	協働	○		○
②産業観光、エコツーリズム、その他のニューツーリズムの促進	○多様化するニューツーリズムに対応するための連携強化	協働		○	○

施策展開	取組名	想定される実施主体	着手時期		前期5年間の着手の有無
			前期	後期	
(2) 滞在メニューの充実					
③コンベンション機能の充実	○コンベンションなどの受入れ環境の充実	協働	○		
	○アフターコンベンションの充実	協働		○	
(3) 食の魅力づくり					
①地域に根ざした食材やメニューの発掘と活用	◎千歳ならではの食の発掘とPR	協働	◎		○
(4) 市内外の観光資源を結ぶ観光ルート・コースづくり					
①市域内の回遊性向上を意識した多彩な観光モデルコースの設定	◎地元発旅行商品の企画開発に向けた組織づくり	協働	◎		○
	○千歳の歴史やストーリー性に着目した多彩なコースづくり	協働	○		○
	○市街地を散策するコースづくり	協働	○		○
②交通アクセスや宿泊施設集積などの優位性を生かした広域観光ルートづくり	○空港や支笏湖を起点とした広域観光ルートづくり	協働	○		○
	○道内市町村と連携した広域観光への対応	協働	○		○
③観光資源間の連動性向上	○観光資源間の移動の円滑化に向けた取組の促進	協働	○		

### 施策の柱3：観光まちづくりとおもてなし意識の向上

施策展開	取組名	想定される実施主体	着手時期		前期5年間の着手の有無
			前期	後期	
<b>(1) 観光案内機能の強化</b>					
①各地点での情報提供の充実	◎観光客の出発・立寄り地点における情報提供の充実	協働	◎		○
②観光案内所での外国語対応の強化	◎各観光案内所への外国語対応スタッフの配置	協働	◎		○
<b>(2) 民間事業者のサービス向上</b>					
①接遇面における観光客の満足度向上	◎定期的な満足度調査の実施と事業者へのフィードバック	行政	◎		○
	○市内宿泊施設や飲食店等との連携強化	協働	○		○
	○民間事業者を対象とした観光知識の普及	協働		○	○
	○イベント参加者などに対するおもてなし意識の向上	協働	○		○
<b>(3) 市民のおもてなし意識の醸成</b>					
①「観光まちづくり」に寄与する人材の育成	◎観光ガイドの育成と仕組みづくり	協働	◎		
	○清潔で美しい観光地づくり	協働	○		○
	○千歳の歴史や自然環境について理解を深める制度の検討	協働	○		○
<b>(4) 外国人観光客に対応した受入れ体制の充実</b>					
①外国人観光客の受入れ体制の整備と利便性の向上	◎外国人観光客の受入れ環境の充実に向けた組織づくり	協働	◎		○
	○語学研修や外国人対応セミナーの開催	協働	○		○
	○PRツールやメニュー表などの多言語化	協働	○		○
	○外国人観光客に対応した案内看板等の整備	協働	○		
	○交通機関における多言語案内	協働	○		○



施策展開	取組名	想定される実施主体	着手時期		前期5年間の着手の有無
			前期	後期	
<b>(4) 外国人観光客に対応した受入れ体制の充実</b>					
①外国人観光客の受入れ体制の整備と利便性の向上	○外国人観光客に対する通訳体制の整備促進	協働	○		
	○海外発行クレジットカード等の利用可能店舗の拡充	協働	○		
	<u>○「民泊」など新たな宿泊手段についての情報収集</u>	<u>協働</u>		<u>○</u>	
	<u>○高速通信網の整備促進(再掲)</u>	<u>民間</u>	<u>○</u>		○
②観光案内所での外国語対応の強化(再掲)	○各観光案内所への外国語対応スタッフの配置(再掲)	協働	○		○

#### 施策の柱4：魅力を効果的に伝える情報発信の継続的な実施

施策展開	取組名	想定される実施主体	着手時期		前期5年間の着手の有無
			前期	後期	
<b>(1) 情報提供ツールの整備</b>					
①観光パンフレット・DVDなどのPRツールの充実	◎PR用DVDやフォトライブラリーの整備	協働	◎		○
	○パンフレット類の内容・種類の充実	協働	○		○
	○市ホームページの内容の充実	行政	○		○
<b>(2) 多様な手段による千歳観光のPR</b>					
①千歳観光の効果的なPR	○メディアや旅行者、旅行会社などへの継続的な情報発信	協働	○		○
	○定期的な情報更新と情報提供の工夫	協働	○		○
	○ブログ、口コミ情報などを活用した情報発信	協働	○		○
	○イベントなどを活用した情報発信	協働	○		○

施策展開	取組名	想定される実施主体	着手時期		前期5年間の着手の有無
			前期	後期	
(2) 多様な手段による千歳観光のPR					
②誘致宣伝活動の強化	◎国内外で開催される観光物産展・商談会等への <u>参加・支援</u>	協働	◎		○
	○国内外の旅行会社やメディア関係者の招へい事業の促進	協働	○		○